
男女共同参画に関する市民アンケート調査
集計結果報告書

平成 19 年 3 月

調査結果の概要

フェイスシート

①居住地

高崎市の人口割合とほぼ同様。

②性別

「女性」が約 6 割、「男性」が約 4 割。

③年齢

「65 歳以上」と「50 代」が 2 割以上で比較的多い。他の年代も 1 割程度以上。

④職業

「会社員（常勤）」（25.0%）が最も多い。「専業主婦」（18.7%）、「パート・アルバイト等」（16.2%）、「無職」（15.0%）も比較的多い。

⑤結婚の有無

「既婚」が約 7 割（70.1%）。「離婚・死別」（7.9%）を含めると約 8 割が結婚を経験。

⑥共働きの有無

「共働きしている」（44.2%）と「共働きしていない」（42.3%）が半々。

⑦家族構成

「親・子（二世代）」（50.6%）が 5 割以上。「夫婦」（23.3%）も比較的多い。

⑧子どもの性別

「女の子と男の子」（35.7%）が多く、「男の子だけ」「女の子だけ」がともにほぼ 2 割程度。

問 1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(SA)

男女ともに生活の中のあらゆる場面で男性のほうが比較的優遇されていると認識しており、その傾向は女性により顕著。その中で、「学校の中で」は平等であると認識されている。

問 2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA)

男性は「同感する」が約 6 割、「同感しない」が約 4 割、女性は「同感する」「同感しない」がほぼ半々。

問 3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。(SA)

夫は「生活費を得る」、妻は「炊事・洗濯・掃除」「家計の管理」が主な役割として認識されている。一方、「不動産などの高価な買い物」「子どものしつけや教育」「老後の世話」「近所づきあいや地域・PTA 活動等へ参加する」は夫婦共同の役割として認識されている。

問 4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)

約 7 割が「結婚は、形式等にこだわらなくてもよい」と考えている。しかし、男性は「結婚したほうがよい」、女性は「経済的に自立できればあえて結婚しなくてもよい」の値も比較的高い。年齢では「50 歳以上」に上記の男性的な考えが比較的多い。

問5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA)

子どもの性別に関わりなく、「4年制大学」程度の教育を受けさせたいと考える傾向が大勢。しかしその中で、男性は「女の子」よりも「男の子」により高度な教育を受けさせたいと考える傾向が比較的強く見られる。

問6 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何だと思いますか。(3択)

「法律や制度上の見直し」が過半数を占める。「男性の家事参加」や「さまざまな偏見等を改める」「女性の就業等サービスの充実」も強く求められている。

問7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」がありますか。(SA)

全ての項目において「した」「受けた」とともに「ない」が約8割。しかしその中で、「平手で打つ等」「何を言っても長時間無視」の2項目は「した」「受けた」とともに1割以上見られる。

問8 パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思いますか。(3択)

「被害者の安全場所の提供」の値が最も高く、「女性」「30代」「50代」では5割以上を占める。また、「被害者の相談窓口」「被害者への法的援助」「人権教育の充実」も有効であると認識されている。

問9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)

「子どもが生まれたらいったん辞め、成長後に再就業」が5割以上。女性が職業を持つことについて、性別や年齢による大きな差異はないが、60歳以上については、仕事よりも家庭や育児を重視すべきであるとする認識が若干うかがえる。

問10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)

男女とも「家庭内の問題」、「育児の問題」の2項目の値が高い。また、「労働条件の問題」の値も比較的高い。

問11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。(SA)

性別や年齢に関わらず、第一義的には「生活のため」があげられるものの、この傾向は「男性」「若年層」に特に顕著であり、「女性」「中高齢者」は「ゆとり」や「生きがい」も比較的重視。

問12 あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。(MA)

職場における性別による格差はあまり認識されていないが、「パートの待遇」については、比較的認識されており、特に「パート・アルバイト等」の従事者の割合が高い「女性」「40代」が問題視している。

問 13 あなたに育児や介護が必要な家族がいた場合、法律や社内規定で定められた休業制度を利用しようと思いますか。(SA)

意向を含めた休業制度の利用は 6 割程度にとどまり、特に「男性」と「30 代」「40 代」が「利用しない、利用できない」と認識。

問 14 休業制度を利用しない・できない理由は何ですか。(3 択)

男性は、「職場に休める雰囲気ない」「経済的に生活が成り立たない」「仕事の代わりがない」の 3 項目、女性はこれに加えて「制度があるか分からない」「一度休むと元の仕事に戻れない」の値も高い。

**問 15 性的いやがらせ（セクシュアルハラスメント）及びそれに関することについてうかがいます。
あなたの職場で下に掲げるような行為が、過去 1 年以内にありましたか（見聞きしたものを含めて）。(MA)**

「過去 1 年以内にない」が 5 割以上を占め、具体的な内容を示した項目はいずれも 1 割程度からそれ以下。その中で、「容姿や年齢等を話題にする」「性的な話・質問をする」「不必要に体を触る」の 3 項目における「18～29 歳」、「私生活を質問・話題にする」における「30 代」の値が比較的高い。

問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。(MA)

男女とも「企業が自主的に進出を促す計画を策定」が約 5 割で最も高い。また、「行政が庁内で自主的に進出を促す計画を策定」、「企業が割当制を設ける」、「行政が割当制を設ける」の値も効果的と認識されている。

問 17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付けることが望ましいと思いますか。(SA)

性別や年齢を問わず「男性の位置付け」は「仕事」、「女性の位置付け」は「家庭・地域」がより重視されているが、上記の「女性の位置付け」については男性の意識がより顕著。

問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)

「参加していない」が最も高い値を示し、これに「趣味・スポーツ・芸術などの活動」が続く。この 2 項目以外はいずれも 2 割に満たない。その中で「65 歳以上」は比較적さまざまな活動に参加している。

問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA)

「趣味や知識を広げて楽しく暮らしたい」の値が約 5 割を占める。「老後もできるだけ仕事」の値も比較的高い。

問 20 女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。(3 択)

「女性に多い疾病予防対策」が 7 割以上。「健康相談対応」や「女性外来の充実」も 5 割以上の高い値を示し、「母子保健サービス充実」も比較的高い。

また、全体傾向では高い値を示さないが、「性感染症に関する対策」における「18～29 歳」の値が比較的高い。

問 21 「男女共同参画社会の実現」に向けて、高崎市は、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(3 択)

「介護制度の充実」が 5 割以上で最も高い。「保育サービス等」、「家庭の子育て支援」も比較的高い。また、「男女平等教育の推進」の値も 2 割程度見られる。

「男女平等教育の推進」は性別や年齢による大きな差異は見られない。

問 22 現在、高崎市が行っている下記の取り組みのうち、あなたが知っている取り組み。(MA)

「地域子育て支援センター事業」が最も高い値を示し、これに「家庭児童相談事業」、「高崎市男女共同参画計画」が続く。これら 3 項目以外はいずれも 1 割程度以下。

また、ほとんどの項目において「65 歳以上」の認知度が比較的高い。

目次

調査概要	1
フェイスシート	2
①あなたの住んでいる地区は?	2
②あなたの性別は?	3
③あなたの年齢は?	3
④あなたの職業は?	4
⑤あなたは結婚していますか?	4
⑥あなたは共働きですか?	4
⑦あなたの家族構成は?	5
⑧あなたのお子さんは?	5
1. 家庭や教育に関することについて	7
問1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(SA)	7
問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA)	12
問3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。	14
問4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)	20
問5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA)	23
問6 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何だと思いますか。(3 択)	26
問7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」 がありますか。(SA)	28
問8 パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思いますか。(3 択)	35
2. 労働や社会参画に関することについて	37
問9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)	37
問10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)	39
問11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。(SA)	41
問12 あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。(MA)	43
問13 あなたに育児や介護が必要な家族がいた場合、法律や社内規定で定められた休業制度を利用しようと 思いますか。(SA)	45
問14 休業制度を利用しない・できない理由は何ですか。(3 択)	47
問15 性的いやがらせ（セクシュアルハラスメント）及びそれに関することについてうかがいます。	49
問16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組.....	51
問17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付ける	53
問18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)	56

3. 健康や福祉に関することについて	58
問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA)	58
問 20 女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。(3 択)	60
4. 男女共同参画社会の実現に向けた行政の取り組みについて	62
問 21 「男女共同参画社会の実現」に向けて、高崎市は、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。 (3 択)	62
問 22 現在、高崎市が行っている下記の取り組みのうち、あなたが知っている取り組み。(MA)	65
5. 前回調査や国の調査等との比較	67
問 1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(SA)	67
問 2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA)	68
問 3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。(SA)	69
問 4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)	70
問 5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA)	71
問 7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」 がありますか。(SA)	72
問 9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)	73
問 10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)	74
問 11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。(SA)	75
問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効 果的だと思いますか。(MA)	76
問 17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付けること が望ましいと思いますか。(SA)	78
問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)	79
問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA)	80
6. 「その他」の記述内容・自由記入	81

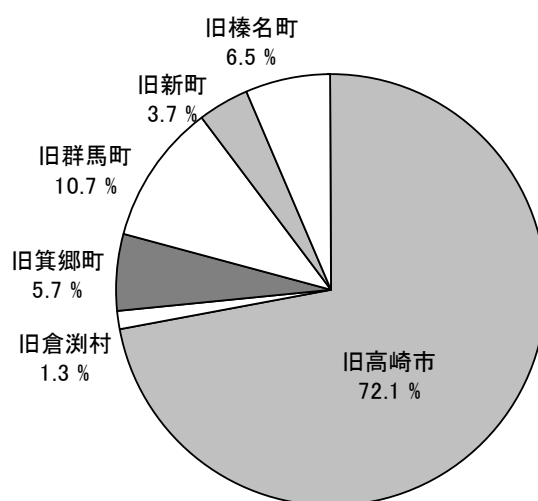
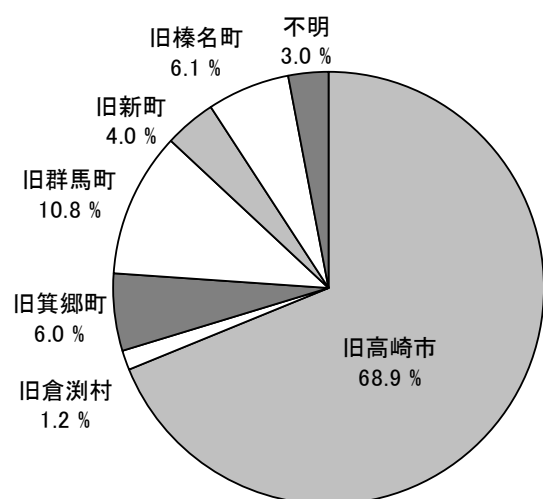
※：集計結果における割合（％）の数値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示しています。そのため、内訳と合計が一致しない場合があります。

調査概要

1. 調査名称 男女共同参画に関する市民アンケート調査
2. 調査目的 男女共同参画に関する意識と実態を総合的に把握し、(仮称)新高崎市男女共同参画計画策定のための基礎資料とする
3. 調査対象 高崎市在住の満 18 歳以上の男女 5,000 人 (男性 2,500 人・女性 2,500 人)
4. 調査方法 上記対象者を無作為抽出し、調査票を郵送配布・回収
(回収にあたり、全対象者に再度のお願いとお礼のハガキ送付)
5. 調査期間 平成 18 年 11 月 15 日～30 日
6. 有効回答 2,422 件
7. 有効回収率 48.4%

フェイスシート

①あなたの住んでいる地区は？

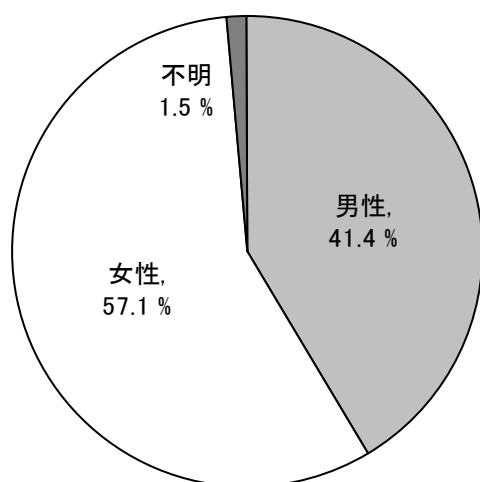


①あなたの住んでいる地区は？(SA)

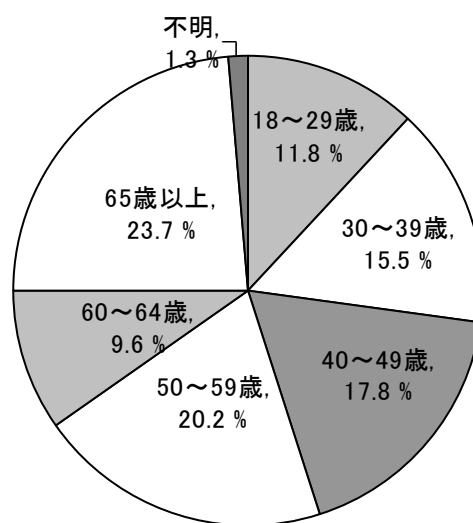
参考値: 高崎市の人口
(平成 19 年 1 月 1 日現在 高崎市 HP より)

②あなたの性別は？

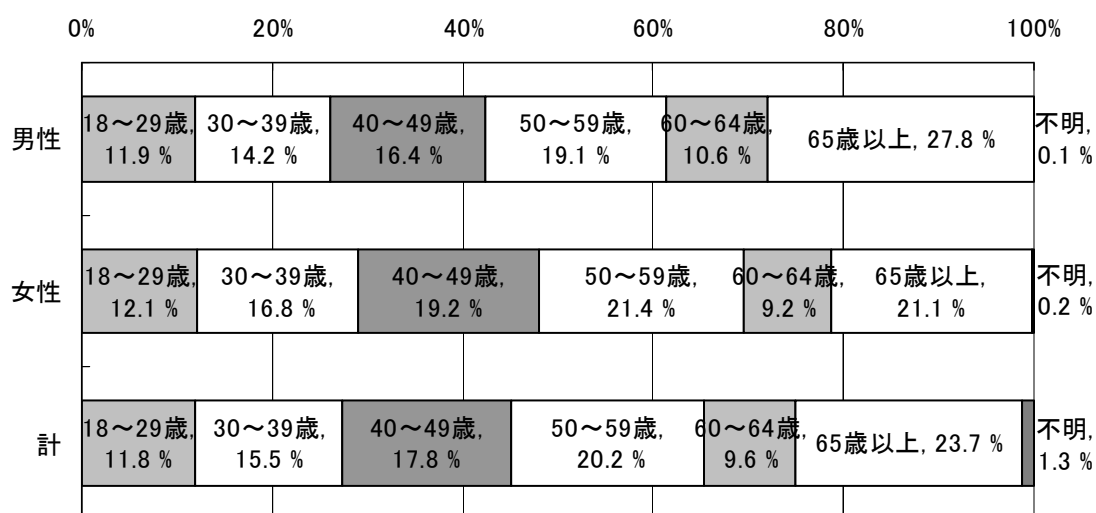
③あなたの年齢は？



②あなたの性別は？(SA)



③あなたの年齢は？(SA)

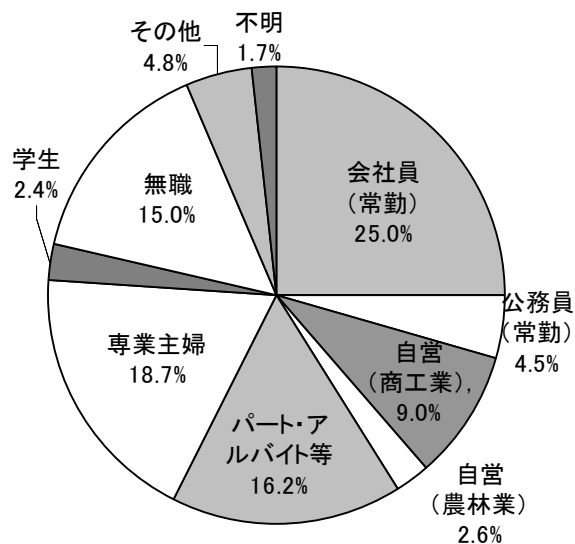


性別－年齢別

全体傾向では、「女性」が約 6 割（57.1%）、「男性」が約 4 割（41.4%）を占める。年齢は「65 歳以上」（23.7%）や「50～59 歳」（20.2%）の値が比較的高い。

性年齢別で見ると、「男性」における「65 歳以上」の値（27.8%）が比較的高い。また、男女ともに年齢層が高くなるほど全体に占める回答者の割合が高くなる傾向を示す。

④あなたの職業は？



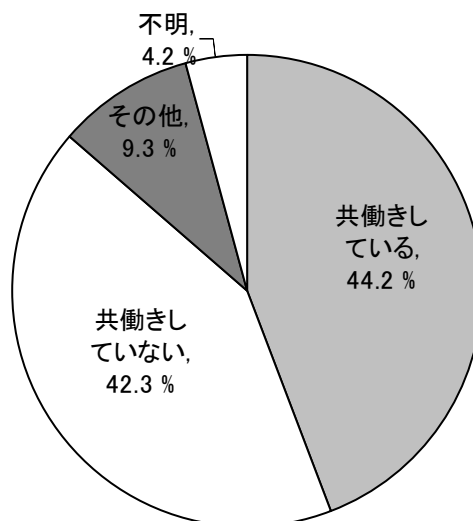
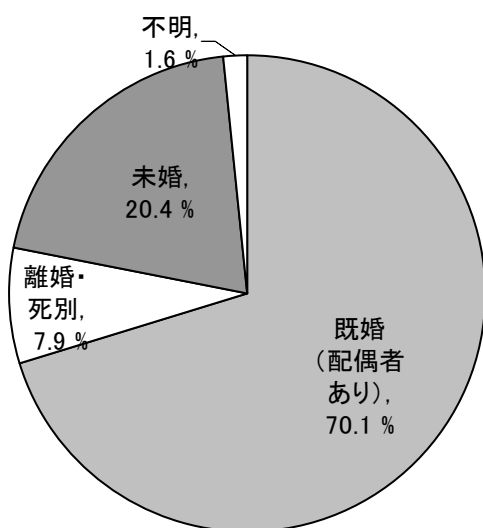
④あなたの職業は？（SA）

「会社員（常勤）」（25.0％）の値が最も高く、「専業主婦」（18.7％）、「パート・アルバイト等」（16.2％）などが続く。

職業と、性別・年齢との相関を見ると、「パート・アルバイト等」では、8割以上（84.0％ n=393）が「女性」で、3割以上（31.3％ n=393）が「40～49歳」の「女性」である。

⑤あなたは結婚していますか？

⑥あなたは共働きですか？



⑤あなたは結婚していますか。（SA）

既婚・未婚については、「既婚」（配偶者あり）が7割以上（70.1%）を占める。「離婚・死別」（7.9%）を含めると、約8割（78.0%）が結婚を経験している。

共働きについては、「共働きしている」（44.2%）と「共働きしていない」（42.3%）が同程度の割合を示す。

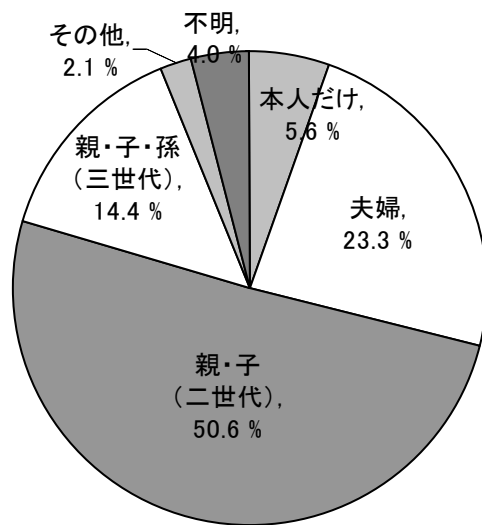
「その他」（9.3%）の内容として、「年金生活者」「定年退職」などの記述が複数見られる。

⑥あなたは共働きですか。

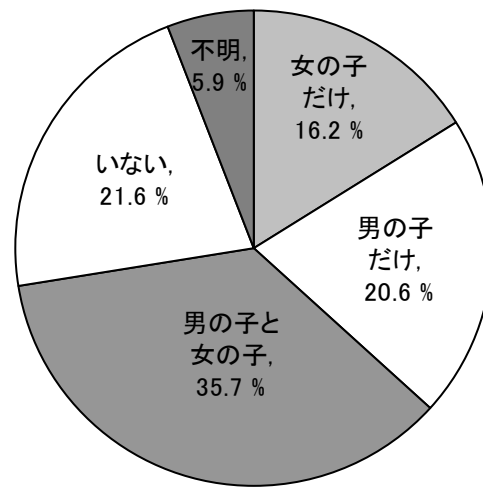
（SA N=⑤で「既婚」と回答した1,699人）

⑦あなたの家族構成は？

⑧あなたのお子さんは？



⑦あなたの家族構成は？ (SA)



⑧あなたのお子さんは？ (SA)

家族構成は、「親・子 (二世代)」が 5 割以上 (50.6%) の高い値を示す。また、「夫婦」(23.3%) の値も比較的高い。

子どもの性別については、「女の子と男の子」(35.7%) の値が最も高く、「いない」(21.6%)、「男の子だけ」(20.6%)、「女の子だけ」(16.2%) が続く。

②あなたの性別は？(SA)

	人数	%
男性	1002	41.4
女性	1383	57.1
不明	37	1.5
計	2422	100.0

③あなたの年齢は？(SA)

	人数	%
18～29 歳	287	11.8
30～39 歳	375	15.5
40～49 歳	430	17.8
50～59 歳	490	20.2
60～64 歳	233	9.6
65 歳以上	575	23.7
不明	32	1.3
計	2422	100.0

年齢－性別

	男性	% N=1002	女性	% N=1383	不明	% N=37	計	%
18～29 歳	119	11.9	168	12.1	0	0.0	287	11.8
30～39 歳	142	14.2	232	16.8	1	2.7	375	15.5
40～49 歳	164	16.4	265	19.2	1	2.7	430	17.8
50～59 歳	191	19.1	296	21.4	3	8.1	490	20.2
60～64 歳	106	10.6	127	9.2	0	0.0	233	9.6
65 歳以上	279	27.8	292	21.1	4	10.8	575	23.7
不明	1	0.1	3	0.2	28	75.7	32	1.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

④あなたの職業は？(SA)

	人数	%
会社員(常勤)	606	25.0
公務員(常勤)	110	4.5
自営(商工業)	219	9.0
自営(農林業)	63	2.6
パート・アルバイト等	393	16.2
専業主婦	453	18.7
学生	58	2.4
無職	363	15.0
その他	116	4.8
不明	41	1.7
計	2422	100.0

⑤あなたは結婚していますか。(SA)

	人数	%
既婚(配偶者あり)	1699	70.1
離婚・死別	192	7.9
未婚	493	20.4
不明	38	1.6
計	2422	100.0

⑥あなたは共働きですか。(SA)

	人数	%
共働きしている	751	44.2
共働きしていない	718	42.3
その他	158	9.3
不明	72	4.2
計	1699	100

(パート・アルバイト等を含む) (N=⑤で「既婚」と回答した 1699 件)

⑦あなたの家族構成は？(SA)

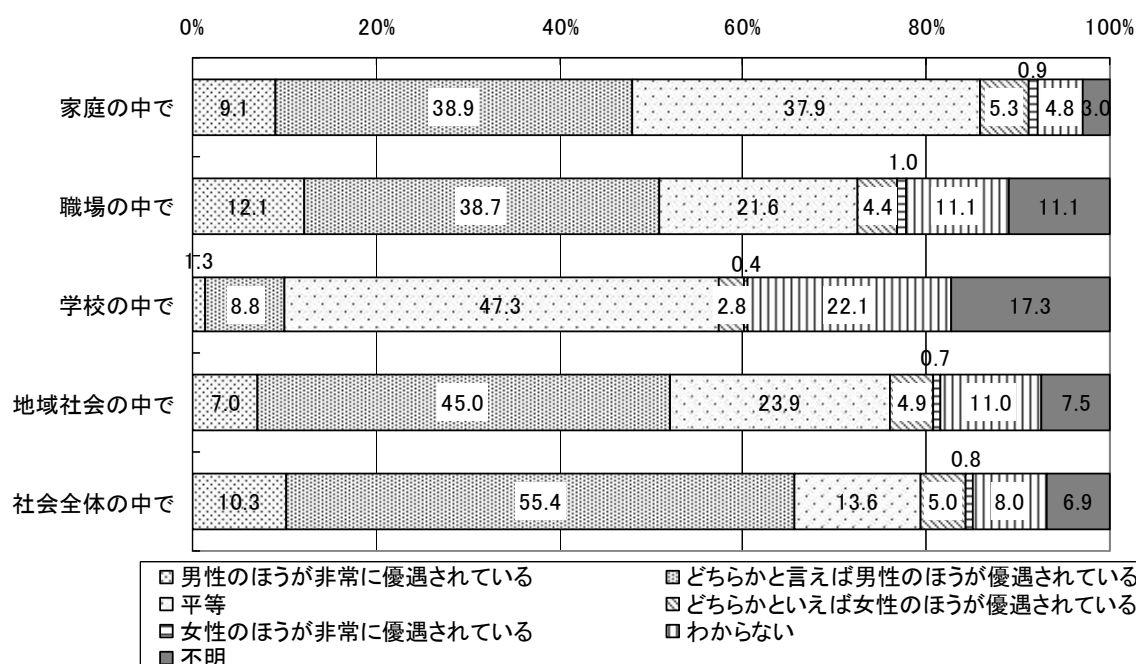
	人数	%
本人だけ	135	5.6
夫婦	565	23.3
親・子(二世代)	1226	50.6
親・子・孫(三世代)	348	14.4
その他	51	2.1
不明	97	4
計	2422	100

⑧あなたのお子さんは？(SA)

	人数	%
女の子だけ	393	16.2
男の子だけ	498	20.6
男の子と男の子	864	35.7
いない	523	21.6
不明	144	5.9
計	2422	100

1. 家庭や教育に関することについて

問1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（SA）



全体では、「わからない」と「不明」の割合が比較的高いため一概にはいえないが、「学校の中で」における「平等」（47.3%）の値が最も高い。一方、「平等」の値が最も低いのは「社会全体の中で」（13.6%）である。

「非常に優遇」「どちらかといえば優遇」の合算値を見ると、「男性のほうが」は「学校の中で」（10.1%）を除く全ての項目で、5割程度からそれ以上（「家庭の中で」48.0%、「職場の中で」50.8%、「地域社会の中で」52.0%、「社会全体の中で」65.7%）を占める。特に「社会全体の中で」では「男性のほうが」が6割以上の高い値を示す。

一方、「女性のほうが」を見ると、全ての項目で「非常に」「どちらかといえば優遇」の合算値は1割に満たず（「家庭の中で」6.2%、「職場の中で」5.4%、「学校の中で」3.2%、「地域社会の中で」5.6%、「社会全体の中で」5.8%）、性別による相違が顕著である。

「非常に優遇」「どちらかといえば優遇」の合算値と「平等」の値について性別で見ると、「学校の中で」を除く全ての項目について、「女性」は5割以上、「男性」は4割程度からそれ以上が「男性のほうが優遇」と認識している。特に、「社会全体の中で」は、「女性」の7割以上（72.1%）、「男性」の約6割（58.5%）が「男性のほうが優遇」としており、他の項目との違いが顕著である。

「平等」については、「学校の中で」が男女ともに5割弱（「女性」46.8%、「男性」49.3%）の同程度の値を示す。しかし、それ以外の項目では、いずれも「男性」が「女性」よりも「平等」と認識している割合が高い。

「女性のほうが優遇」については、男女ともに全ての項目が1割に満たないが、「女性」よりも「男性」のほうが「女性のほうが優遇」と認識している割合が若干高い。

以上の結果から、男性のほうが女性よりも優遇されているという認識は、生活の中のあらゆる場面で認識されているといえる。さらに、その認識は「男性」よりも「女性」のほうがより強いといえる。

あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか(性別)

	男性のほうが優遇されている		平等		女性のほうが優遇されている	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
家庭の中で	39.8	55.0	47.0	32.1	7.1	5.7
職場の中で	46.8	54.7	27.4	17.9	8.4	3.4
学校の中で	8.1	11.6	49.3	46.8	3.9	2.7
地域社会の中で	44.8	58.1	32.2	18.6	8.5	3.5
社会全体の中で	58.5	72.1	20.5	9.0	9.5	3.3

①家庭の中で

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
男性のほうが非常に優遇されている	54	5.4	165	11.9	1	2.7	220	9.1
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	345	34.4	595	43.0	3	8.1	943	38.9
平等	471	47.0	444	32.1	3	8.1	918	37.9
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	61	6.1	67	4.8	1	2.7	129	5.3
女性のほうが非常に優遇されている	10	1.0	12	0.9	0	0.0	22	0.9
わからない	46	4.6	70	5.1	1	2.7	117	4.8
不明	15	1.5	30	2.2	28	75.7	73	3.0
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	16	28	48	49	20	59	0	220
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	86	132	171	222	103	227	2	943
平等	137	163	163	167	80	207	1	918
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	24	18	25	20	15	27	0	129
女性のほうが非常に優遇されている	3	6	3	4	0	6	0	22
わからない	21	25	16	18	9	28	0	117
不明	0	3	4	10	6	21	29	73
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	5.6	7.5	11.2	10.0	8.6	10.3	0.0	9.1
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	30.0	35.2	39.8	45.3	44.2	39.5	6.3	38.9
平等	47.7	43.5	37.9	34.1	34.3	36.0	3.1	37.9
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	8.4	4.8	5.8	4.1	6.4	4.7	0.0	5.3
女性のほうが非常に優遇されている	1.0	1.6	0.7	0.8	0.0	1.0	0.0	0.9
わからない	7.3	6.7	3.7	3.7	3.9	4.9	0.0	4.8
不明	0.0	0.8	0.9	2.0	2.6	3.7	90.6	3.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②職場の中で

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
男性のほうが非常に優遇されている	68	6.8	224	16.2	2	5.4	294	12.1
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	401	40.0	532	38.5	4	10.8	937	38.7
平等	275	27.4	247	17.9	2	5.4	524	21.6
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	65	6.5	41	3.0	0	0.0	106	4.4
女性のほうが非常に優遇されている	19	1.9	6	0.4	0	0.0	25	1.0
わからない	84	8.4	184	13.3	0	0.0	268	11.1
不明	90	9.0	149	10.8	29	78.4	268	11.1
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	34	65	55	61	24	55	0	294
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	107	149	161	213	108	199	0	937
平等	82	85	121	125	39	71	1	524
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	12	24	26	24	8	12	0	106
女性のほうが非常に優遇されている	4	6	6	3	3	3	0	25
わからない	41	40	50	38	24	74	1	268
不明	7	6	11	26	27	161	30	268
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	11.8	17.3	12.8	12.4	10.3	9.6	0.0	12.1
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	37.3	39.7	37.4	43.5	46.4	34.6	0.0	38.7
平等	28.6	22.7	28.1	25.5	16.7	12.3	3.1	21.6
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	4.2	6.4	6.0	4.9	3.4	2.1	0.0	4.4
女性のほうが非常に優遇されている	1.4	1.6	1.4	0.6	1.3	0.5	0.0	1.0
わからない	14.3	10.7	11.6	7.8	10.3	12.9	3.1	11.1
不明	2.4	1.6	2.6	5.3	11.6	28.0	93.8	11.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③学校の中で

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
男性のほうが非常に優遇されている	10	1.0	21	1.5	0	0.0	31	1.3
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	71	7.1	140	10.1	2	5.4	213	8.8
平等	494	49.3	647	46.8	5	13.5	1146	47.3
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	33	3.3	34	2.5	0	0.0	67	2.8
女性のほうが非常に優遇されている	6	0.6	4	0.3	0	0.0	10	0.4
わからない	213	21.3	322	23.3	1	2.7	536	22.1
不明	175	17.5	215	15.5	29	78.4	419	17.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	5	3	5	6	1	11	0	31
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	19	39	28	47	32	48	0	213
平等	180	210	245	228	95	187	1	1146
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	14	11	15	18	5	4	0	67
女性のほうが非常に優遇されている	2	4	0	3	0	1	0	10
わからない	54	83	102	112	54	130	1	536
不明	13	25	35	76	46	194	30	419
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	1.7	0.8	1.2	1.2	0.4	1.9	0.0	1.3
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	6.6	10.4	6.5	9.6	13.7	8.3	0.0	8.8
平等	62.7	56.0	57.0	46.5	40.8	32.5	3.1	47.3
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	4.9	2.9	3.5	3.7	2.1	0.7	0.0	2.8
女性のほうが非常に優遇されている	0.7	1.1	0.0	0.6	0.0	0.2	0.0	0.4
わからない	18.8	22.1	23.7	22.9	23.2	22.6	3.1	22.1
不明	4.5	6.7	8.1	15.5	19.7	33.7	93.8	17.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④地域社会の中で

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
男性のほうが非常に優遇されている	34	3.4	134	9.7	2	5.4	170	7.0
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	415	41.4	669	48.4	6	16.2	1090	45.0
平等	323	32.2	257	18.6	0	0.0	580	23.9
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	71	7.1	46	3.3	1	2.7	118	4.9
女性のほうが非常に優遇されている	14	1.4	2	0.1	0	0.0	16	0.7
わからない	93	9.3	174	12.6	0	0.0	267	11.0
不明	52	5.2	101	7.3	28	75.7	181	7.5
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	15	26	26	45	13	45	0	170
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	112	170	213	241	121	233	0	1090
平等	82	99	107	111	47	133	1	580
どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	16	16	19	30	14	23	0	118
女性のほうが非常に優遇されている	4	4	2	2	1	3	0	16
わからない	56	55	57	37	16	45	1	267
不明	2	5	6	24	21	93	30	181
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以 上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	5.2	6.9	6.0	9.2	5.6	7.8	0.0	7.0
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	39.0	45.3	49.5	49.2	51.9	40.5	0.0	45.0
平等	28.6	26.4	24.9	22.7	20.2	23.1	3.1	23.9
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	5.6	4.3	4.4	6.1	6.0	4.0	0.0	4.9
女性のほうが非常に優遇されている	1.4	1.1	0.5	0.4	0.4	0.5	0.0	0.7
わからない	19.5	14.7	13.3	7.6	6.9	7.8	3.1	11.0
不明	0.7	1.3	1.4	4.9	9.0	16.2	93.8	7.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤社会全体の中で

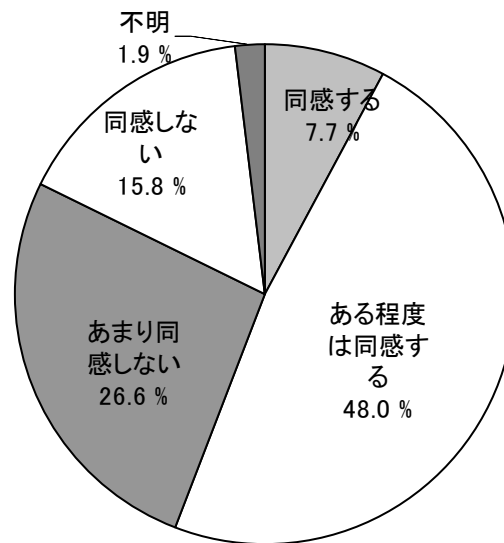
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
男性のほうが非常に優遇されている	48	4.8	199	14.4	2	5.4	249	10.3
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	538	53.7	798	57.7	6	16.2	1342	55.4
平等	205	20.5	124	9.0	1	2.7	330	13.6
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	79	7.9	43	3.1	0	0.0	122	5.0
女性のほうが非常に優遇されている	16	1.6	3	0.2	0	0.0	19	0.8
わからない	65	6.5	128	9.3	0	0.0	193	8.0
不明	51	5.1	88	6.4	28	75.7	167	6.9
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以 上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	29	45	53	51	21	50	0	249
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	164	214	258	290	142	274	0	1342
平等	39	49	55	57	29	100	1	330
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	13	30	23	33	11	12	0	122
女性のほうが非常に優遇されている	5	5	2	1	1	5	0	19
わからない	35	29	34	37	13	44	1	193
不明	2	3	5	21	16	90	30	167
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以 上	不明	計
男性のほうが非常に優遇されている	10.1	12.0	12.3	10.4	9.0	8.7	0.0	10.3
どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	57.1	57.1	60.0	59.2	60.9	47.7	0.0	55.4
平等	13.6	13.1	12.8	11.6	12.4	17.4	3.1	13.6
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	4.5	8.0	5.3	6.7	4.7	2.1	0.0	5.0
女性のほうが非常に優遇されている	1.7	1.3	0.5	0.2	0.4	0.9	0.0	0.8
わからない	12.2	7.7	7.9	7.6	5.6	7.7	3.1	8.0
不明	0.7	0.8	1.2	4.3	6.9	15.7	93.8	6.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA)



全体では、「ある程度は同感する」(48.0%)が最も高い値を示し、「同感する」(7.7%)との合算値は5割以上(55.7%)を示す。

一方、「あまり同感しない」(26.6%)と「同感しない」(15.8%)の合算値も4割以上(42.4%)を示し、「同感」が「同感しない」を13.3ポイント上回る。

性別では、「女性」の「同感する」(5.7%)、「ある程度は同感する」(47.7%)が「男性」の「同感する」(10.6%)、「ある程度同感する」(50.1%)よりも低い値を示す。

年齢別では加齢に伴って「同感する」「ある程度は同感する」の値が高くなり、「同感しない」「あまり同感しない」の値が低くなる。

これについて、性・年齢別に見てみると、「男性」は年齢が高くなるにしたがって「男は仕事、女は家庭」とする考え方が強くなる傾向が顕著である。

「女性」も「男性」ほどには顕著ではないが同様の傾向がうかがえる。しかしこの中で、「女性」の「40代」については「同感する」「ある程度同感する」の値が比較的低い。

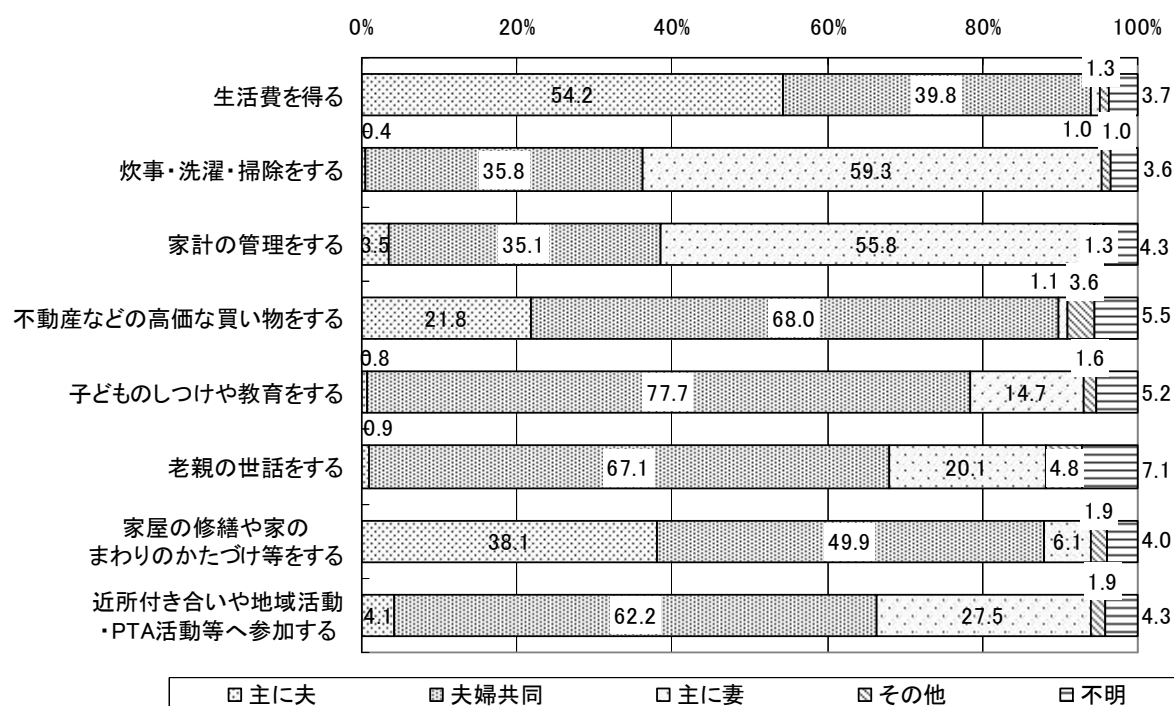
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
同感する	106	10.6	79	5.7	1	2.7	186	7.7
ある程度は同感する	502	50.1	659	47.7	2	5.4	1163	48.0
あまり同感しない	252	25.1	388	28.1	4	10.8	644	26.6
同感しない	133	13.3	247	17.9	2	5.4	382	15.8
不明	9	0.9	10	0.7	28	75.7	47	1.9
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
同感する		12	24	13	32	25	79	1	186
ある程度は同感する		123	172	192	251	117	307	1	1163
あまり同感しない		87	115	135	130	64	113	0	644
同感しない		64	63	88	75	24	68	0	382
不明		1	1	2	2	3	8	30	47
計		287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
同感する	4.2	6.4	3.0	6.5	10.7	13.7	3.1	7.7
ある程度は同感する	42.9	45.9	44.7	51.2	50.2	53.4	3.1	48.0
あまり同感しない	30.3	30.7	31.4	26.5	27.5	19.7	0.0	26.6
同感しない	22.3	16.8	20.5	15.3	10.3	11.8	0.0	15.8
不明	0.3	0.3	0.5	0.4	1.3	1.4	93.8	1.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。

(未婚の人、お子さんのいない人もお考えをお聞かせください)。(SA)



全体では、各項目で5割以上の高い値を占めるのは「主に夫」の「生活費を得る」(54.2%)、「主に妻」の「炊事・洗濯・掃除」(59.3%)、「家計の管理をする」(55.8%)、「夫婦共同」の「不動産などの高価な買物をする」(68.0%)、「子どものしつけや教育をする」(77.7%)、「老親の世話をする」(67.1%)、「家屋の修繕や家のまわりのかたづけ等をする」(49.9%)、「近所づきあいや地域活動・PTA活動等へ参加する」(62.2%)である。

一方、低い割合を示すのは、「主に夫」の「炊事・洗濯・掃除」(0.4%)、「子どものしつけや教育をする」(0.8%)「老親の世話をする」(0.9%)、「主に妻」の「生活費を得る」(1.0%)、「不動産などの高価な買物をする」(1.1%)である。

「夫婦共同」は各項目とも3割以上を占め、夫婦の役割分担はさまざまな面で「共同」と考えられている傾向がうかがえるものの、生活費と家事については夫婦の役割は異なるとする考え方が強いといえる。

性別では「主に夫」が5割以上を占める「生活費を得る」における男女の差異はほとんどない。年齢別では「18～29歳」(47.7%)以外の全ての年齢層で5割以上(53.0～58.2%)を占める。

「主に妻」が5割以上を占める「炊事・洗濯・掃除」「家計の管理をする」も男女の差異はない。年齢別では「炊事・洗濯・掃除」は「18～29歳」(41.8%)以外の全ての年齢層で5～6割(55.2～66.9%)を占め、「家計の管理をする」は全ての年齢層で5～6割(50.2～63.7%)を占める。

①生活費を得る

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	558	55.7	752	54.4	3	8.1	1313	54.2
夫婦共同	396	39.5	564	40.8	4	10.8	964	39.8
主に妻	12	1.2	12	0.9	1	2.7	25	1.0
その他	15	1.5	16	1.2	0	0.0	31	1.3
不明	21	2.1	39	2.8	29	78.4	89	3.7
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	137	215	240	285	130	305	1	1313
夫婦共同	142	148	179	185	95	213	2	964
主に妻	1	4	2	8	1	9	0	25
その他	5	5	5	7	2	7	0	31
不明	2	3	4	5	5	41	29	89
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	47.7	57.3	55.8	58.2	55.8	53.0	3.1	54.2
夫婦共同	49.5	39.5	41.6	37.8	40.8	37.0	6.3	39.8
主に妻	0.3	1.1	0.5	1.6	0.4	1.6	0.0	1.0
その他	1.7	1.3	1.2	1.4	0.9	1.2	0.0	1.3
不明	0.7	0.8	0.9	1.0	2.1	7.1	90.6	3.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②炊事・洗濯・掃除をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	6	0.6	3	0.2	0	0.0	9	0.4
夫婦共同	362	36.1	502	36.3	3	8.1	867	35.8
主に妻	598	59.7	833	60.2	5	13.5	1436	59.3
その他	11	1.1	13	0.9	0	0.0	24	1.0
不明	25	2.5	32	2.3	29	78.4	86	3.6
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	1	2	2	1	0	3	0	9
夫婦共同	160	158	171	146	74	158	0	867
主に妻	120	207	247	328	153	378	3	1436
その他	4	3	5	9	1	2	0	24
不明	2	5	5	6	5	34	29	86
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	0.3	0.5	0.5	0.2	0.0	0.5	0.0	0.4
夫婦共同	55.7	42.1	39.8	29.8	31.8	27.5	0.0	35.8
主に妻	41.8	55.2	57.4	66.9	65.7	65.7	9.4	59.3
その他	1.4	0.8	1.2	1.8	0.4	0.3	0.0	1.0
不明	0.7	1.3	1.2	1.2	2.1	5.9	90.6	3.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③家計の管理をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	41	4.1	42	3.0	1	2.7	84	3.5
夫婦共同	345	34.4	501	36.2	5	13.5	851	35.1
主に妻	568	56.7	780	56.4	3	8.1	1351	55.8
その他	14	1.4	18	1.3	0	0.0	32	1.3
不明	34	3.4	42	3.0	28	75.7	104	4.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	1	4	18	16	12	33	0	84
夫婦共同	108	158	181	147	75	182	0	851
主に妻	168	200	216	312	137	316	2	1351
その他	8	6	8	6	2	2	0	32
不明	2	7	7	9	7	42	30	104
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	0.3	1.1	4.2	3.3	5.2	5.7	0.0	3.5
夫婦共同	37.6	42.1	42.1	30.0	32.2	31.7	0.0	35.1
主に妻	58.5	53.3	50.2	63.7	58.8	55.0	6.3	55.8
その他	2.8	1.6	1.9	1.2	0.9	0.3	0.0	1.3
不明	0.7	1.9	1.6	1.8	3.0	7.3	93.8	4.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④不動産などの高価な買い物をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	190	19.0	337	24.4	1	2.7	528	21.8
夫婦共同	716	71.5	926	67.0	5	13.5	1647	68.0
主に妻	11	1.1	14	1.0	1	2.7	26	1.1
その他	41	4.1	45	3.3	1	2.7	87	3.6
不明	44	4.4	61	4.4	29	78.4	134	5.5
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	63	80	100	111	57	117	0	528
夫婦共同	217	276	309	344	156	345	0	1647
主に妻	2	6	3	6	1	8	0	26
その他	3	8	12	18	7	38	1	87
不明	2	5	6	11	12	67	31	134
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	22.0	21.3	23.3	22.7	24.5	20.3	0.0	21.8
夫婦共同	75.6	73.6	71.9	70.2	67.0	60.0	0.0	68.0
主に妻	0.7	1.6	0.7	1.2	0.4	1.4	0.0	1.1
その他	1.0	2.1	2.8	3.7	3.0	6.6	3.1	3.6
不明	0.7	1.3	1.4	2.2	5.2	11.7	96.9	5.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤子どものしつけや教育をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	14	1.4	5	0.4	0	0.0	19	0.8
夫婦共同	781	77.9	1096	79.2	5	13.5	1882	77.7
主に妻	144	14.4	209	15.1	2	5.4	355	14.7
その他	25	2.5	13	0.9	1	2.7	39	1.6
不明	38	3.8	60	4.3	29	78.4	127	5.2
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	1	3	2	4	3	6	0	19
夫婦共同	262	326	363	376	178	377	0	1882
主に妻	20	39	51	89	41	114	1	355
その他	1	1	7	8	2	20	0	39
不明	3	6	7	13	9	58	31	127
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	0.3	0.8	0.5	0.8	1.3	1.0	0.0	0.8
夫婦共同	91.3	86.9	84.4	76.7	76.4	65.6	0.0	77.7
主に妻	7.0	10.4	11.9	18.2	17.6	19.8	3.1	14.7
その他	0.3	0.3	1.6	1.6	0.9	3.5	0.0	1.6
不明	1.0	1.6	1.6	2.7	3.9	10.1	96.9	5.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥老親の世話をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	16	1.6	6	0.4	0	0.0	22	0.9
夫婦共同	679	67.8	941	68.0	5	13.5	1625	67.1
主に妻	188	18.8	295	21.3	3	8.1	486	20.1
その他	53	5.3	63	4.6	0	0.0	116	4.8
不明	66	6.6	78	5.6	29	78.4	173	7.1
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	2	3	6	6	1	4	0	22
夫婦共同	242	311	339	314	143	275	1	1625
主に妻	31	42	61	132	65	155	0	486
その他	9	12	14	22	13	46	0	116
不明	3	7	10	16	11	95	31	173
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	0.7	0.8	1.4	1.2	0.4	0.7	0.0	0.9
夫婦共同	84.3	82.9	78.8	64.1	61.4	47.8	3.1	67.1
主に妻	10.8	11.2	14.2	26.9	27.9	27.0	0.0	20.1
その他	3.1	3.2	3.3	4.5	5.6	8.0	0.0	4.8
不明	1.0	1.9	2.3	3.3	4.7	16.5	96.9	7.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦家屋の修繕や家のまわりのかたづけ等をする

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	474	47.3	445	32.2	3	8.1	922	38.1
夫婦共同	441	44.0	764	55.2	3	8.1	1208	49.9
主に妻	41	4.1	105	7.6	1	2.7	147	6.1
その他	19	1.9	27	2.0	1	2.7	47	1.9
不明	27	2.7	42	3.0	29	78.4	98	4.0
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	107	134	162	199	94	225	1	922
夫婦共同	159	205	231	240	113	259	1	1208
主に妻	14	20	23	33	16	41	0	147
その他	6	8	10	6	4	13	0	47
不明	1	8	4	12	6	37	30	98
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	37.3	35.7	37.7	40.6	40.3	39.1	3.1	38.1
夫婦共同	55.4	54.7	53.7	49.0	48.5	45.0	3.1	49.9
主に妻	4.9	5.3	5.3	6.7	6.9	7.1	0.0	6.1
その他	2.1	2.1	2.3	1.2	1.7	2.3	0.0	1.9
不明	0.3	2.1	0.9	2.4	2.6	6.4	93.8	4.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑧近所付き合いや地域活動・PTA 活動等へ参加する

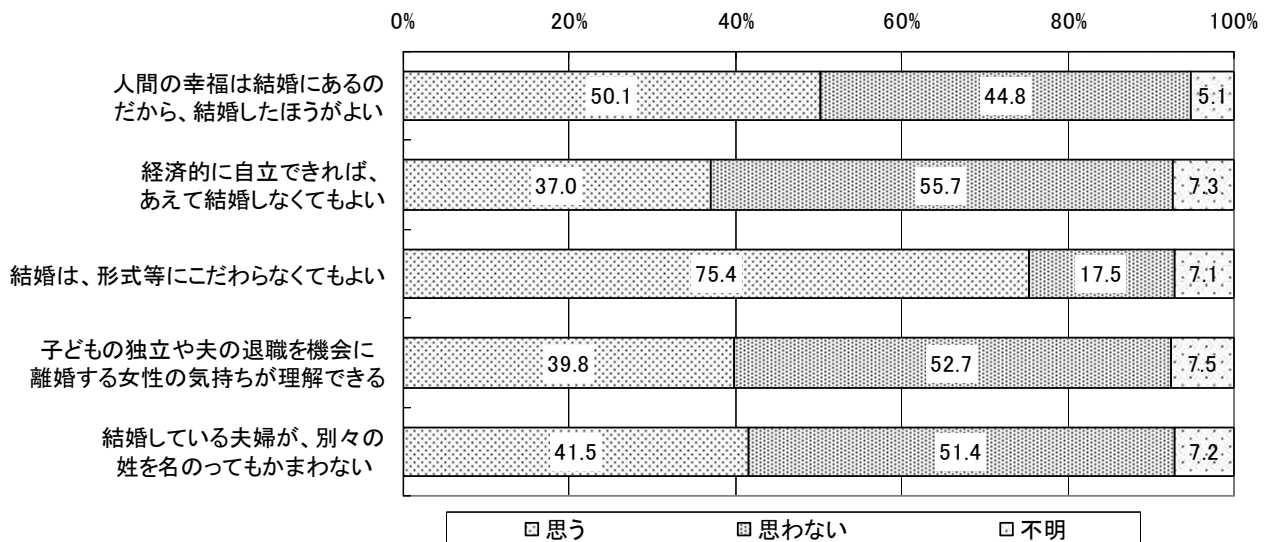
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
主に夫	69	6.9	29	2.1	2	5.4	100	4.1
夫婦共同	620	61.9	884	63.9	3	8.1	1507	62.2
主に妻	263	26.2	401	29.0	3	8.1	667	27.5
その他	22	2.2	23	1.7	0	0.0	45	1.9
不明	28	2.8	46	3.3	29	78.4	103	4.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	2	5	8	23	12	49	1	100
夫婦共同	219	266	282	299	137	304	0	1507
主に妻	61	93	127	152	73	161	0	667
その他	3	7	9	6	5	15	0	45
不明	2	4	4	10	6	46	31	103
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
主に夫	0.7	1.3	1.9	4.7	5.2	8.5	3.1	4.1
夫婦共同	76.3	70.9	65.6	61.0	58.8	52.9	0.0	62.2
主に妻	21.3	24.8	29.5	31.0	31.3	28.0	0.0	27.5
その他	1.0	1.9	2.1	1.2	2.1	2.6	0.0	1.9
不明	0.7	1.1	0.9	2.0	2.6	8.0	96.9	4.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)



全体では、「結婚は、形式等にこだわらなくてよい」のみ「思う」が7割以上(75.4%)を占める。これ以外の項目では「思う」「思わない」とともに比較的高い値を示す。また、「結婚は、形式等にこだわらなくてよい」は性別、年齢別の差異がほとんどないが、これ以外の項目では、性別、年齢別による差異が見られる。

「人間の幸福は結婚にあるのだから、結婚したほうがよい」は「男性」の6割(59.5%)が肯定(「思う」)するが、「女性」では否定(「思わない」)の割合の方が高い(51.1%)。年齢別では「40代以下」で約6割が否定するが、「50代以上」では加齢に伴い肯定の割合が高くなる。

「経済的に自立できればあえて結婚しなくてもよい」は「男性」の6割以上(65.2%)が否定するが「女性」は5割(50.0%)にとどまる。年齢別では「40代以下」で肯定と否定に大きな差異はないが、「50代以上」では否定の割合が6割程度以上を示す。

「子どもの独立等で離婚する女性の気持ちが理解できる」は「男性」の6割以上(65.8%)が否定するが、「女性」は肯定と否定に大きな差異がない。年齢別では「18～29歳」と「50代以上」で5割以上が否定するが、「30代」「40代」では逆に5割以上が肯定する。

「結婚している夫婦の別姓」は「男性」の約6割(56.6%)が否定するが、「女性」は肯定と否定に大きな差異がない。年齢別では「40代以下」と「50代以上」で相違が顕著であり、「40代以下」では肯定が5割以上、「50代以上」では否定が5～7割を占める。

以上の結果から、「性別」や「50歳以上と未満」で考え方の違いが存在しているといえる。

①人間の幸福は結婚にあるのだから、結婚したほうがよい

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
思う	596	59.5	613	44.3	5	13.5	1214	50.1
思わない	373	37.2	707	51.1	4	10.8	1084	44.8
不明	33	3.3	63	4.6	28	75.7	124	5.1
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	122	143	161	245	143	398	2	1214
思わない	162	225	257	226	83	131	0	1084
不明	3	7	12	19	7	46	30	124
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	42.5	38.1	37.4	50.0	61.4	69.2	6.3	50.1
思わない	56.4	60.0	59.8	46.1	35.6	22.8	0.0	44.8
不明	1.0	1.9	2.8	3.9	3.0	8.0	93.8	5.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②経済的に自立できれば、あえて結婚しなくてもよい

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
思う	287	28.6	606	43.8	3	8.1	896	37.0
思わない	653	65.2	691	50.0	5	13.5	1349	55.7
不明	62	6.2	86	6.2	29	78.4	177	7.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	143	164	216	182	63	127	1	896
思わない	140	203	201	284	160	359	2	1349
不明	4	8	13	24	10	89	29	177
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	49.8	43.7	50.2	37.1	27.0	22.1	3.1	37.0
思わない	48.8	54.1	46.7	58.0	68.7	62.4	6.3	55.7
不明	1.4	2.1	3.0	4.9	4.3	15.5	90.6	7.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③結婚は、形式等にこだわらなくてもよい

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
思う	779	77.7	1041	75.3	5	13.5	1825	75.4
思わない	172	17.2	249	18.0	3	8.1	424	17.5
不明	51	5.1	93	6.7	29	78.4	173	7.1
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	239	314	349	380	176	364	3	1825
思わない	42	54	71	90	45	122	0	424
不明	6	7	10	20	12	89	29	173
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	83.3	83.7	81.2	77.6	75.5	63.3	9.4	75.4
思わない	14.6	14.4	16.5	18.4	19.3	21.2	0.0	17.5
不明	2.1	1.9	2.3	4.1	5.2	15.5	90.6	7.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④子どもの独立や夫の退職を機会に離婚する女性の気持ちができる

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
思う	284	28.3	676	48.9	4	10.8	964	39.8
思わない	659	65.8	614	44.4	4	10.8	1277	52.7
不明	59	5.9	93	6.7	29	78.4	181	7.5
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	101	192	234	210	87	140	0	964
思わない	181	177	185	250	134	348	2	1277
不明	5	6	11	30	12	87	30	181
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	35.2	51.2	54.4	42.9	37.3	24.3	0.0	39.8
思わない	63.1	47.2	43.0	51.0	57.5	60.5	6.3	52.7
不明	1.7	1.6	2.6	6.1	5.2	15.1	93.8	7.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤結婚している夫婦が、別々の姓を名のつてもかまわない

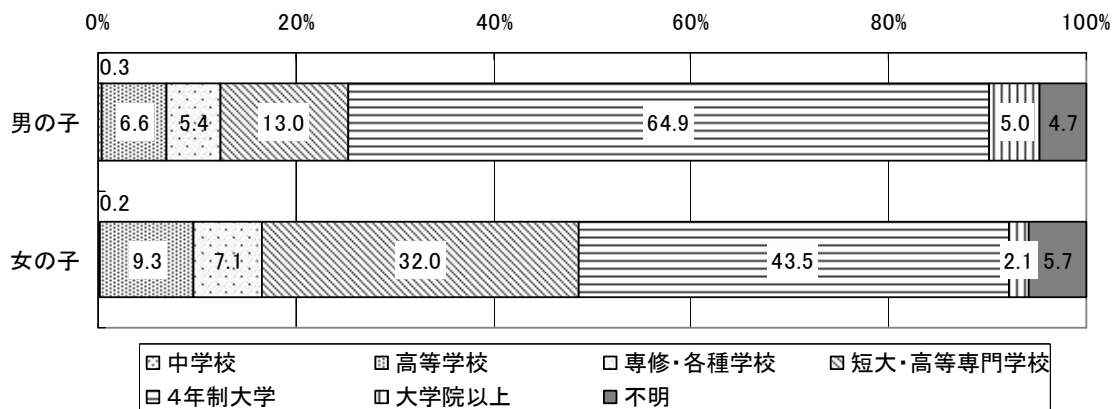
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
思う	381	38.0	620	44.8	3	8.1	1004	41.5
思わない	567	56.6	672	48.6	5	13.5	1244	51.4
不明	54	5.4	91	6.6	29	78.4	174	7.2
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	152	200	244	192	63	153	0	1004
思わない	130	167	172	274	160	339	2	1244
不明	5	8	14	24	10	83	30	174
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
思う	53.0	53.3	56.7	39.2	27.0	26.6	0.0	41.5
思わない	45.3	44.5	40.0	55.9	68.7	59.0	6.3	51.4
不明	1.7	2.1	3.3	4.9	4.3	14.4	93.8	7.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA)



全体では、「男の子」「女の子」とともに「4年制大学」（「男の子」64.9%、「女の子」43.5%）の値が最も高い。

回答者毎に、受けさせたい教育が「男の子」と「女の子」でどの程度の差があるのかを見てみると、「男の子」「女の子」とともに同じ教育を受けさせたいとするものが最も多く、全体の6割以上（62.4%）を占める。これに「男の子」が「女の子」よりも1段階高学とする24.1%が続く。

「男の子」に「4年制大学」までの教育を受けさせたいとするものは、性別、年齢別に関わらず約6割を占める。一方、「女の子」では「4年制大学」は性別、年齢別に関わらずそれぞれ約4～5割で、「短大・高等専門学校」の割合もこれに次いで高い（約3～4割）。

子どもの性別に関わりなく、同様の教育を受けさせたいと考える傾向が大きな動向としてあり、回答者の性別や年齢による大きな差異はない。しかしその中で、「女の子」よりも「男の子」により高い教育を受けさせたいという考え方がうかがえる。また、「男性」よりも「女性」のほうが子どもの性別に関わりなく「4年制大学」以上の教育を受けさせたいとする値が高い。

受けさせたい教育の「男の子」「女の子」の差

	計	%
「女の子」が「男の子」よりも4段階高学	0	0.0
「女の子」が「男の子」よりも3段階高学	3	0.1
「女の子」が「男の子」よりも2段階高学	9	0.4
「女の子」が「男の子」よりも1段階高学	21	0.9
「男の子」「女の子」が同じ	1512	62.4
「男の子」が「女の子」よりも1段階高学	584	24.1
「男の子」が「女の子」よりも2段階高学	88	3.6
「男の子」が「女の子」よりも3段階高学	27	1.1
「男の子」が「女の子」よりも4段階高学	1	0.0
不明	177	7.3
計	2422	100.0

※ 「中学校」、「高等学校」、「専修・各種学校」、「短大・高等専門学校」、「4年制大学」、「大学院以上」の順に1段階とする。

①男の子

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
中学校	7	0.7		0.0	0	0.0	7	0.3
高等学校	86	8.6	74	5.4	1	2.7	161	6.6
専修・各種学校	58	5.8	72	5.2	1	2.7	131	5.4
短大・高等専門学校	131	13.1	183	13.2	0	0.0	314	13.0
4年制大学	642	64.1	925	66.9	5	13.5	1572	64.9
大学院以上	45	4.5	76	5.5	1	2.7	122	5.0
不明	33	3.3	53	3.8	29	78.4	115	4.7
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
中学校	1	3	1	1	1	0	0	7
高等学校	31	43	27	28	7	25	0	161
専修・各種学校	23	32	27	24	10	15	0	131
短大・高等専門学校	37	54	45	63	35	78	2	314
4年制大学	179	215	299	328	162	388	1	1572
大学院以上	14	15	12	31	7	42	1	122
不明	2	13	19	15	11	27	28	115
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
中学校	0.3	0.8	0.2	0.2	0.4	0.0	0.0	0.3
高等学校	10.8	11.5	6.3	5.7	3.0	4.3	0.0	6.6
専修・各種学校	8.0	8.5	6.3	4.9	4.3	2.6	0.0	5.4
短大・高等専門学校	12.9	14.4	10.5	12.9	15.0	13.6	6.3	13.0
4年制大学	62.4	57.3	69.5	66.9	69.5	67.5	3.1	64.9
大学院以上	4.9	4.0	2.8	6.3	3.0	7.3	3.1	5.0
不明	0.7	3.5	4.4	3.1	4.7	4.7	87.5	4.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②女の子

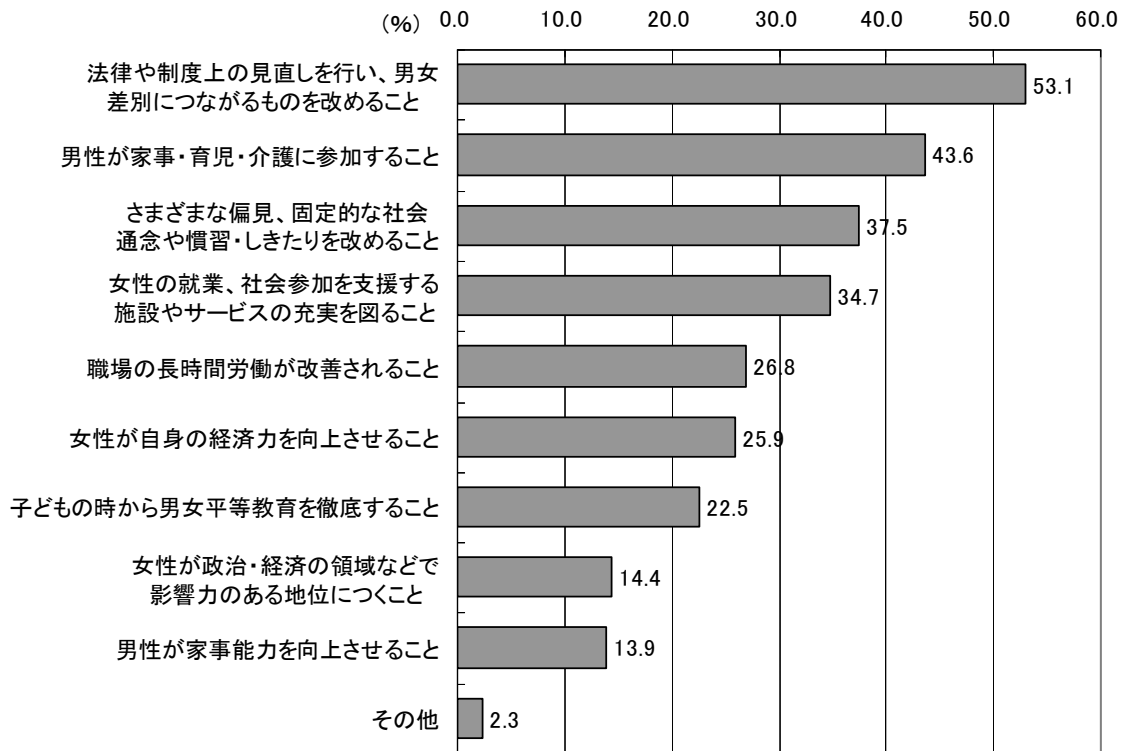
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
中学校	6	0.6	0	0.0	0	0.0	6	0.2
高等学校	110	11.0	116	8.4	0	0.0	226	9.3
専修・各種学校	71	7.1	98	7.1	2	5.4	171	7.1
短大・高等専門学校	333	33.2	442	32.0	1	2.7	776	32.0
4年制大学	415	41.4	634	45.8	4	10.8	1053	43.5
大学院以上	25	2.5	26	1.9	0	0.0	51	2.1
不明	42	4.2	67	4.8	30	81.1	139	5.7
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
中学校	1	3	0	1	1	0	0	6
高等学校	33	50	31	44	15	53	0	226
専修・各種学校	21	27	36	37	13	37	0	171
短大・高等専門学校	75	124	122	167	94	192	2	776
4年制大学	143	140	217	208	99	246	0	1053
大学院以上	10	14	6	11	1	9	0	51
不明	4	17	18	22	10	38	30	139
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
中学校	0.3	0.8	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.2
高等学校	11.5	13.3	7.2	9.0	6.4	9.2	0.0	9.3
専修・各種学校	7.3	7.2	8.4	7.6	5.6	6.4	0.0	7.1
短大・高等専門学校	26.1	33.1	28.4	34.1	40.3	33.4	6.3	32.0
4年制大学	49.8	37.3	50.5	42.4	42.5	42.8	0.0	43.5
大学院以上	3.5	3.7	1.4	2.2	0.4	1.6	0.0	2.1
不明	1.4	4.5	4.2	4.5	4.3	6.6	93.8	5.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問6 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何だと思いますか。(3 択)



全体では、「法律や制度上の見直し」(53.1%)が最も高い値を示す。これに「男性の家事等参加」(43.6%)、「さまざまな偏見等を改める」(37.5%)「女性の就業等サービス充実」(34.7%)が続き、この4項目以外はいずれも3割に満たない。

性別や年齢別に見ても、それぞれの属性で上記4項目の値が高い。性別や年齢による大きな差異は示さないが、「男性の家事等参加」では「男性」が3割程度(33.3%)にとどまる一方、「女性」は5割以上(51.0%)が必要と認識しており、性別による差異がうかがえる。

(性別)

男性 N=1002・女性 N=1383・不明 N=37	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
女性が自身の経済力を向上させること	214	21.4	402	29.1	12	32.4	628	25.9
女性が政治・経済の領域などで影響力のある地位につくこと	173	17.3	172	12.4	4	10.8	349	14.4
男性が家事・育児・介護に参加すること	334	33.3	705	51.0	16	43.2	1055	43.6
男性が家事能力を向上させること	166	16.6	167	12.1	4	10.8	337	13.9
職場の長時間労働が改善されること	296	29.5	347	25.1	7	18.9	650	26.8
法律や制度上の見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	538	53.7	729	52.7	18	48.6	1285	53.1
さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること	408	40.7	491	35.5	9	24.3	908	37.5
子どもの時から男女平等教育を徹底すること	250	25.0	287	20.8	9	24.3	546	22.5
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	301	30.0	531	38.4	8	21.6	840	34.7
その他	31	3.1	23	1.7	1	2.7	55	2.3

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
女性が自身の経済力を向上させること	63	64	106	131	68	186	10	628
女性が政治・経済の領域などで影響力のある地位につくこと	37	55	58	65	39	91	4	349
男性が家事・育児・介護に参加すること	146	177	191	210	99	218	14	1055
男性が家事能力を向上させること	38	48	63	68	35	83	2	337
職場の長時間労働が改善されること	103	115	102	118	62	142	8	650
法律や制度上の見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	148	207	234	285	128	272	11	1285
さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること	109	140	193	206	75	177	8	908
子どもの時から男女平等教育を徹底すること	51	70	94	105	57	163	6	546
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	96	139	150	186	78	183	8	840
その他	10	11	8	10	5	10	1	55

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
女性が自身の経済力を向上させること	22.0	17.1	24.7	26.7	29.2	32.3	31.3	25.9
女性が政治・経済の領域などで影響力のある地位につくこと	12.9	14.7	13.5	13.3	16.7	15.8	12.5	14.4
男性が家事・育児・介護に参加すること	50.9	47.2	44.4	42.9	42.5	37.9	43.8	43.6
男性が家事能力を向上させること	13.2	12.8	14.7	13.9	15.0	14.4	6.3	13.9
職場の長時間労働が改善されること	35.9	30.7	23.7	24.1	26.6	24.7	25.0	26.8
法律や制度上の見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	51.6	55.2	54.4	58.2	54.9	47.3	34.4	53.1
さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること	38.0	37.3	44.9	42.0	32.2	30.8	25.0	37.5
子どもの時から男女平等教育を徹底すること	17.8	18.7	21.9	21.4	24.5	28.3	18.8	22.5
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	33.4	37.1	34.9	38.0	33.5	31.8	25.0	34.7
その他	3.5	2.9	1.9	2.0	2.1	1.7	3.1	2.3

問7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」がありますか。（SA）



全体傾向では、全ての項目において「した」「受けた」とともに「ない」が約 8 割を占めるが、その中で、「平手で打つ等」「何を言っても長時間無視」の 2 項目については「した」「受けた」とともに「ある」が 1 割以上の比較的高い値を示す。

性別・年齢別に見ると、「平手で打つ等」は「した」における「男性」（15.5%）と「30 代」（16.8%）、「受けた」における「女性」（17.8%）と「30 代」（18.9%）の値が比較的高い。

「性的行為の強要」は「した」における「男性」（7.5%）、「受けた」における「女性」（11.9%）の値が比較的高い。また、年齢別では「60～64 歳」における「した」（6.4%）、「受けた」（10.3%）の値が他と比較して若干高い。

「何を言っても長時間無視」は「受けた」における「40 代」（17.0%）の値が比較的高い。

「交友関係や電話・メールを細かく監視」は「受けた」における「18～29 歳」（9.4%）の値が比較的高い。

「誰のおかげで生活できるんだ・かい性なし」は「受けた」における「女性」（12.3%）と「40 代」（12.6%）の値が比較的高い。

①平手で打ったり、足で蹴ったりする－したこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	155	15.5	141	10.2	4	10.8	300	12.4
ない	788	78.6	1120	81.0	24	64.9	1932	79.8
不明	59	5.9	122	8.8	9	24.3	190	7.8
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	29	63	51	56	29	69	3	300
ない	247	299	364	403	185	414	20	1932
不明	11	13	15	31	19	92	9	190
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	10.1	16.8	11.9	11.4	12.4	12.0	9.4	12.4
ない	86.1	79.7	84.7	82.2	79.4	72.0	62.5	79.8
不明	3.8	3.5	3.5	6.3	8.2	16.0	28.1	7.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

①平手で打ったり、足で蹴ったりする－受けたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	77	7.7	246	17.8	2	5.4	325	13.4
ない	757	75.5	1046	75.6	24	64.9	1827	75.4
不明	168	16.8	91	6.6	11	29.7	270	11.1
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	34	71	60	67	32	59	2	325
ない	242	287	353	383	171	370	21	1827
不明	11	17	17	40	30	146	9	270
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	11.8	18.9	14.0	13.7	13.7	10.3	6.3	13.4
ない	84.3	76.5	82.1	78.2	73.4	64.3	65.6	75.4
不明	3.8	4.5	4.0	8.2	12.9	25.4	28.1	11.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②殴るふりや、刃物などを持ち出して脅す－したこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	36	3.6	27	2.0	1	2.7	64	2.6
ない	891	88.9	1226	88.6	29	78.4	2146	88.6
不明	75	7.5	130	9.4	7	18.9	212	8.8
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	6	10	14	13	9	11	1	64
ない	270	354	401	440	204	455	22	2146
不明	11	11	15	37	20	109	9	212
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	2.1	2.7	3.3	2.7	3.9	1.9	3.1	2.6
ない	94.1	94.4	93.3	89.8	87.6	79.1	68.8	88.6
不明	3.8	2.9	3.5	7.6	8.6	19.0	28.1	8.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②殴るふりや、刃物などを持ち出して脅すー受けたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	23	2.3	81	5.9	3	8.1	107	4.4
ない	809	80.7	1211	87.6	24	64.9	2044	84.4
不明	170	17.0	91	6.6	10	27.0	271	11.2
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	8	23	32	15	12	15	2	107
ない	267	336	382	434	187	417	21	2044
不明	12	16	16	41	34	143	9	271
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	2.8	6.1	7.4	3.1	5.2	2.6	6.3	4.4
ない	93.0	89.6	88.8	88.6	80.3	72.5	65.6	84.4
不明	4.2	4.3	3.7	8.4	14.6	24.9	28.1	11.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要するーしたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	75	7.5	11	0.8	1	2.7	87	3.6
ない	860	85.8	1234	89.2	28	75.7	2122	87.6
不明	67	6.7	138	10.0	8	21.6	213	8.8
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	4	8	10	17	16	31	1	87
ない	273	355	404	442	196	431	21	2122
不明	10	12	16	31	21	113	10	213
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	1.4	2.1	2.3	3.5	6.9	5.4	3.1	3.6
ない	95.1	94.7	94.0	90.2	84.1	75.0	65.6	87.6
不明	3.5	3.2	3.7	6.3	9.0	19.7	31.3	8.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する－受けたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	12	1.2	165	11.9	2	5.4	179	7.4
ない	814	81.2	1127	81.5	25	67.6	1966	81.2
不明	176	17.6	91	6.6	10	27.0	277	11.4
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	20	32	33	42	24	26	2	179
ない	256	326	379	409	175	400	21	1966
不明	11	17	18	39	34	149	9	277
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	7.0	8.5	7.7	8.6	10.3	4.5	6.3	7.4
ない	89.2	86.9	88.1	83.5	75.1	69.6	65.6	81.2
不明	3.8	4.5	4.2	8.0	14.6	25.9	28.1	11.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④何を言っても長時間無視し続ける－したこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	116	11.6	193	14.0	8	21.6	317	13.1
ない	809	80.7	1069	77.3	21	56.8	1899	78.4
不明	77	7.7	121	8.7	8	21.6	206	8.5
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	22	44	70	77	32	66	6	317
ない	255	319	346	384	181	397	17	1899
不明	10	12	14	29	20	112	9	206
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	7.7	11.7	16.3	15.7	13.7	11.5	18.8	13.1
ない	88.9	85.1	80.5	78.4	77.7	69.0	53.1	78.4
不明	3.5	3.2	3.3	5.9	8.6	19.5	28.1	8.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④何を言っても長時間無視し続ける－受けたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	110	11.0	173	12.5	5	13.5	288	11.9
ない	723	72.2	1107	80.0	21	56.8	1851	76.4
不明	169	16.9	103	7.4	11	29.7	283	11.7
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	23	37	73	64	27	61	3	288
ない	253	320	340	382	167	370	19	1851
不明	11	18	17	44	39	144	10	283
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	8.0	9.9	17.0	13.1	11.6	10.6	9.4	11.9
ない	88.2	85.3	79.1	78.0	71.7	64.3	59.4	76.4
不明	3.8	4.8	4.0	9.0	16.7	25.0	31.3	11.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤交友関係や電話・メールを細かく監視する－したこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	19	1.9	48	3.5	1	2.7	68	2.8
ない	911	90.9	1208	87.3	27	73.0	2146	88.6
不明	72	7.2	127	9.2	9	24.3	208	8.6
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	18	6	18	8	5	11	2	68
ない	260	359	399	451	210	446	21	2146
不明	9	10	13	31	18	118	9	208
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	6.3	1.6	4.2	1.6	2.1	1.9	6.3	2.8
ない	90.6	95.7	92.8	92.0	90.1	77.6	65.6	88.6
不明	3.1	2.7	3.0	6.3	7.7	20.5	28.1	8.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤交友関係や電話・メールを細かく監視する－受けたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	28	2.8	75	5.4	2	5.4	105	4.3
ない	798	79.6	1199	86.7	25	67.6	2022	83.5
不明	176	17.6	109	7.9	10	27.0	295	12.2
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	27	25	20	13	4	14	2	105
ない	249	334	393	430	190	405	21	2022
不明	11	16	17	47	39	156	9	295
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	9.4	6.7	4.7	2.7	1.7	2.4	6.3	4.3
ない	86.8	89.1	91.4	87.8	81.5	70.4	65.6	83.5
不明	3.8	4.3	4.0	9.6	16.7	27.1	28.1	12.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言うーしたこと

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	64	6.4	50	3.6	3	8.1	117	4.8
ない	867	86.5	1188	85.9	26	70.3	2081	85.9
不明	71	7.1	145	10.5	8	21.6	224	9.2
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	6	18	27	23	16	25	2	117
ない	271	346	387	428	192	436	21	2081
不明	10	11	16	39	25	114	9	224
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	2.1	4.8	6.3	4.7	6.9	4.3	6.3	4.8
ない	94.4	92.3	90.0	87.3	82.4	75.8	65.6	85.9
不明	3.5	2.9	3.7	8.0	10.7	19.8	28.1	9.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言うー受けたこと

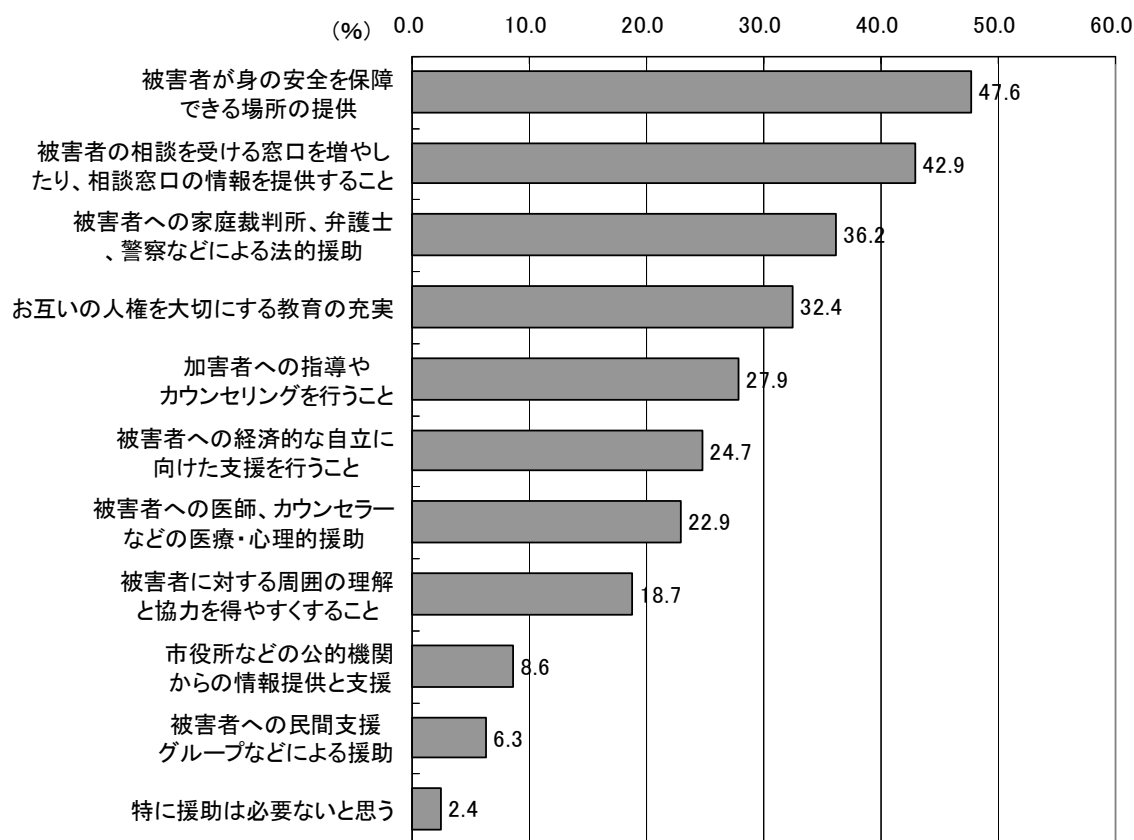
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
ある	37	3.7	170	12.3	5	13.5	212	8.8
ない	794	79.2	1136	82.1	23	62.2	1953	80.6
不明	171	17.1	77	5.6	9	24.3	257	10.6
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	17	33	54	49	21	36	2	212
ない	260	325	360	405	181	401	21	1953
不明	10	17	16	36	31	138	9	257
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
ある	5.9	8.8	12.6	10.0	9.0	6.3	6.3	8.8
ない	90.6	86.7	83.7	82.7	77.7	69.7	65.6	80.6
不明	3.5	4.5	3.7	7.3	13.3	24.0	28.1	10.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問8 パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思いますか。
 (3 択)



全体では、「被害者の安全場所の提供」(47.6%)、「被害者の相談窓口」(42.9%)がいずれも4割以上で比較的高い値を示す。また、「被害者への法的援助」(36.2%)、「人権教育の充実」(32.4%)の値も比較的高い。

性別や年齢による大きな差異は見られないが、特に「被害者の安全場所の提供」については「女性」(52.2%)、「30代」(52.3%)、「50代」(53.7%)が5割以上の高い値を示す。また、全体傾向においてこれに次いで高い値を示す「被害者の相談窓口」については、「男性」(44.7%)、「65歳以上」(46.4%)が比較的高い値を示す。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	194	19.4	395	28.6	10	27.0	599	24.7
被害者の相談を受ける窓口を増やしたり、相談窓口の情報を提供すること	448	44.7	577	41.7	15	40.5	1040	42.9
被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	406	40.5	456	33.0	15	40.5	877	36.2
被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	210	21.0	335	24.2	9	24.3	554	22.9
被害者への民間支援グループなどによる援助	77	7.7	74	5.4	1	2.7	152	6.3
被害者が身の安全を保障できる場所の提供	414	41.3	722	52.2	18	48.6	1154	47.6
被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	193	19.3	255	18.4	5	13.5	453	18.7
市役所などの公的機関からの情報提供と支援	107	10.7	100	7.2	2	5.4	209	8.6
加害者への指導やカウンセリングを行うこと	268	26.7	402	29.1	6	16.2	676	27.9
お互いの人権を大切にする教育の充実	343	34.2	429	31.0	13	35.1	785	32.4
特に援助は必要ないと思う	29	2.9	27	2.0	2	5.4	58	2.4

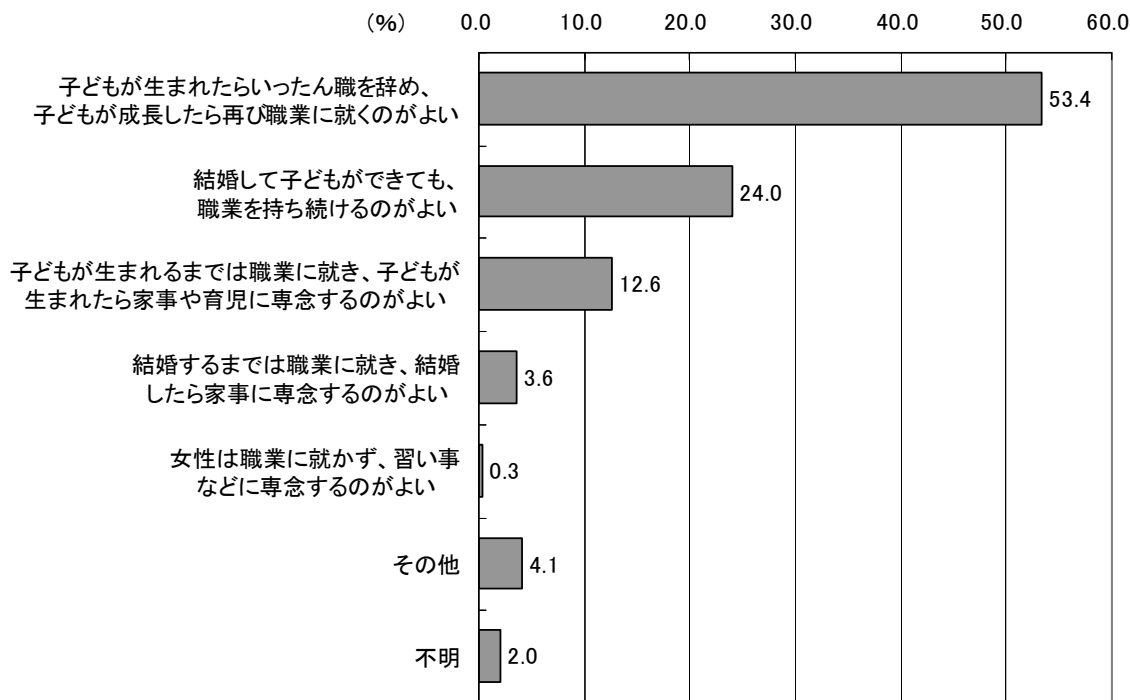
(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳 以上	不明	計
被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	59	99	115	133	61	124	8	599	
被害者の相談を受ける窓口を増やしたり、相談窓口の情報を提供すること	115	153	185	209	98	267	13	1040	
被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	120	150	186	165	74	172	10	877	
被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	99	104	119	86	40	97	9	554	
被害者への民間支援グループなどによる援助	16	25	22	27	18	43	1	152	
被害者が身の安全を保障できる場所の提供	143	196	207	263	100	231	14	1154	
被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	63	65	72	97	48	104	4	453	
市役所などの公的機関からの情報提供と支援	22	24	38	32	19	72	2	209	
加害者への指導やカウンセリングを行うこと	84	114	121	138	65	149	5	676	
お互いの人権を大切にする教育の充実	57	77	115	188	104	235	9	785	
特に援助は必要ないと思う	7	5	9	13	9	15		58	

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳 以上	不明	計
被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	20.6	26.4	26.7	27.1	26.2	21.6	25.0	24.7
被害者の相談を受ける窓口を増やしたり、相談窓口の情報を提供すること	40.1	40.8	43.0	42.7	42.1	46.4	40.6	42.9
被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	41.8	40.0	43.3	33.7	31.8	29.9	31.3	36.2
被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	34.5	27.7	27.7	17.6	17.2	16.9	28.1	22.9
被害者への民間支援グループなどによる援助	5.6	6.7	5.1	5.5	7.7	7.5	3.1	6.3
被害者が身の安全を保障できる場所の提供	49.8	52.3	48.1	53.7	42.9	40.2	43.8	47.6
被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	22.0	17.3	16.7	19.8	20.6	18.1	12.5	18.7
市役所などの公的機関からの情報提供と支援	7.7	6.4	8.8	6.5	8.2	12.5	6.3	8.6
加害者への指導やカウンセリングを行うこと	29.3	30.4	28.1	28.2	27.9	25.9	15.6	27.9
お互いの人権を大切にする教育の充実	19.9	20.5	26.7	38.4	44.6	40.9	28.1	32.4
特に援助は必要ないと思う	2.4	1.3	2.1	2.7	3.9	2.6	0.0	2.4

2. 労働や社会参画に関することについて

問 9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)



全体では、「子どもが生まれたりいったん辞め、成長後に再就業」(53.4%)の値が最も高く、過半数を占める。また、「結婚して子どもができて職業を持ち続ける」(24.0%)の値も比較的高い。一方、「女性は職業に就かず習い事に専念」(0.3%)はほとんど見られない。

性別や年齢による大きな差異は見られないが、全体傾向で最も高い値を示した「子どもが生まれたりいったん辞め、成長後に再就業」については、「女性」(56.0%)が「男性」(50.5%)よりも若干高い値を示し、年齢別では「50代」(59.0%)、「60～64歳」(62.2%)が比較的高い値を示す。

「結婚して子どもができて職業を持ち続ける」については、男女とも同じ値(23.9%)を示す。年齢別では「30代」(33.1%)が比較的高い値を示す一方で、「60～64歳」(15.0%)、「65歳以上」(18.1%)の値が低い。

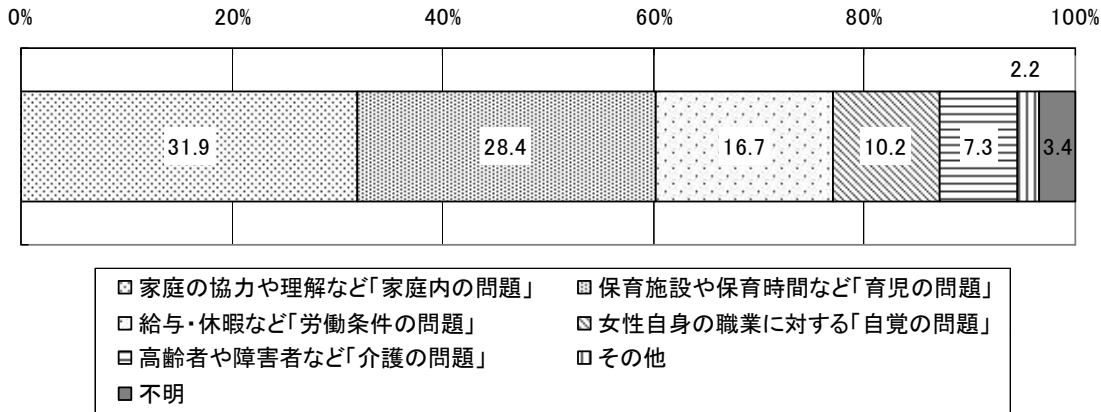
これらの結果を考え合わせると、女性が職業を持つことについて、性別や年齢による大きな差異はないが、60歳以上については、仕事よりも家庭や育児を重視すべきであるとする認識が若干うかがえる。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	239	23.9	330	23.9	12	32.4	581	24.0
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい	506	50.5	774	56.0	14	37.8	1294	53.4
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい	143	14.3	158	11.4	4	10.8	305	12.6
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい	47	4.7	40	2.9	1	2.7	88	3.6
女性は職業に就かず、習い事などに専念するのがよい	3	0.3	4	0.3		0.0	7	0.3
その他	45	4.5	53	3.8	1	2.7	99	4.1
不明	19	1.9	24	1.7	5	13.5	48	2.0
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	77	124	122	110	35	104	9	581	
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい	149	171	220	289	145	308	12	1294	
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい	29	42	46	52	31	101	4	305	
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい	10	9	7	16	12	33	1	88	
女性は職業に就かず、習い事などに専念するのがよい	1	1	1	1	1	2		7	
その他	17	24	29	16	5	7	1	99	
不明	4	4	5	6	4	20	5	48	
計	287	375	430	490	233	575	32	2422	

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	26.8	33.1	28.4	22.4	15.0	18.1	28.1	24.0
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい	51.9	45.6	51.2	59.0	62.2	53.6	37.5	53.4
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい	10.1	11.2	10.7	10.6	13.3	17.6	12.5	12.6
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい	3.5	2.4	1.6	3.3	5.2	5.7	3.1	3.6
女性は職業に就かず、習い事などに専念するのがよい	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3	0.0	0.3
その他	5.9	6.4	6.7	3.3	2.1	1.2	3.1	4.1
不明	1.4	1.1	1.2	1.2	1.7	3.5	15.6	2.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)



全体では、「家庭内の問題」(31.9%)、「育児の問題」(28.9%)の2項目が高い値を示す。また、「労働条件の問題」(16.7%)の値も比較的高い。

一方、女性自身の「自覚の問題」(10.2%)や「介護の問題」(7.3%)の値は低い。

性別・年齢別に見ると、男性は「家庭内の問題」(30.3%)と「育児の問題」(30.4%)がほぼ同じ割合であるが、女性は「家庭内の問題」(33.4%)が「育児の問題」(27.0%)を6.4ポイント上回る。年齢別では、「30代以下」は「育児の問題」が最も高い割合を占めるのに対して、「40代以上」では「家庭内の問題」の値がこれを上回る。

「労働条件の問題」は、「女性」(17.9%)が男性(15.0%)を若干上回り、若い世代ほど値が高い傾向が見られる。

「自覚の問題」は、「男性」(12.4%)が「女性」(8.5%)を上回り、加齢に伴い値が高くなる傾向が見られる。

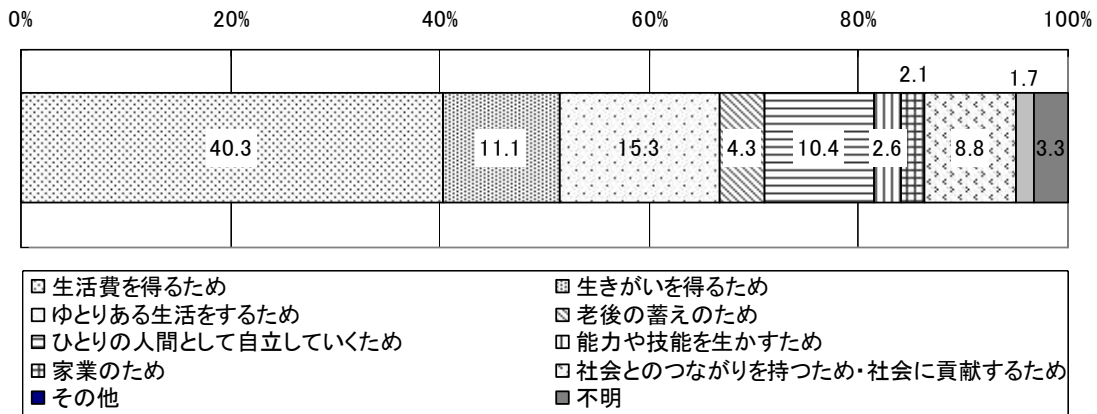
「介護の問題」は、「女性」(8.0%)が「男性」(6.2%)を若干上回り、年齢別では最も値が低い「30代」(1.9%)を除き、加齢に伴い値が高くなる傾向が見られる。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
家庭の協力や理解など「家庭内の問題」	304	30.3	462	33.4	7	18.9	773	31.9
保育施設や保育時間など「育児の問題」	305	30.4	373	27.0	9	24.3	687	28.4
給与・休暇など「労働条件の問題」	150	15.0	248	17.9	6	16.2	404	16.7
女性自身の職業に対する「自覚の問題」	124	12.4	117	8.5	5	13.5	246	10.2
高齢者や障害者など「介護の問題」	62	6.2	110	8.0	5	13.5	177	7.3
その他	24	2.4	29	2.1		0.0	53	2.2
不明	33	3.3	44	3.2	5	13.5	82	3.4
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
家庭の協力や理解など「家庭内の問題」		73	96	152	168	73	205	6	773
保育施設や保育時間など「育児の問題」		92	142	113	123	64	147	6	687
給与・休暇など「労働条件の問題」		76	83	87	65	33	54	6	404
女性自身の職業に対する「自覚の問題」		21	33	37	63	30	58	4	246
高齢者や障害者など「介護の問題」		10	7	18	47	21	71	3	177
その他		10	11	14	12	3	3	0	53
不明		5	3	9	12	9	37	7	82
計		287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
家庭の協力や理解など「家庭内の問題」	25.4	25.6	35.3	34.3	31.3	35.7	18.8	31.9
保育施設や保育時間など「育児の問題」	32.1	37.9	26.3	25.1	27.5	25.6	18.8	28.4
給与・休暇など「労働条件の問題」	26.5	22.1	20.2	13.3	14.2	9.4	18.8	16.7
女性自身の職業に対する「自覚の問題」	7.3	8.8	8.6	12.9	12.9	10.1	12.5	10.2
高齢者や障害者など「介護の問題」	3.5	1.9	4.2	9.6	9.0	12.3	9.4	7.3
その他	3.5	2.9	3.3	2.4	1.3	0.5	0.0	2.2
不明	1.7	0.8	2.1	2.4	3.9	6.4	21.9	3.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。（SA）



全体では、「生活費を得るため」（40.3%）が最も高い値を示し、それ以外の項目はいずれも 1 割程度以下にとどまる。

性別や年齢による大きな差異は見られないが、「生活費を得るため」については性別では「男性」（48.0%）、年齢別では「18～49 歳」（47.0～49.6%）が 5 割程度の比較的高い値を示す一方で、「女性」（34.9%）や「60 歳以上」（26.1～30.5%）は 4 割に満たない。また、「50 代」はこの中間値（43.5%）を示す。

全体傾向では高い値を示さないが、「ゆとりある生活をするため」「生きがいを得るため」における「女性」（17.8%、12.1%）が、「男性」（12.1%、9.8%）と比較して高い値を示す。また、加齢に伴いこれらの値が高くなる傾向が見られる。

これらの結果を考え合わせると、働く理由として、性別や年齢に関わらず、第一義的には「生活のため」があげられるものの、この傾向は「男性」「若年層」に特に顕著であり、「女性」「中高齢者」は「ゆとり」や「生きがい」を比較的重視しているといえる。

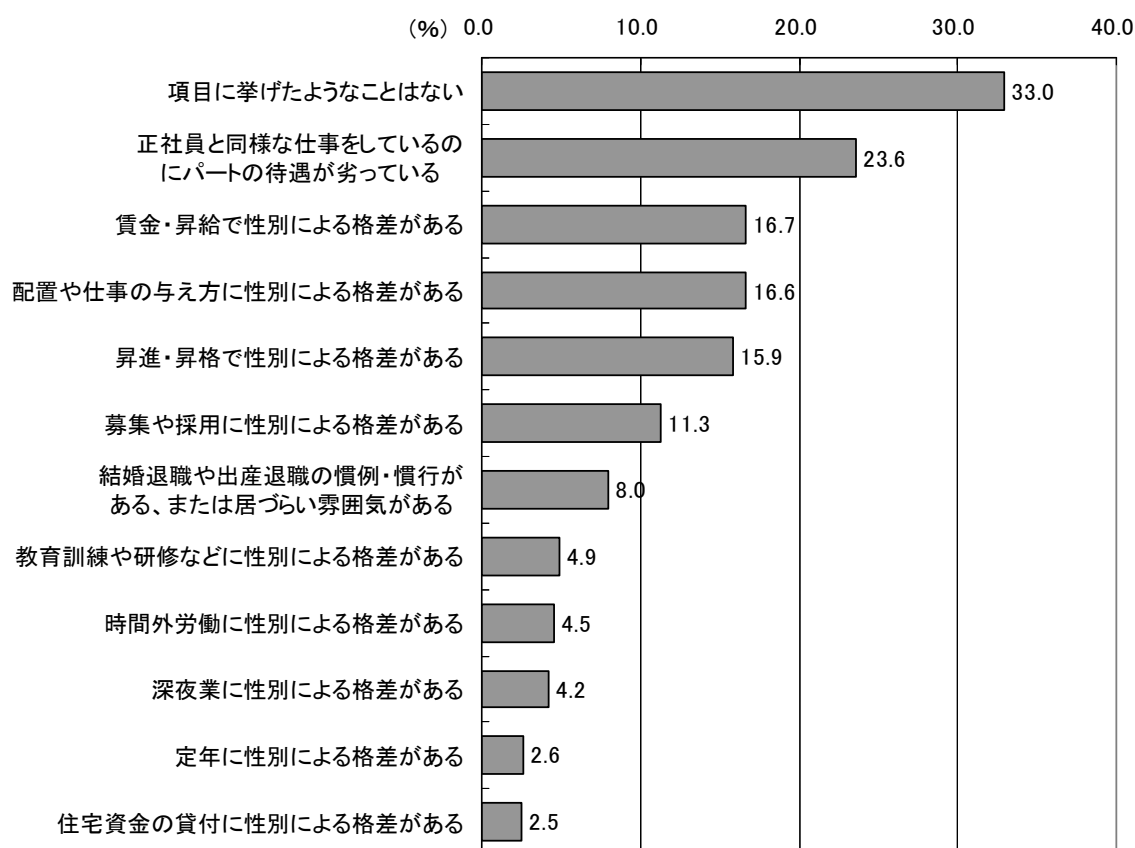
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
生活費を得るため	481	48.0	482	34.9	14	37.8	977	40.3
生きがいを得るため	98	9.8	167	12.1	5	13.5	270	11.1
ゆとりある生活をするため	121	12.1	246	17.8	4	10.8	371	15.3
老後の蓄えのため	32	3.2	71	5.1	0	0.0	103	4.3
ひとりの人間として自立していくため	101	10.1	149	10.8	3	8.1	253	10.4
能力や技能を生かすため	22	2.2	41	3.0	0	0.0	63	2.6
家業のため	14	1.4	37	2.7		0.0	51	2.1
社会とのつながりを持つため・社会に貢献するため	80	8.0	129	9.3	5	13.5	214	8.8
その他	22	2.2	19	1.4	0	0.0	41	1.7
不明	31	3.1	42	3.0	6	16.2	79	3.3
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
生活費を得るため	135	186	213	213	71	150	9	977	
生きがいを得るため	23	34	38	54	29	87	5	270	
ゆとりある生活をするため	24	63	62	75	38	105	4	371	
老後の蓄えのため	1	4	12	20	12	53	1	103	
ひとりの人間として自立していくため	52	50	34	40	28	48	1	253	
能力や技能を生かすため	17	8	8	11	5	14	0	63	
家業のため	1	3	10	13	9	15	0	51	
社会とのつながりを持つため・社会に貢献するため	20	18	42	45	32	53	4	214	
その他	9	7	7	7	3	8	0	41	
不明	5	2	4	12	6	42	8	79	
計	287	375	430	490	233	575	32	2422	

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
生活費を得るため	47.0	49.6	49.5	43.5	30.5	26.1	28.1	40.3
生きがいを得るため	8.0	9.1	8.8	11.0	12.4	15.1	15.6	11.1
ゆとりある生活をするため	8.4	16.8	14.4	15.3	16.3	18.3	12.5	15.3
老後の蓄えのため	0.3	1.1	2.8	4.1	5.2	9.2	3.1	4.3
ひとりの人間として自立していくため	18.1	13.3	7.9	8.2	12.0	8.3	3.1	10.4
能力や技能を生かすため	5.9	2.1	1.9	2.2	2.1	2.4	0.0	2.6
家業のため	0.3	0.8	2.3	2.7	3.9	2.6	0.0	2.1
社会とのつながりを持つため・社会に貢献するため	7.0	4.8	9.8	9.2	13.7	9.2	12.5	8.8
その他	3.1	1.9	1.6	1.4	1.3	1.4	0.0	1.7
不明	1.7	0.5	0.9	2.4	2.6	7.3	25.0	3.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 12 あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。(MA)

F4 で「6.専業主婦」「7.学生」「8.無職」以外と回答した 1,507 件



全体では、「項目に挙げたようなことはない」(33.0%) が最も高い値を示す。「パートの待遇」(23.6%) も 2 割以上の比較的高い値を示す。上記 2 項目以外は性別による格差に関する項目であるが、いずれも 1 割程度からそれ以下にとどまる。

性別・年齢別に見ると、「項目に挙げたようなことはない」は「女性」(36.9%)、「18～29 歳」(40.9%) の値が高く、「パートの待遇」は「女性」(29.6%)、「40 代」(29.7%) が比較的高い値を示す。

また、全体傾向では高い値を示さないが、「配置や仕事」における「男性」(19.5%)、「30 代」(23.4%)、「昇進・昇格」における「30 代」(21.2%)、「結婚退職や出産退職の慣例等」における「18～29 歳」が比較的高い値を示す。

これらの結果を考え合わせると、職場における性別の格差はあまり認識されていないが、「パートの待遇」については、比較的认识されており、特に「パート・アルバイト等」の従事者の割合が高い「女性」「40 代」が問題視しているといえる。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
募集や採用に性別による格差がある	86	11.5	84	11.2	0	0.0	170	11.3
賃金・昇給で性別による格差がある	118	15.7	133	17.7	0	0.0	251	16.7
昇進・昇格で性別による格差がある	127	16.9	111	14.8	1	16.7	239	15.9
配置や仕事の与え方に性別による格差がある	146	19.5	103	13.7	1	16.7	250	16.6
教育訓練や研修などに性別による格差がある	39	5.2	34	4.5	1	16.7	74	4.9
住宅資金の貸付に性別による格差がある	15	2.0	23	3.1	0	0.0	38	2.5
結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	46	6.1	74	9.9	0	0.0	120	8.0
定年に性別による格差がある	21	2.8	16	2.1	2	33.3	39	2.6
正社員と同様な仕事をしているのにパートの待遇が劣っている	132	17.6	222	29.6	1	16.7	355	23.6
深夜業に性別による格差がある	48	6.4	15	2.0	0	0.0	63	4.2
時間外労働に性別による格差がある	50	6.7	18	2.4	0	0.0	68	4.5
上記に挙げたようなことはない	219	29.2	277	36.9	1	16.7	497	33.0

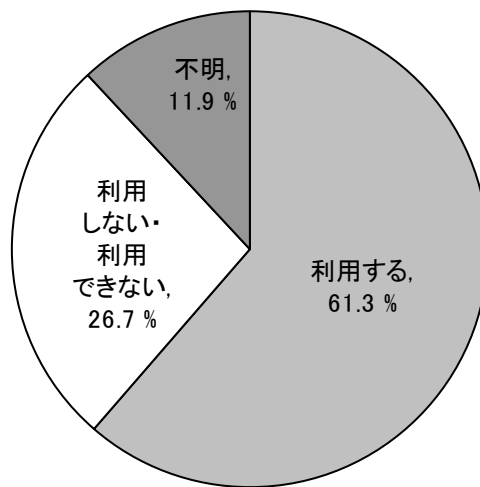
(年齢別)		18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳 以上	不明	計
	人数								
募集や採用に性別による格差がある	23	40	44	39	13	11	0	170	
賃金・昇給で性別による格差がある	17	56	68	75	23	12	0	251	
昇進・昇格で性別による格差がある	25	59	57	67	19	12	0	239	
配置や仕事の与え方に性別による格差がある	43	65	68	52	11	11	0	250	
教育訓練や研修などに性別による格差がある	7	22	19	17	5	4	0	74	
住宅資金の貸付に性別による格差がある	3	9	10	9	4	3	0	38	
結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	27	32	28	23	5	5	0	120	
定年に性別による格差がある	3	4	8	14	2	8	0	39	
正社員と同様な仕事をしているのにパートの待遇が劣っている	46	54	107	94	31	23	0	355	
深夜業に性別による格差がある	10	17	16	12	5	3	0	63	
時間外労働に性別による格差がある	16	14	15	15	6	2	0	68	
上記に挙げたようなことはない	83	98	126	125	32	33	0	497	

18～20 歳 N=203・30～39 歳 N=278・40～49 歳 N=360・50～59 歳 N=367・60～64 歳 N=131・65 歳以上 N=167・不明 N=1

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳 以上	不明	計
募集や採用に性別による格差がある	11.3	14.4	12.2	10.6	9.9	6.6	0.0	11.3
賃金・昇給で性別による格差がある	8.4	20.1	18.9	20.4	17.6	7.2	0.0	16.7
昇進・昇格で性別による格差がある	12.3	21.2	15.8	18.3	14.5	7.2	0.0	15.9
配置や仕事の与え方に性別による格差がある	21.2	23.4	18.9	14.2	8.4	6.6	0.0	16.6
教育訓練や研修などに性別による格差がある	3.4	7.9	5.3	4.6	3.8	2.4	0.0	4.9
住宅資金の貸付に性別による格差がある	1.5	3.2	2.8	2.5	3.1	1.8	0.0	2.5
結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	13.3	11.5	7.8	6.3	3.8	3.0	0.0	8.0
定年に性別による格差がある	1.5	1.4	2.2	3.8	1.5	4.8	0.0	2.6
正社員と同様な仕事をしているのにパートの待遇が劣っている	22.7	19.4	29.7	25.6	23.7	13.8	0.0	23.6
深夜業に性別による格差がある	4.9	6.1	4.4	3.3	3.8	1.8	0.0	4.2
時間外労働に性別による格差がある	7.9	5.0	4.2	4.1	4.6	1.2	0.0	4.5
上記に挙げたようなことはない	40.9	35.3	35.0	34.1	24.4	19.8	0.0	33.0

問 13 あなたに育児や介護が必要な家族がいた場合、法律や社内規定で定められた休業制度を利用しようと思いますか。(SA)

F4 で「6.専業主婦」「7.学生」「8.無職」以外と回答した 1,507 件



全体では、「利用する」(61.3%)が6割以上を占め、「利用しない・利用できない」(26.7%)を大きく上回る。

性別では、「利用する」について、「女性」(67.9%)が「男性」(54.8%)を13.1ポイント上回る。

年齢別では、「50代以下」で「利用する」が6割以上(61.7~68.5%)を占める。

一方「利用しない・利用できない」について、「男性」(29.1%)、「30代」(30.6%)、「40代」(31.7%)の値が比較的高い。

以上の結果を考え合わせると、意向を含めた休業制度の利用は6割程度にとどまり、特に「男性」と「30代」「40代」が「利用しない、利用できない」と考えている。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
利用する	411	54.8	510	67.9	3	50.0	924	61.3
利用しない・利用できない	218	29.1	183	24.4	2	33.3	403	26.7
不明	121	16.1	58	7.7	1	16.7	180	11.9
計	750	100.0	751	100.0	6	100.0	1507	100.0

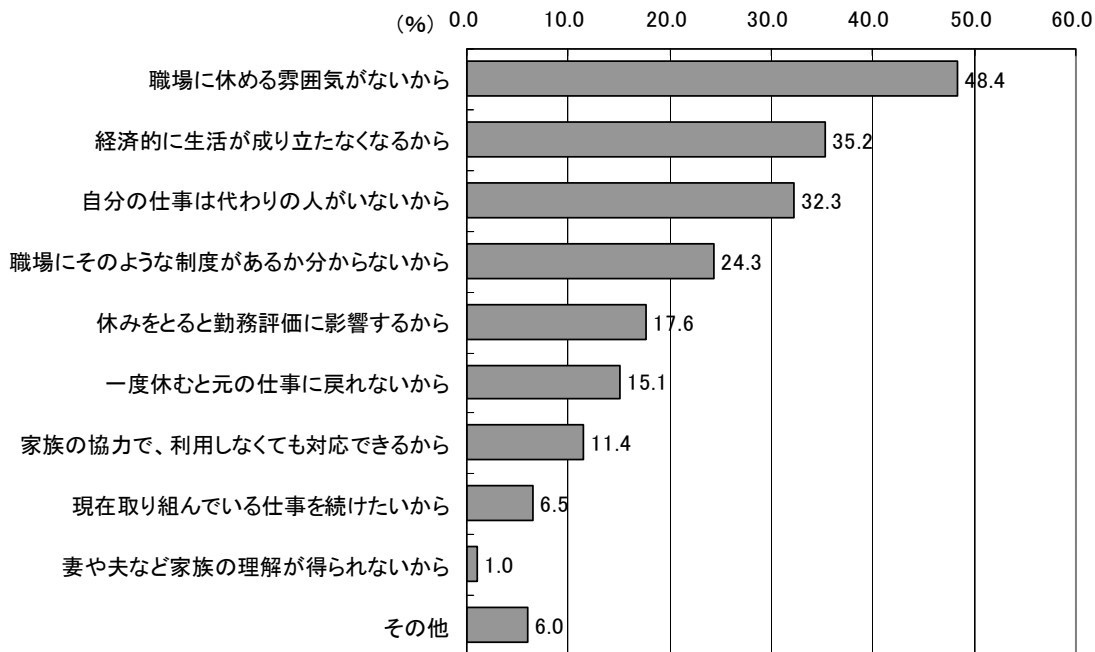
(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
利用する		139	175	222	236	75	77	0	924
利用しない・利用できない		53	85	114	100	28	23	0	403
不明		11	18	24	31	28	67	1	180
計		203	278	360	367	131	167	1	1507

18～20 歳 N=203・30～39 歳 N=278・40～49 歳 N=360・50～59 歳 N=367・60～64 歳 N=131・65 歳以上 N=167・不明 N=1

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
利用する	68.5	62.9	61.7	64.3	57.3	46.1	0.0	61.3
利用しない・利用できない	26.1	30.6	31.7	27.2	21.4	13.8	0.0	26.7
不明	5.4	6.5	6.7	8.4	21.4	40.1	100.0	11.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 14 休業制度を利用しない・できない理由は何ですか。(3 択)

F4 で「6.専業主婦」「7.学生」「8.無職」以外と回答、かつ問 13 で「利用しない・利用できない」と回答した 403 件



全体では、「職場に休める雰囲気がない」(48.4%) が最も高い値を示し、これに「経済的に生活が成り立たない」(35.2%)、「仕事の代わりがない」(32.3%)、「制度があるか分からない」(24.3%) などが続く。

性別では、全体傾向で高い値を示した 4 項目のうち、「職場に休める雰囲気がない」「経済的に生活が成り立たない」「仕事の代わりがない」の 3 項目は、「男性」(50.5%、41.3%、38.5%) が高い値を示す。一方、「制度があるか分からない」は「女性」(35.0%) の値が高い。また、全体傾向では高い値を示さないが、「一度休むと元の仕事に戻れない」における「女性」(22.4%) の値が高い。

年齢別に見ると、「休める雰囲気がない」は加齢に伴い値が低くなり、「18～29 歳」(60.4%) や「30 代」(54.1%) は 5 割以上の高い値を占める。

また、「仕事の代わりがない」における「40 代」(39.5%)、「制度があるか分からない」における「18～29 歳」(34.0%) の値が比較的高い。

「制度があるか分からない」については、回答者の約 4 割 (38.8%) が「女性」の「パート・アルバイト」(n=98) であり、先の問 12「パートの待遇」の結果と考え合わせると、「パート・アルバイト」の特異な傾向がうかがえる。

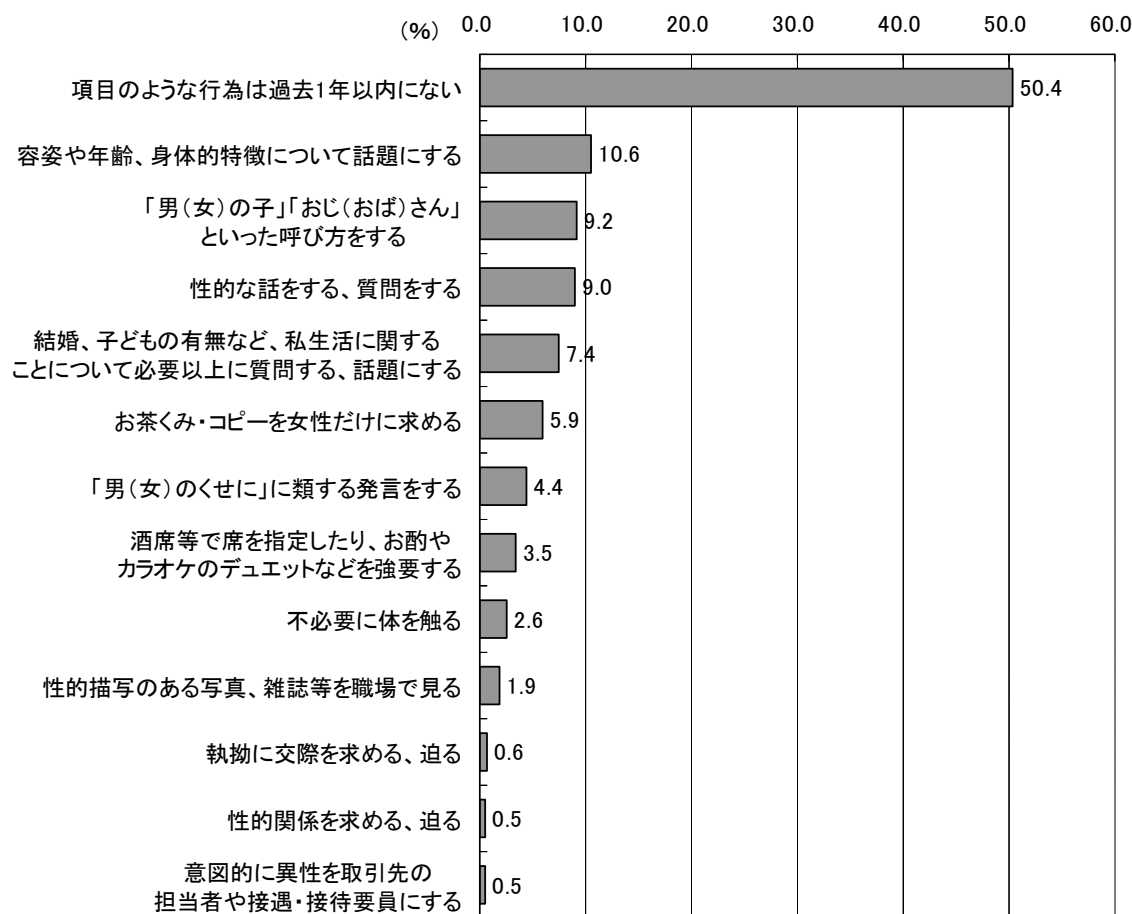
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
経済的に生活が成り立たなくなるから	90	41.3	52	28.4	0	0.0	142	35.2
職場に休める雰囲気がないから	110	50.5	85	46.4	0	0.0	195	48.4
休みをとると勤務評価に影響するから	44	20.2	27	14.8	0	0.0	71	17.6
自分の仕事は代わりの人がいないから	84	38.5	45	24.6	1	50.0	130	32.3
一度休むと元の仕事に戻れないから	20	9.2	41	22.4	0	0.0	61	15.1
現在取り組んでいる仕事を続けたいから	19	8.7	7	3.8	0	0.0	26	6.5
妻や夫など家族の理解が得られないから	2	0.9	2	1.1	0	0.0	4	1.0
家族の協力で、利用しなくても対応できるから	30	13.8	16	8.7	0	0.0	46	11.4
職場にそのような制度があるか分からないから	33	15.1	64	35.0	1	50.0	98	24.3
その他	5	2.3	19	10.4	0	0.0	24	6.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
経済的に生活が成り立たなくなるから		16	31	44	34	10	7	0	142
職場に休める雰囲気がないから		32	46	56	45	8	8	0	195
休みをとると勤務評価に影響するから		8	21	15	19	5	3	0	71
自分の仕事は代わりの人がいないから		10	24	45	35	9	7	0	130
一度休むと元の仕事に戻れないから		9	15	14	19	2	2	0	61
現在取り組んでいる仕事を続けたいから		4	4	9	3	2	4	0	26
妻や夫など家族の理解が得られないから		0	0	1	1	2	0	0	4
家族の協力で、利用しなくても対応できるから		8	9	9	11	4	5	0	46
職場にそのような制度があるか分からないから		18	23	26	22	8	1	0	98
その他		1	4	13	4	0	2	0	24

18～20 歳 N=53・30～39 歳 N=85・40～49 歳 N=114・50～59 歳 N=100・60～64 歳 N=28・65 歳以上 N=23・不明 N=0

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
経済的に生活が成り立たなくなるから	30.2	36.5	38.6	34.0	35.7	30.4	0.0	35.2
職場に休める雰囲気がないから	60.4	54.1	49.1	45.0	28.6	34.8	0.0	48.4
休みをとると勤務評価に影響するから	15.1	24.7	13.2	19.0	17.9	13.0	0.0	17.6
自分の仕事は代わりの人がいないから	18.9	28.2	39.5	35.0	32.1	30.4	0.0	32.3
一度休むと元の仕事に戻れないから	17.0	17.6	12.3	19.0	7.1	8.7	0.0	15.1
現在取り組んでいる仕事を続けたいから	7.5	4.7	7.9	3.0	7.1	17.4	0.0	6.5
妻や夫など家族の理解が得られないから	0.0	0.0	0.9	1.0	7.1	0.0	0.0	1.0
家族の協力で、利用しなくても対応できるから	15.1	10.6	7.9	11.0	14.3	21.7	0.0	11.4
職場にそのような制度があるか分からないから	34.0	27.1	22.8	22.0	28.6	4.3	0.0	24.3
その他	1.9	4.7	11.4	4.0	0.0	8.7	0.0	6.0

問 15 性的いやがらせ（セクシュアルハラスメント）及びそれに関することについてうかがいます。
あなたの職場で下に掲げるような行為が、過去 1 年以内にありましたか（見聞きしたものを含めて）。（MA）



全体では、「過去 1 年以内でない」（50.4%）が 5 割以上を占め、それ以外の項目はいずれも 1 割程度からそれ以下にとどまる。

性別では、全体傾向で高い値を示した「過去 1 年以内でない」における「女性」（52.5%）の値が比較的高い。

年齢では、全体で高い値を示さない項目の中で、「容姿や年齢等を話題にする」「性的な話・質問をする」「不必要に体を触る」の 3 項目における「18～29 歳」（18.7%、19.2%、8.4%）の値や、「私生活を質問・話題にする」における「30 代」（14.7%）の値が比較的高い。

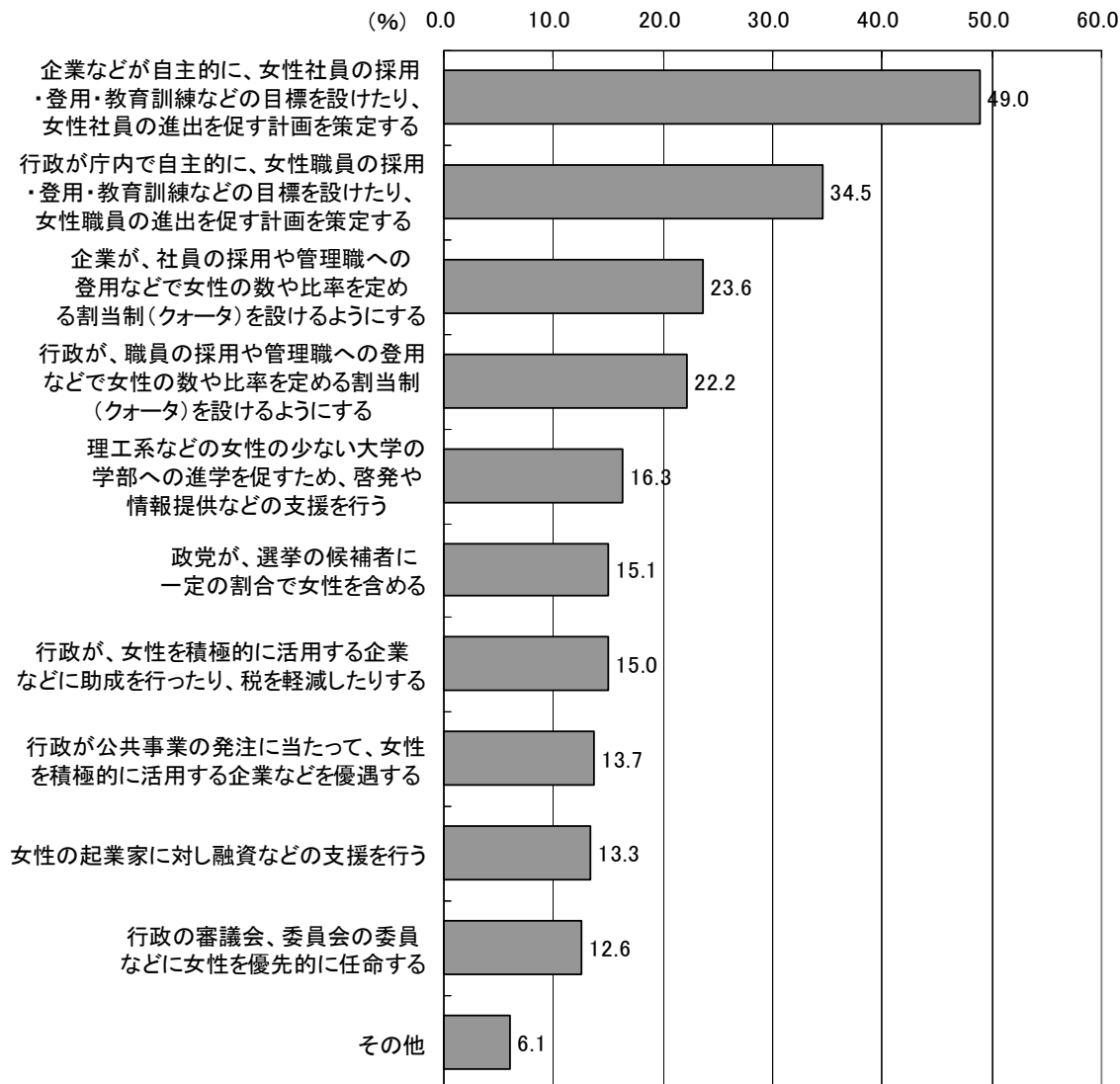
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
性的な話をする、質問をする	70	9.3	65	8.7	1	16.7	136	9.0
結婚、子どもの有無など、私生活に関することについて必要以上に質問する、話題にする	48	6.4	62	8.3	2	33.3	112	7.4
容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	70	9.3	89	11.9	0	0.0	159	10.6
「男(女)のくせに」に類する発言をする	28	3.7	38	5.1	0	0.0	66	4.4
「男(女)の子」「おじ(おば)さん」といった呼び方をする	64	8.5	74	9.9	0	0.0	138	9.2
性的描写のある写真、雑誌等を職場で見る	19	2.5	10	1.3	0	0.0	29	1.9
不必要に体を触る	7	0.9	32	4.3	0	0.0	39	2.6
酒席等で席を指定したり、お酌やカラオケのデュエットなどを強要する	23	3.1	29	3.9	0	0.0	52	3.5
執拗に交際を求める、迫る	1	0.1	8	1.1	0	0.0	9	0.6
性的関係を求める、迫る	1	0.1	7	0.9	0	0.0	8	0.5
意図的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	2	0.3	6	0.8	0	0.0	8	0.5
お茶くみ・コピーを女性だけに求める	34	4.5	54	7.2	1	16.7	89	5.9
上記のような行為は過去 1 年以内でない	362	48.3	394	52.5	3	50.0	759	50.4

(年齢別)	人数	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 64 歳	65 歳 以上	不明	計
性的な話をする、質問をする	39	31	33	26	4	3	0	136	
結婚、子どもの有無など、私生活に関することについて必要以上に質問する、話題にする	22	41	24	19	4	2	0	112	
容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	38	41	46	31	3	0	0	159	
「男(女)のくせに」に類する発言をする	9	16	16	17	5	3	0	66	
「男(女)の子」「おじ(おば)さん」といった呼び方をする	15	34	38	36	9	6	0	138	
性的描写のある写真、雑誌等を職場で見る	8	3	9	8	1	0	0	29	
不必要に体を触る	17	12	6	2	2	0	0	39	
酒席等で席を指定したり、お酌やカラオケのデュエットなどを強要する	13	15	12	6	3	3	0	52	
執拗に交際を求める、迫る	4	3	2	0	0	0	0	9	
性的関係を求める、迫る	4	2	2	0	0	0	0	8	
意図的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	2	4	2	0	0	0	0	8	
お茶くみ・コピーを女性だけに求める	15	29	13	24	4	4	0	89	
上記のような行為は過去 1 年以内でない	106	146	198	191	60	58	0	759	

18～20 歳 N=203・30～39 歳 N=278・40～49 歳 N=360・50～59 歳 N=367・60～64 歳 N=131・65 歳以上 N=167・不明 N=1

%	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 64 歳	65 歳 以上	不明	計
性的な話をする、質問をする	19.2	11.2	9.2	7.1	3.1	1.8	0.0	9.0
結婚、子どもの有無など、私生活に関することについて必要以上に質問する、話題にする	10.8	14.7	6.7	5.2	3.1	1.2	0.0	7.4
容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	18.7	14.7	12.8	8.4	2.3	0.0	0.0	10.6
「男(女)のくせに」に類する発言をする	4.4	5.8	4.4	4.6	3.8	1.8	0.0	4.4
「男(女)の子」「おじ(おば)さん」といった呼び方をする	7.4	12.2	10.6	9.8	6.9	3.6	0.0	9.2
性的描写のある写真、雑誌等を職場で見る	3.9	1.1	2.5	2.2	0.8	0.0	0.0	1.9
不必要に体を触る	8.4	4.3	1.7	0.5	1.5	0.0	0.0	2.6
酒席等で席を指定したり、お酌やカラオケのデュエットなどを強要する	6.4	5.4	3.3	1.6	2.3	1.8	0.0	3.5
執拗に交際を求める、迫る	2.0	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
性的関係を求める、迫る	2.0	0.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
意図的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	1.0	1.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
お茶くみ・コピーを女性だけに求める	7.4	10.4	3.6	6.5	3.1	2.4	0.0	5.9
上記のような行為は過去 1 年以内でない	52.2	52.5	55.0	52.0	45.8	34.7	0.0	50.4

問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。(MA)



全体では、「企業が自主的に進出を促す計画を策定」(49.0%)が約 5 割の高い値を示す。また、「行政が庁内で自主的に進出を促す計画を策定」(34.5%)、「企業が割当制を設ける」(23.6%)、「行政が割当制を設ける」(22.2%)なども比較的高い値を示す。これら 4 項目以外はいずれも 2 割に満たない。

性別による大きな差異はなく、年齢別では、「企業が自主的に進出を促す計画を策定」「行政が庁内で自主的に進出を促す計画を策定」における「60～64 歳」(54.9%、39.5%)の値が比較的高く、後者については「65 歳以上」(42.1%)の値も比較的高い。また、「企業が役割性を設ける」における「18～29 歳」(31.0%)の値も比較的高い。

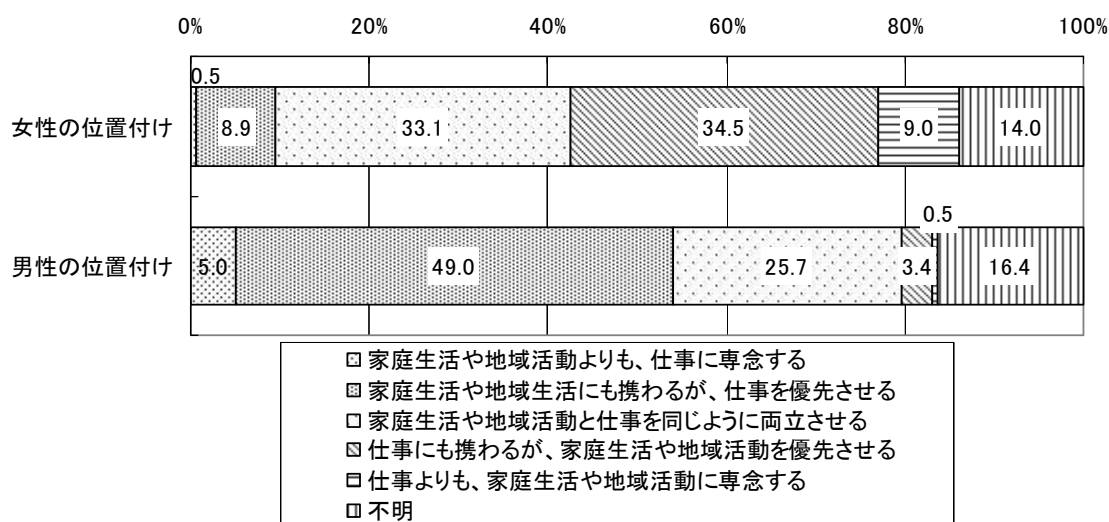
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含める	161	16.1	200	14.5	4	10.8	365	15.1
行政の審議会、委員会の委員などに女性を優先的に任命する	128	12.8	171	12.4	6	16.2	305	12.6
行政が公共事業の発注に当たって女性を積極的に活用する企業などを優遇する	143	14.3	183	13.2	6	16.2	332	13.7
行政が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする	144	14.4	214	15.5	6	16.2	364	15.0
行政が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	213	21.3	313	22.6	12	32.4	538	22.2
行政が庁内で自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する	335	33.4	492	35.6	9	24.3	836	34.5
企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	234	23.4	330	23.9	8	21.6	572	23.6
企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	482	48.1	694	50.2	10	27.0	1186	49.0
理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	191	19.1	203	14.7	1	2.7	395	16.3
女性の起業家に対し融資などの支援を行う	121	12.1	198	14.3	4	10.8	323	13.3
その他	78	7.8	65	4.7	4	10.8	147	6.1

(年齢別)	人数	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 64 歳	65 歳以 上	不明	計
政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含める	54	52	67	74	31	84	3	365	
行政の審議会、委員会の委員などに女性を優先的に任命する	24	32	42	67	34	103	3	305	
行政が公共事業の発注に当たって女性を積極的に活用する企業などを優遇する	33	50	63	65	34	81	6	332	
行政が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする	39	68	73	69	34	77	4	364	
行政が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	64	69	89	109	54	145	8	538	
行政が庁内で自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する	97	118	119	162	92	242	6	836	
企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	89	101	118	107	48	106	3	572	
企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	134	187	209	242	128	279	7	1186	
理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	53	67	59	62	38	115	1	395	
女性の起業家に対し融資などの支援を行う	37	45	62	61	36	78	4	323	
その他	19	38	30	26	13	17	4	147	

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	計
政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含める	18.8	13.9	15.6	15.1	13.3	14.6	9.4	15.1
行政の審議会、委員会の委員などに女性を優先的に任命する	8.4	8.5	9.8	13.7	14.6	17.9	9.4	12.6
行政が公共事業の発注に当たって女性を積極的に活用する企業などを優遇する	11.5	13.3	14.7	13.3	14.6	14.1	18.8	13.7
行政が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする	13.6	18.1	17.0	14.1	14.6	13.4	12.5	15.0
行政が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	22.3	18.4	20.7	22.2	23.2	25.2	25.0	22.2
行政が庁内で自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する	33.8	31.5	27.7	33.1	39.5	42.1	18.8	34.5
企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	31.0	26.9	27.4	21.8	20.6	18.4	9.4	23.6
企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	46.7	49.9	48.6	49.4	54.9	48.5	21.9	49.0
理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	18.5	17.9	13.7	12.7	16.3	20.0	3.1	16.3
女性の起業家に対し融資などの支援を行う	12.9	12.0	14.4	12.4	15.5	13.6	12.5	13.3
その他	6.6	10.1	7.0	5.3	5.6	3.0	12.5	6.1

問 17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付けることが望ましいと思いますか。(SA)



全体では、「男性の位置付け」は「仕事優先」（49.0％）が約 5 割を占め、「女性の位置付け」は「家庭・地域が優先」（34.5％）と「家庭・地域と仕事を両立」（33.1％）が同程度の高い値を示す。「家庭・地域と仕事を両立」は「男性の位置付け」の値（25.7％）も比較的高い。

次に、性別・年齢別に見るにあたり、「家庭・地域と仕事を両立」を「0」、「仕事優先」を「+1」、「仕事専念」を「+2」、「家庭・地域優先」を「-1」、「家庭・地域専念」を「-2」とし、性別・年齢別の加重平均値を求めた。これにより負の値が大きいくほど「家庭・地域」が重視され、正の値が大きいくほど「仕事」が重視され、「0」に近いほど「両立」と考えられていると判断できる。なお、加重平均値を求めるにあたり、「不明」は除外した。

加重平均値は下表のとおりである。これによると、「女性の位置付け」は全ての性別、年齢別で負の値を示すことから「家庭・地域」がより重視されるべきと考えられており、「男性の位置付け」は正の値を示すことから「仕事」がより重視されるべきと考えられているといえる。

性別では、「男性の位置付け」が「仕事」を重視すべきという傾向に男女の差異は見られない（男女ともに 0.65）。しかし、「女性の位置付け」については、「男性」（-0.60）の方が「女性」（-0.43）と比較して「家庭・地域」をより重視すべきと考えられているといえる。

年齢別では、「男性の位置付け」の「仕事」重視志向は「50 代以上」で全体の平均値 0.66 を上回る高い値を示す。しかし、「女性の位置付け」については、「65 歳以上」（-0.42）で比較的低い値を示すものの、年齢による大きな差異は見られない。

これらから、「男性の位置付け」は「仕事」とする考え方に男女差、年齢による大きな差は見られないが、「女性の位置付け」については「男性」のほうが「女性」よりも、より「家庭・地域」重視と考えており、男女の位置付けは年齢よりも性別によって考え方が異なるといえる。

加重平均値

	男性	女性	性別平均	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	年齢別平均
女性の位置付け	-0.60	-0.43	-0.52	-0.54	-0.55	-0.47	-0.51	-0.52	-0.42	-0.50
男性の位置付け	0.65	0.65	0.65	0.55	0.55	0.60	0.70	0.84	0.74	0.66

①女性

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	1	0.1	12	0.9		0.0	13	0.5
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	68	6.8	145	10.5	2	5.4	215	8.9
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	282	28.1	510	36.9	9	24.3	801	33.1
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	339	33.8	488	35.3	8	21.6	835	34.5
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	106	10.6	112	8.1	1	2.7	219	9.0
不明	206	20.6	116	8.4	17	45.9	339	14.0
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する		2	1	2	2	6		13
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	19	27	35	52	22	59	1	215
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	110	135	166	159	63	161	7	801
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	118	159	160	171	84	137	6	835
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	23	34	32	53	21	55	1	219
不明	17	18	36	53	41	157	17	339
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	0.0	0.5	0.2	0.4	0.9	1.0	0.0	0.5
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	6.6	7.2	8.1	10.6	9.4	10.3	3.1	8.9
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	38.3	36.0	38.6	32.4	27.0	28.0	21.9	33.1
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	41.1	42.4	37.2	34.9	36.1	23.8	18.8	34.5
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	8.0	9.1	7.4	10.8	9.0	9.6	3.1	9.0
不明	5.9	4.8	8.4	10.8	17.6	27.3	53.1	14.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②男性

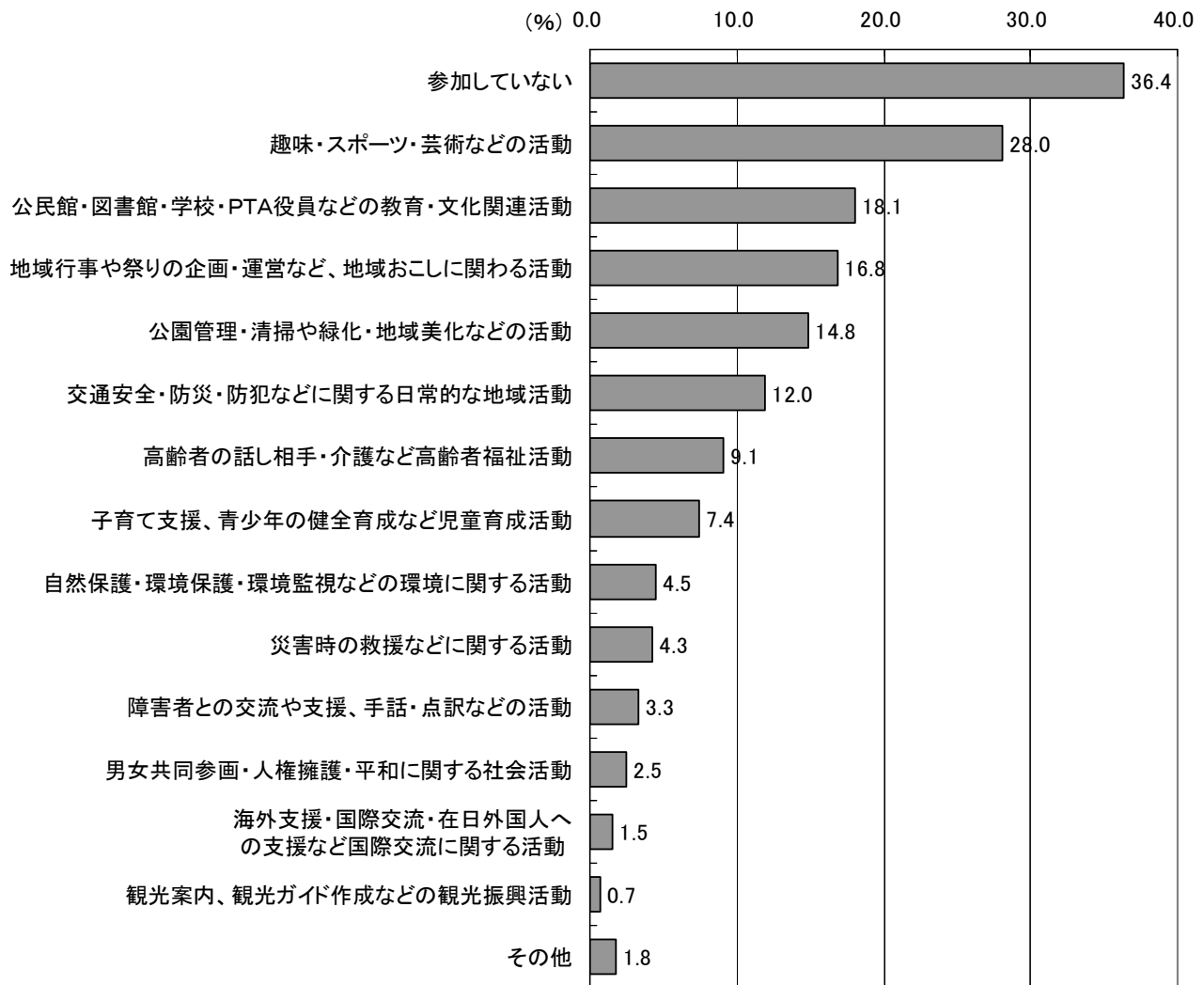
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	66	6.6	51	3.7	4	10.8	121	5.0
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	514	51.3	663	47.9	9	24.3	1186	49.0
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	279	27.8	337	24.4	7	18.9	623	25.7
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	40	4.0	42	3.0	1	2.7	83	3.4
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	8	0.8	3	0.2	1	2.7	12	0.5
不明	95	9.5	287	20.8	15	40.5	397	16.4
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)

人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	8	13	15	29	14	40	2	121
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	148	191	215	262	131	232	7	1186
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	100	136	146	108	33	95	5	623
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	13	16	13	17	4	19	1	83
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	1	2		4	1	3	1	12
不明	17	17	41	70	50	186	16	397
計	287	375	430	490	233	575	32	2422

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以 上	不明	計
家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	2.8	3.5	3.5	5.9	6.0	7.0	6.3	5.0
家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる	51.6	50.9	50.0	53.5	56.2	40.3	21.9	49.0
家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	34.8	36.3	34.0	22.0	14.2	16.5	15.6	25.7
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	4.5	4.3	3.0	3.5	1.7	3.3	3.1	3.4
仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	0.3	0.5	0.0	0.8	0.4	0.5	3.1	0.5
不明	5.9	4.5	9.5	14.3	21.5	32.3	50.0	16.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)



全体では、「参加していない」(36.4%)が最も高い値を示し、これに「趣味・スポーツ・芸術などの活動」(28.0%)が続く。上記2項目以外はいずれも2割に満たない。

性別では、全体傾向で高い値を示した2項目について、性別による大きな差異は見られないが、「公民館・図書館・PTA役員などの活動」における「女性」(23.4%)の値が比較的高い。

年齢別では、「参加していない」は「18～29歳」(58.9%)、「30代」(47.7%)の値が高い。一方、選択肢であげた地域活動のうち、「公民館・図書館・PTA役員などの活動」を除く全ての項目において、「65歳以上」の値は全体の平均値を上回る。全体傾向で高い値を示した「趣味・スポーツ・芸術などの活動」については「60～64歳」(36.9%)の値も比較的高い。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
高齢者の話し相手・介護など高齢者福祉活動	78	7.8	141	10.2	2	5.4	221	9.1
障害者との交流や支援、手話・点訳などの活動	34	3.4	46	3.3	0	0.0	80	3.3
公民館・図書館・学校・PTA役員などの教育・文化関連活動	108	10.8	324	23.4	6	16.2	438	18.1
地域行事や祭りの企画・運営など、地域おこしに関わる活動	219	21.9	186	13.4	3	8.1	408	16.8
趣味・スポーツ・芸術などの活動	303	30.2	369	26.7	7	18.9	679	28.0
公園管理・清掃や緑化・地域美化などの活動	167	16.7	189	13.7	3	8.1	359	14.8
自然保護・環境保護・環境監視などの環境に関する活動	68	6.8	40	2.9	2	5.4	110	4.5
災害時の救援などに関する活動	69	6.9	34	2.5	1	2.7	104	4.3
交通安全・防災・防犯などに関する日常的な地域活動	145	14.5	143	10.3	2	5.4	290	12.0
男女共同参画・人権擁護・平和に関する社会活動	28	2.8	31	2.2	1	2.7	60	2.5
海外支援・国際交流・在日外国人への支援など国際交流に関する活動	18	1.8	19	1.4	0	0.0	37	1.5
子育て支援、青少年の健全育成など児童育成活動	65	6.5	113	8.2	1	2.7	179	7.4
観光案内、観光ガイド作成などの観光振興活動	9	0.9	8	0.6	1	2.7	18	0.7
その他	19	1.9	22	1.6	2	5.4	43	1.8
参加していない	379	37.8	495	35.8	7	18.9	881	36.4

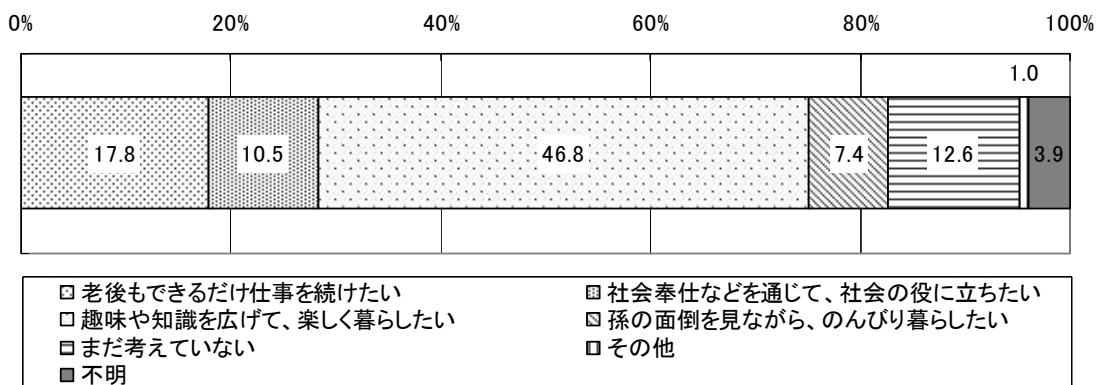
(年齢別)	人数	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 64 歳	65 歳 以上	不明	計
高齢者の話し相手・介護など高齢者福祉活動		23	17	24	42	26	89	0	221
障害者との交流や支援、手話・点訳などの活動		15	6	15	13	9	21	1	80
公民館・図書館・学校・PTA役員などの教育・文化関連活動		14	88	139	69	35	86	7	438
地域行事や祭りの企画・運営など、地域おこしに関わる活動		22	48	59	98	53	127	1	408
趣味・スポーツ・芸術などの活動		65	68	112	148	86	194	6	679
公園管理・清掃や緑化・地域美化などの活動		17	35	60	70	40	136	1	359
自然保護・環境保護・環境監視などの環境に関する活動		3	10	10	25	11	51	0	110
災害時の救援などに関する活動		16	8	18	17	11	34	0	104
交通安全・防災・防犯などに関する日常的な地域活動		8	37	39	58	33	113	2	290
男女共同参画・人権擁護・平和に関する社会活動		6	2	5	8	6	33	0	60
海外支援・国際交流・在日外国人への支援など国際交流に関する活動		4	6	6	7	2	12	0	37
子育て支援、青少年の健全育成など児童育成活動		10	22	32	34	23	57	1	179
観光案内、観光ガイド作成などの観光振興活動		1	0	3	4	1	9	0	18
その他		2	2	4	11	8	14	2	43
参加していない		169	179	135	176	60	156	6	881

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 64 歳	65 歳 以上	不明	計
高齢者の話し相手・介護など高齢者福祉活動	8.0	4.5	5.6	8.6	11.2	15.5	0.0	9.1
障害者との交流や支援、手話・点訳などの活動	5.2	1.6	3.5	2.7	3.9	3.7	3.1	3.3
公民館・図書館・学校・PTA役員などの教育・文化関連活動	4.9	23.5	32.3	14.1	15.0	15.0	21.9	18.1
地域行事や祭りの企画・運営など、地域おこしに関わる活動	7.7	12.8	13.7	20.0	22.7	22.1	3.1	16.8
趣味・スポーツ・芸術などの活動	22.6	18.1	26.0	30.2	36.9	33.7	18.8	28.0
公園管理・清掃や緑化・地域美化などの活動	5.9	9.3	14.0	14.3	17.2	23.7	3.1	14.8
自然保護・環境保護・環境監視などの環境に関する活動	1.0	2.7	2.3	5.1	4.7	8.9	0.0	4.5
災害時の救援などに関する活動	5.6	2.1	4.2	3.5	4.7	5.9	0.0	4.3
交通安全・防災・防犯などに関する日常的な地域活動	2.8	9.9	9.1	11.8	14.2	19.7	6.3	12.0
男女共同参画・人権擁護・平和に関する社会活動	2.1	0.5	1.2	1.6	2.6	5.7	0.0	2.5
海外支援・国際交流・在日外国人への支援など国際交流に関する活動	1.4	1.6	1.4	1.4	0.9	2.1	0.0	1.5
子育て支援、青少年の健全育成など児童育成活動	3.5	5.9	7.4	6.9	9.9	9.9	3.1	7.4
観光案内、観光ガイド作成などの観光振興活動	0.3	0.0	0.7	0.8	0.4	1.6	0.0	0.7
その他	0.7	0.5	0.9	2.2	3.4	2.4	6.3	1.8
参加していない	58.9	47.7	31.4	35.9	25.8	27.1	18.8	36.4

3. 健康や福祉に関することについて

問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。（SA）



全体では、「趣味や知識を広げて楽しく暮らしたい」（46.8％）の値が約 5 割を占める。また、「老後もできるだけ仕事」（17.8％）の値も比較的高い。それ以外の項目はいずれも 1 割程度以下である。

性別では、全体で高い値を示した 2 項目のうち、「趣味や知識を広げて楽しく暮らしたい」は「女性」（50.6％）、「老後もできるだけ仕事」は「男性」（23.0％）の値が比較的高い。

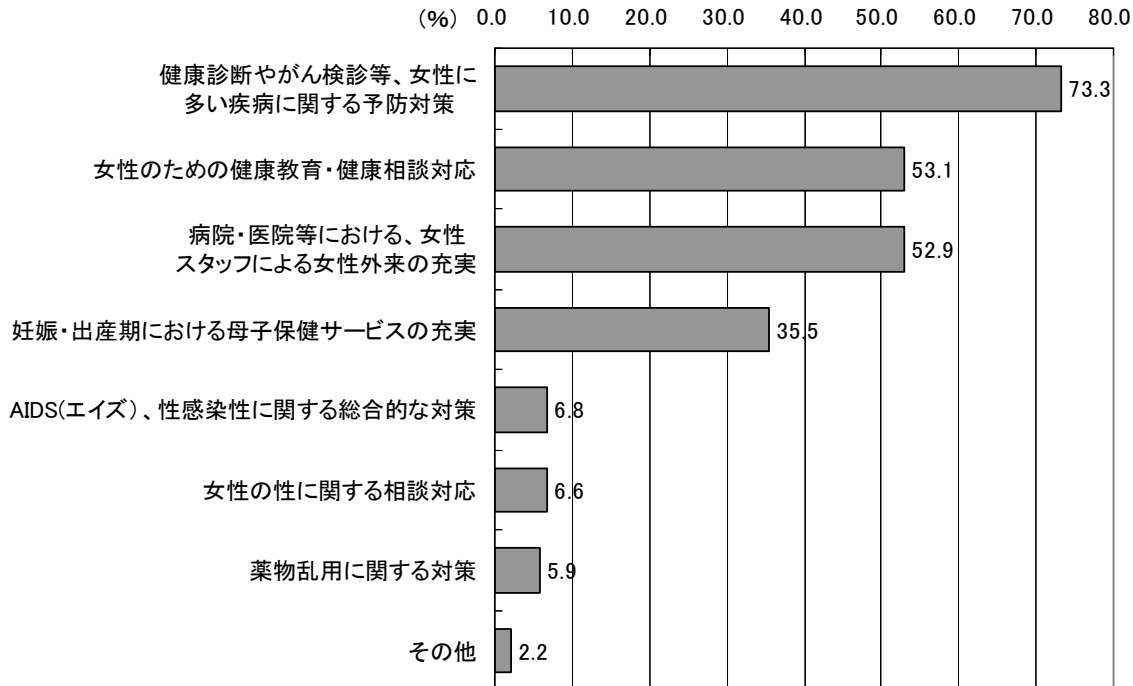
年齢別では、全体項目で高い値を示した 2 項目は大きな差異は見られないが、「まだ考えていない」は若年層ほど値が高く、「18～29 歳」（22.6％）や「30 代」（20.8％）は 2 割以上の比較的高い値を示す。「18～29 歳」については「孫の面倒を見ながらのんびり」（13.6％）の値も比較的高い。また、「社会奉仕等」については、加齢に伴い値が高くなる傾向が見られる。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
老後もできるだけ仕事を続けたい	230	23.0	200	14.5	2	5.4	432	17.8
社会奉仕などを通じて、社会の役に立ちたい	120	12.0	132	9.5	3	8.1	255	10.5
趣味や知識を広げて、楽しく暮らしたい	418	41.7	700	50.6	15	40.5	1133	46.8
孫の面倒を見ながら、のんびり暮らしたい	61	6.1	116	8.4	3	8.1	180	7.4
まだ考えていない	125	12.5	177	12.8	2	5.4	304	12.6
その他	9	0.9	14	1.0	1	2.7	24	1.0
不明	39	3.9	44	3.2	11	29.7	94	3.9
計	1002	100.0	1383	100.0	37	100.0	2422	100.0

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以 上	不明	計
老後もできるだけ仕事を続けたい	24	66	87	85	51	117	2	432	
社会奉仕などを通じて、社会の役に立ちたい	8	24	49	56	30	85	3	255	
趣味や知識を広げて、楽しく暮らしたい	139	158	199	236	114	275	12	1133	
孫の面倒を見ながら、のんびり暮らしたい	39	40	20	21	16	43	1	180	
まだ考えていない	65	78	58	71	10	20	2	304	
その他	5	3	1	3	3	8	1	24	
不明	7	6	16	18	9	27	11	94	
計	287	375	430	490	233	575	32	2422	

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
老後もできるだけ仕事を続けたい	8.4	17.6	20.2	17.3	21.9	20.3	6.3	17.8
社会奉仕などを通じて、社会の役に立ちたい	2.8	6.4	11.4	11.4	12.9	14.8	9.4	10.5
趣味や知識を広げて、楽しく暮らしたい	48.4	42.1	46.3	48.2	48.9	47.8	37.5	46.8
孫の面倒を見ながら、のんびり暮らしたい	13.6	10.7	4.7	4.3	6.9	7.5	3.1	7.4
まだ考えていない	22.6	20.8	13.5	14.5	4.3	3.5	6.3	12.6
その他	1.7	0.8	0.2	0.6	1.3	1.4	3.1	1.0
不明	2.4	1.6	3.7	3.7	3.9	4.7	34.4	3.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問 20 女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。(3 択)



全体では、「女性に多い疾病予防対策」(73.3%)が7割以上の高い値を示す。これに次ぐ「健康相談対応」(53.1%)、「女性外来の充実」(52.9%)も5割以上の高い値を示し、「母子保健サービス充実」(35.5%)も比較的高い値を示す。上記4項目以外はいずれも1割に満たない。

性別では、全体傾向で最も高い値を示した「女性に多い疾病予防対策」や「女性外来の充実」における「女性」(77.6%、58.9%)の値が比較的高い。

年齢別では、全体傾向で最も高い値を示した「女性に多い疾病予防対策」は年齢による大きな差異は見られないが、「健康相談対応」における「60歳以上」(「60～64歳」65.7%、「65歳以上」59.5%)、「女性外来の充実」における「30～50代」(「30代」58.4%、「40代」59.1%、「50代」58.0%)、「母子保健サービスの充実」における「10～30代」(「18～29歳」58.5%、「30代」44.3%)の値が比較的高い。また、全体傾向では高い値を示さないが、「性感染症に関する対策」における「18～29歳」(13.2%)の値も比較的高い。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
女性のための健康教育・健康相談対応	529	52.8	741	53.6	15	40.5	1285	53.1
女性の性に関する相談対応	68	6.8	92	6.7	1	2.7	161	6.6
AIDS(エイズ)、性感染性に関する総合的な対策	77	7.7	84	6.1	3	8.1	164	6.8
健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	684	68.3	1073	77.6	18	48.6	1775	73.3
病院・医院等における、女性スタッフによる女性外来の充実	456	45.5	814	58.9	12	32.4	1282	52.9
妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	381	38.0	469	33.9	10	27.0	860	35.5
薬物乱用に関する対策	61	6.1	82	5.9	1	2.7	144	5.9
その他	22	2.2	29	2.1	2	5.4	53	2.2

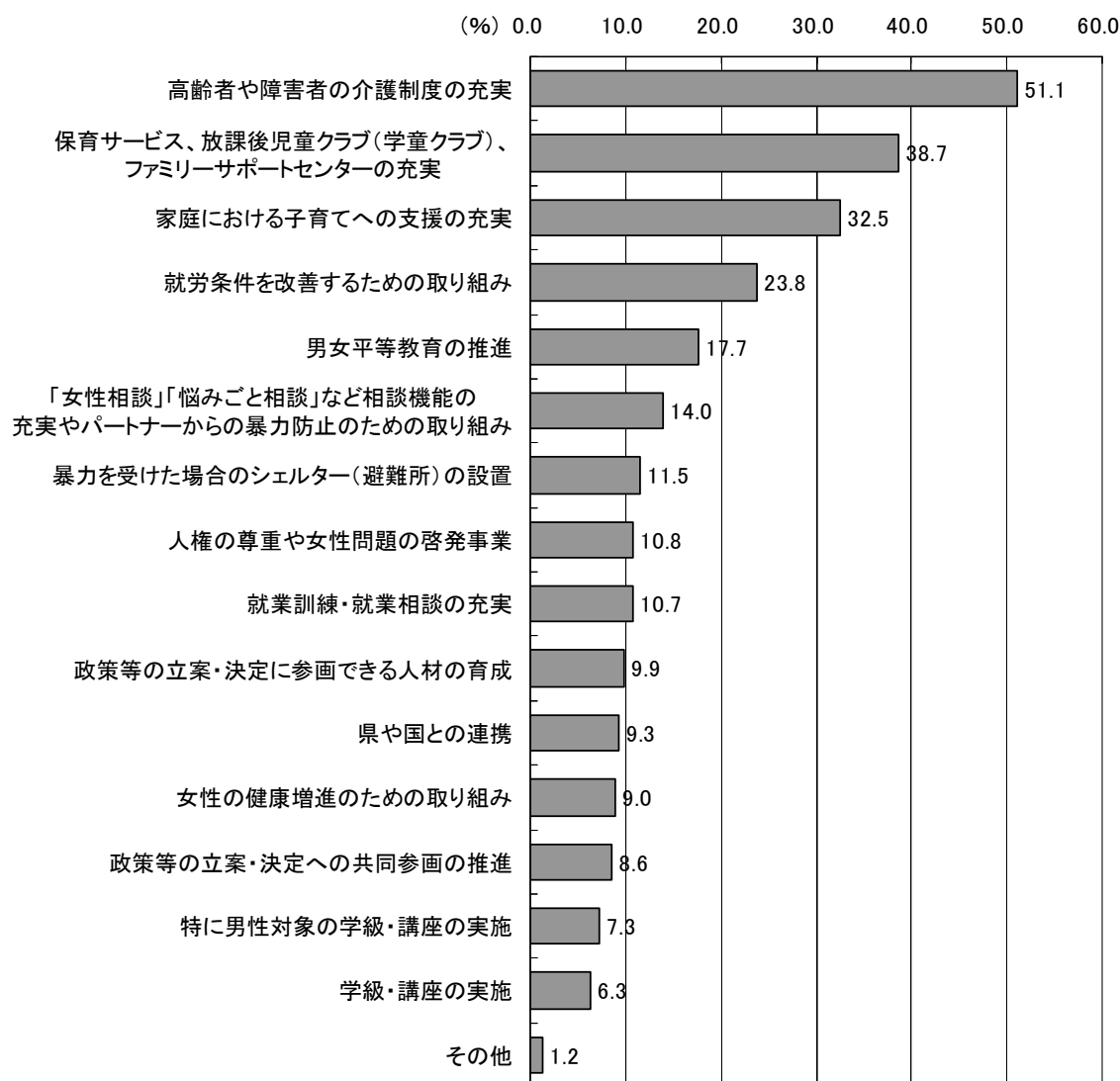
(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳 以上	不明	計
女性のための健康教育・健康相談対応		114	177	209	277	153	342	13	1285
女性の性に関する相談対応		31	29	35	31	4	30	1	161
AIDS(エイズ)、性感染性に関する総合的な対策		38	16	26	30	17	37	0	164
健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策		197	294	302	361	179	430	12	1775
病院・医院等における、女性スタッフによる女性外来の充実		150	219	254	284	129	237	9	1282
妊娠・出産期における母子保健サービスの充実		168	166	139	147	83	149	8	860
薬物乱用に関する対策		20	9	14	28	14	59	0	144
その他		9	11	8	8	2	13	2	53

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳 以上	不明	計
女性のための健康教育・健康相談対応	39.7	47.2	48.6	56.5	65.7	59.5	40.6	53.1
女性の性に関する相談対応	10.8	7.7	8.1	6.3	1.7	5.2	3.1	6.6
AIDS(エイズ)、性感染性に関する総合的な対策	13.2	4.3	6.0	6.1	7.3	6.4	0.0	6.8
健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	68.6	78.4	70.2	73.7	76.8	74.8	37.5	73.3
病院・医院等における、女性スタッフによる女性外来の充実	52.3	58.4	59.1	58.0	55.4	41.2	28.1	52.9
妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	58.5	44.3	32.3	30.0	35.6	25.9	25.0	35.5
薬物乱用に関する対策	7.0	2.4	3.3	5.7	6.0	10.3	0.0	5.9
その他	3.1	2.9	1.9	1.6	0.9	2.3	6.3	2.2

4. 男女共同参画社会の実現に向けた行政の取り組みについて

問 21 「男女共同参画社会の実現」に向けて、高崎市は、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（3 択）



全体では、「介護制度の充実」(51.1%) が最も高い値を示し、これに「保育サービス等」(38.7%)、「家庭の子育て支援」(32.5%) が続く。3 割以上を示す上記 3 項目はいずれも「介護」「子育て支援」に関する項目である。また、「男女平等教育の推進」(17.7%) の値も比較的高い。一方、「男性対象の学級・講座」(7.3%) は 1 割に満たない。

性別では、全体傾向で最も高い値を示した「介護制度の充実」における「女性」(54.4%) が比較的高い値を示す。

年齢別では、全体傾向で高い値を示した 3 項目について、「介護制度の充実」では「50 代以上」(「50 代」 59.0%、「60～64 歳」 59.7%、「65 歳以上」 59.1%)、「保育サービス等」「家庭の子育て支援」は「10～30 代」(「18～29 歳」 43.9%・38.0%、「30 代」 51.5%・42.1%) の値が比較的高い。また、この「10～30 代」は「就労条件の改善」(「18～29 歳」 33.8%、「30 代」 29.6%) の値も比較的高い。

「男女平等教育の推進」は性別や年齢による大きな差異は見られない。

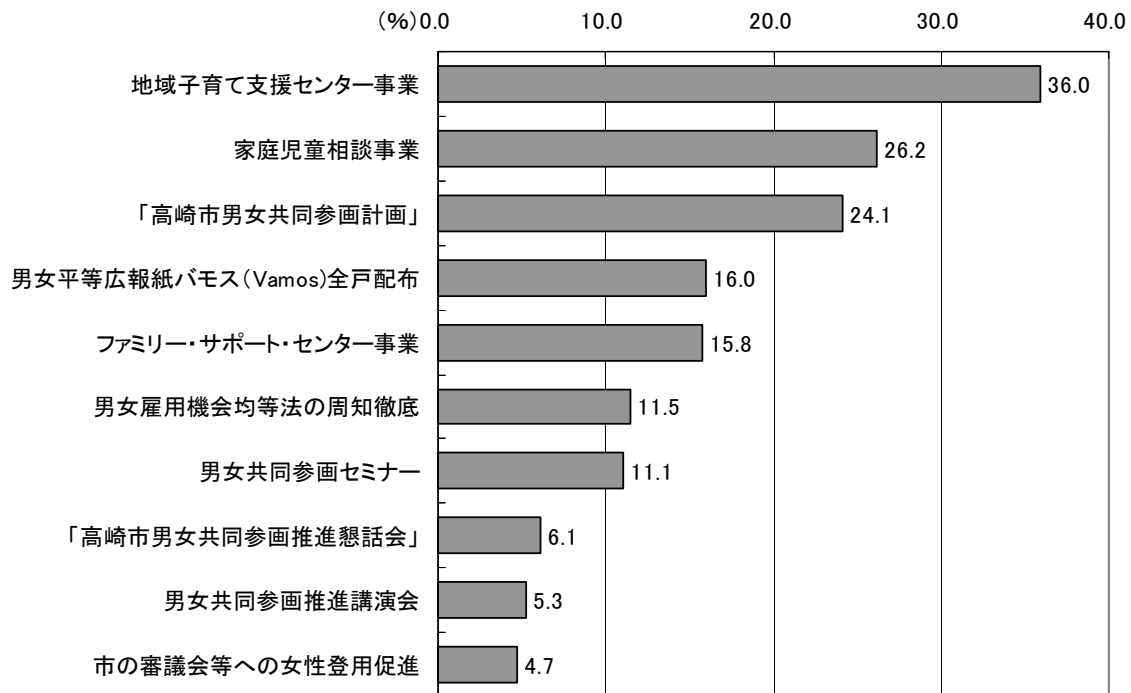
(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
学級・講座の実施	60	6.0	90	6.5	2	5.4	152	6.3
特に男性対象の学級・講座の実施	82	8.2	92	6.7	3	8.1	177	7.3
「女性相談」「悩みごと相談」など相談機能の充実やパートナーからの暴力防止のための取り組み	163	16.3	171	12.4	5	13.5	339	14.0
暴力を受けた場合のシェルター(避難所)の設置	125	12.5	147	10.6	6	16.2	278	11.5
保育サービス、放課後児童クラブ(学童クラブ)、ファミリーサポートセンターの充実	362	36.1	562	40.6	14	37.8	938	38.7
家庭における子育てへの支援の充実	340	33.9	441	31.9	6	16.2	787	32.5
男女平等教育の推進	197	19.7	225	16.3	6	16.2	428	17.7
高齢者や障害者の介護制度の充実	467	46.6	753	54.4	18	48.6	1238	51.1
女性の健康増進のための取り組み	70	7.0	144	10.4	3	8.1	217	9.0
政策等の立案・決定への共同参画の推進	96	9.6	109	7.9	3	8.1	208	8.6
政策等の立案・決定に参画できる人材の育成	87	8.7	148	10.7	4	10.8	239	9.9
就労条件を改善するための取り組み	237	23.7	331	23.9	9	24.3	577	23.8
就業訓練・就業相談の充実	93	9.3	165	11.9	1	2.7	259	10.7
人権の尊重や女性問題の啓発事業	122	12.2	135	9.8	5	13.5	262	10.8
県や国との連携	98	9.8	124	9.0	4	10.8	226	9.3
その他	21	2.1	9	0.7	0	0.0	30	1.2

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳 以上	不明	計
学級・講座の実施		8	18	19	34	18	54	1	152
特に男性対象の学級・講座の実施		11	14	32	37	26	54	3	177
「女性相談」「悩みごと相談」など相談機能の充実やパートナーからの暴力防止のための取り組み		51	47	60	70	27	78	6	339
暴力を受けた場合のシェルター(避難所)の設置		42	47	64	53	18	49	5	278
保育サービス、放課後児童クラブ(学童クラブ)、ファミリーサポートセンターの充実		126	193	165	169	85	191	9	938
家庭における子育てへの支援の充実		109	158	137	143	70	167	3	787
男女平等教育の推進		50	61	78	91	43	101	4	428
高齢者や障害者の介護制度の充実		118	144	194	289	139	340	14	1238
女性の健康増進のための取り組み		19	26	29	46	23	72	2	217
政策等の立案・決定への共同参画の推進		19	25	31	45	29	56	3	208
政策等の立案・決定に参画できる人材の育成		19	28	36	49	33	71	3	239
就労条件を改善するための取り組み		97	111	117	122	38	83	9	577
就業訓練・就業相談の充実		27	40	52	66	29	43	2	259
人権の尊重や女性問題の啓発事業		21	25	51	60	32	68	5	262
県や国との連携		24	28	44	35	25	67	3	226
その他		7	8	6	5	1	3		30

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳 以上	不明	計
学級・講座の実施	2.8	4.8	4.4	6.9	7.7	9.4	3.1	6.3
特に男性対象の学級・講座の実施	3.8	3.7	7.4	7.6	11.2	9.4	9.4	7.3
「女性相談」「悩みごと相談」など相談機能の充実やパートナーからの暴力防止のための取り組み	17.8	12.5	14.0	14.3	11.6	13.6	18.8	14.0
暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の設置	14.6	12.5	14.9	10.8	7.7	8.5	15.6	11.5
保育サービス、放課後児童クラブ（学童クラブ）、ファミリーサポートセンターの充実	43.9	51.5	38.4	34.5	36.5	33.2	28.1	38.7
家庭における子育てへの支援の充実	38.0	42.1	31.9	29.2	30.0	29.0	9.4	32.5
男女平等教育の推進	17.4	16.3	18.1	18.6	18.5	17.6	12.5	17.7
高齢者や障害者の介護制度の充実	41.1	38.4	45.1	59.0	59.7	59.1	43.8	51.1
女性の健康増進のための取り組み	6.6	6.9	6.7	9.4	9.9	12.5	6.3	9.0
政策等の立案・決定への共同参画の推進	6.6	6.7	7.2	9.2	12.4	9.7	9.4	8.6
政策等の立案・決定に参画できる人材の育成	6.6	7.5	8.4	10.0	14.2	12.3	9.4	9.9
就労条件を改善するための取り組み	33.8	29.6	27.2	24.9	16.3	14.4	28.1	23.8
就業訓練・就業相談の充実	9.4	10.7	12.1	13.5	12.4	7.5	6.3	10.7
人権の尊重や女性問題の啓発事業	7.3	6.7	11.9	12.2	13.7	11.8	15.6	10.8
県や国との連携	8.4	7.5	10.2	7.1	10.7	11.7	9.4	9.3
その他	2.4	2.1	1.4	1.0	0.4	0.5	0.0	1.2

問 22 現在、高崎市が行っている下記の取り組みのうち、あなたが知っている取り組み。(MA)



全体では、「地域子育て支援センター事業」(36.0%)が最も高い値を示し、これに「家庭児童相談事業」(26.2%)、「高崎市男女共同参画計画」(24.1%)が続く。これら3項目以外はいずれも1割程度以下である。

性別では、全体で最も高い値を示した「地域子育て支援センター事業」における「女性」(41.1%)の値が高い。また、全体傾向では高い値を示さないが、「男女雇用機会均等法の周知徹底」における「男性」(14.7%)の値が比較的高い。

年齢別では、全体で高い値を示した3項目について、「地域子育て支援センター事業」は「30代」(42.1%)、「家庭児童相談事業」「高崎市男女共同参画計画」は「65歳以上」(33.4%、29.9%)の値が比較的高い。「65歳以上」については、「地域子育て支援センター事業」「ファミリー・サポート・センター事業」の2項目を除く全ての項目で全体の平均値より高い認知度を示している。また、全体傾向では高い値を示さないが、「ファミリー・サポート・センター事業」における「40代」(22.6%)、「男女雇用機会均等法の周知徹底」における「60～64歳」(17.6%)の値が比較的高い。全体的に加齢に伴い値が高くなる傾向がうかがえる。

(性別)	男性	%	女性	%	不明	%	計	%
「高崎市男女共同参画計画」	266	26.5	310	22.4	8	21.6	584	24.1
「高崎市男女共同参画推進懇話会」	75	7.5	70	5.1	2	5.4	147	6.1
男女平等広報紙バモス(Vamos)全戸配布	167	16.7	218	15.8	3	8.1	388	16.0
男女共同参画セミナー	114	11.4	153	11.1	1	2.7	268	11.1
男女共同参画推進講演会	61	6.1	66	4.8	1	2.7	128	5.3
市の審議会等への女性登用促進	65	6.5	44	3.2	6	16.2	115	4.7
男女雇用機会均等法の周知徹底	147	14.7	125	9.0	7	18.9	279	11.5
家庭児童相談事業	249	24.9	376	27.2	10	27.0	635	26.2
地域子育て支援センター事業	291	29.0	569	41.1	11	29.7	871	36.0
ファミリー・サポート・センター事業	100	10.0	276	20.0	6	16.2	382	15.8

(年齢別)	人数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	計
「高崎市男女共同参画計画」	55	80	94	123	55	172	5	584	
「高崎市男女共同参画推進懇話会」	8	7	18	31	15	67	1	147	
男女平等広報紙バモス(Vamos)全戸配布	17	59	57	79	44	130	2	388	
男女共同参画セミナー	27	23	37	69	30	81	1	268	
男女共同参画推進講演会	7	10	8	31	16	55	1	128	
市の審議会等への女性登用促進	5	9	13	26	17	41	4	115	
男女雇用機会均等法の周知徹底	15	21	30	72	41	94	6	279	
家庭児童相談事業	53	75	102	135	70	192	8	635	
地域子育て支援センター事業	69	158	160	188	89	198	9	871	
ファミリー・サポート・センター事業	28	111	97	64	25	53	4	382	

18～20 歳 N=287・30～39 歳 N=375・40～49 歳 N=430・50～59 歳 N=490・60～64 歳 N=233・65 歳以上 N=375・不明 N=32

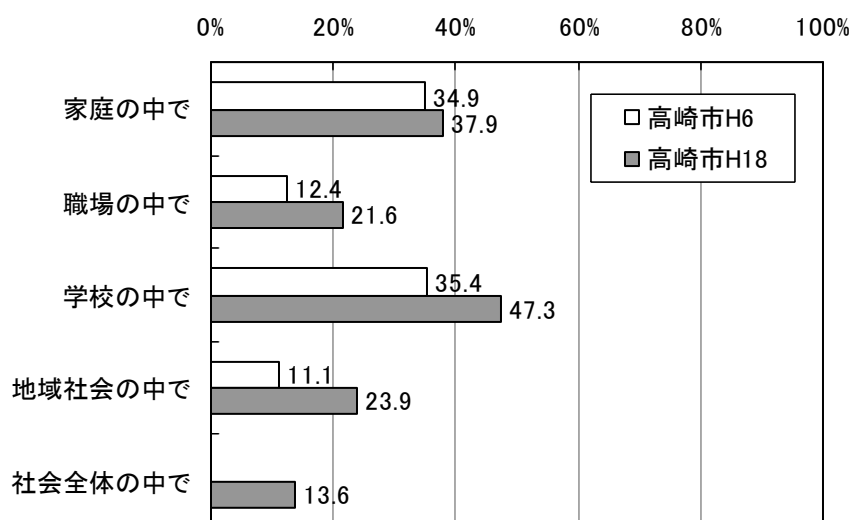
%	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65歳以上	不明	計
「高崎市男女共同参画計画」	19.2	21.3	21.9	25.1	23.6	29.9	15.6	24.1
「高崎市男女共同参画推進懇話会」	2.8	1.9	4.2	6.3	6.4	11.7	3.1	6.1
男女平等広報紙バモス(Vamos)全戸配布	5.9	15.7	13.3	16.1	18.9	22.6	6.3	16.0
男女共同参画セミナー	9.4	6.1	8.6	14.1	12.9	14.1	3.1	11.1
男女共同参画推進講演会	2.4	2.7	1.9	6.3	6.9	9.6	3.1	5.3
市の審議会等への女性登用促進	1.7	2.4	3.0	5.3	7.3	7.1	12.5	4.7
男女雇用機会均等法の周知徹底	5.2	5.6	7.0	14.7	17.6	16.3	18.8	11.5
家庭児童相談事業	18.5	20.0	23.7	27.6	30.0	33.4	25.0	26.2
地域子育て支援センター事業	24.0	42.1	37.2	38.4	38.2	34.4	28.1	36.0
ファミリー・サポート・センター事業	9.8	29.6	22.6	13.1	10.7	9.2	12.5	15.8

5. 前回調査や国の調査等との比較

ここでは、平成 6 年度に高崎市が実施した調査（「女性問題に関する市民意識実態調査」N=1,740 人 以下「H6 高崎市」）や平成 16 年度に内閣府が実施した調査（「男女共同参画社会に関する世論調査」N=3,502 人 以下「H16 国」）、さらに平成 13 年度に高崎市が実施した「市民アンケート」（N=2,498 人 以下「H13 市民」）との比較できる設問について、本調査結果（図中「高崎市 H18」）の傾向を見る。

なお、設問やその選択肢の表現は、先の調査とは完全には一致していない。各設問の比較の対象をそれぞれ図下に示す。

問 1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（SA）



【本調査】	【H6 高崎市】
問 1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（SA）	問 2 あなたは、次のような面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（SA）
（場面） ①家庭の中で ②職場の中で ③学校の中で ④地域社会の中で ⑤社会全体の中で	（場面） 1 家庭の中で 2 職場の中で 3 学校の中で 4 地域社会の中で
＜選択肢＞ 1 男性の方が非常に優遇されている 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ 3 平等 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている 5 女性の方が非常に優遇されている 6 分からない	＜選択肢＞ ☒ 1 平等になっている 2 平等になっていない 3 どちらともいえない

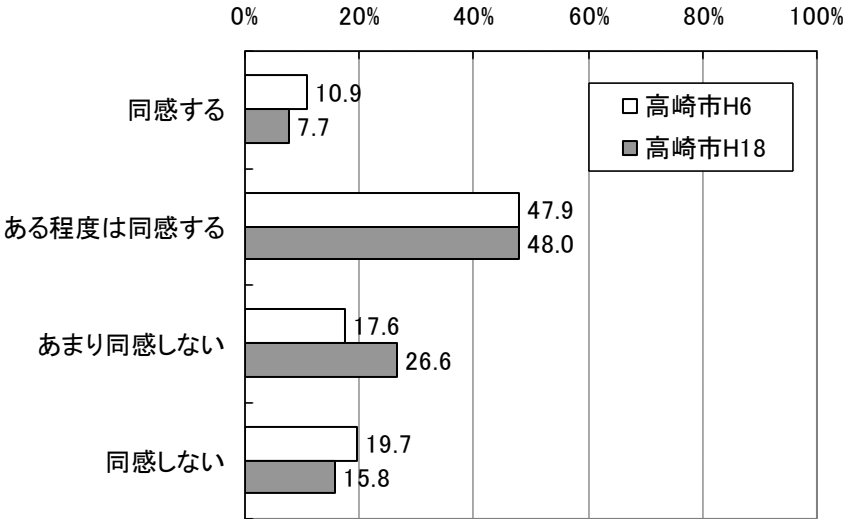
※：比較を行った選択肢番号を ☐ で囲む（各「場面」について「平等」についてのみ比較）。

※：「社会全体の中で」は今回新たに設けた項目。参考のために表示。

※：前回調査（H6 高崎市）における選択肢は 3 択。本調査における選択肢は 6 択。

「平等（になっている）」の値について比較すると、今回の調査においては、平成 6 年度の調査（以下前回調査）よりも選択肢が多いにもかかわらず、全ての項目において、「平等感」の向上が見られる。特に最も高い値を示す「学校の中で」では 11.9 ポイント（35.4%→47.3%）の増加が見られる。また、「地域社会の中で」でも 12.8 ポイントの増加（11.1%→23.9%）が見られる。

問 2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA)

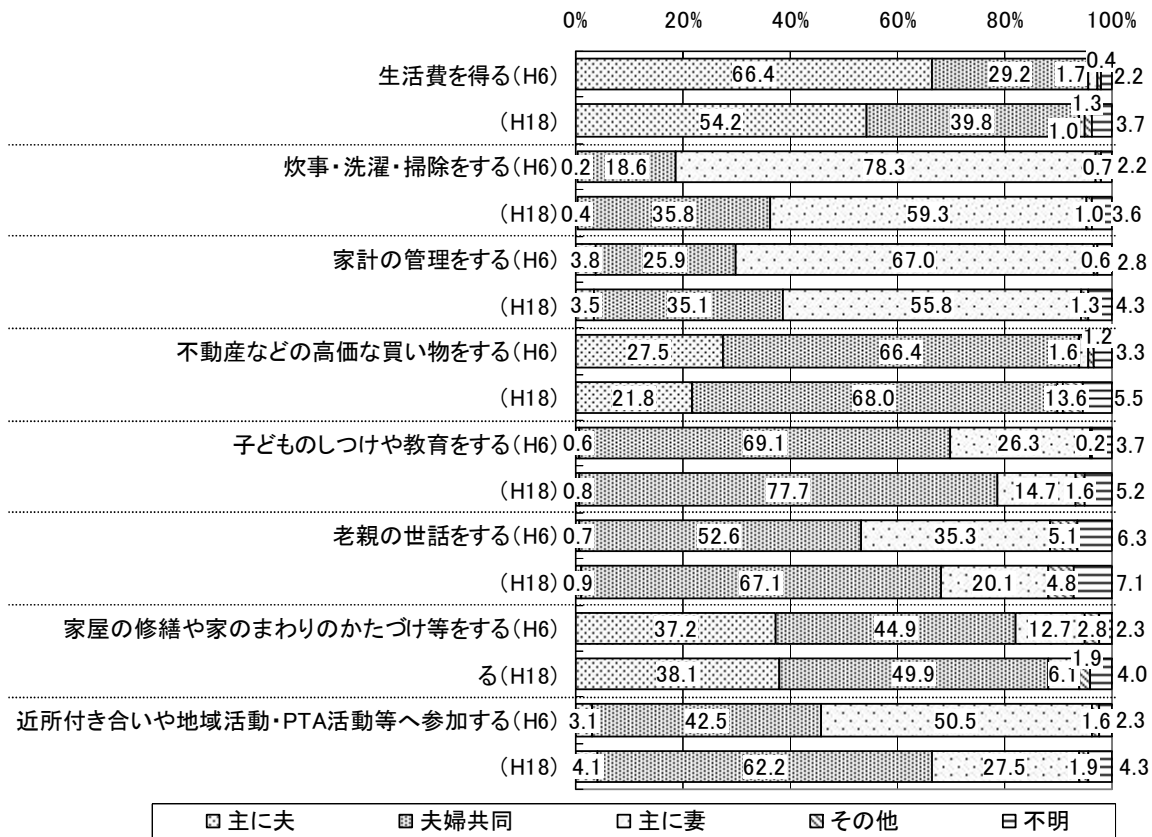


【本調査】 問 2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA) <選択肢> 1 同意する 2 ある程度は同意する 3 あまり同意しない 4 同意しない	【H6 高崎市】 問 3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(SA) <選択肢> 1 同意する。 2 ある程度は同意する。 3 あまり同意しない。 4 同意しない。 5 わからない。
--	---

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。
※：前回調査（H6 高崎市）において、選択肢は「わからない（2.9%）」を含めた 5 択であるため、これ以外の 4 選択肢を比較。
※：上記による「わからない」および各調査とも不明回答を（無回答等）図示していないため、図中値の合計は 100%を示さない。

最も高い値を示す「ある程度は同意する」は、ほぼ同等の値（前回 47.9%、今回 48.0%）を示す。
「同意する」の値が若干減少（10.9%→7.7%）していることや、「あまり同意しない」と「同意しない」の合算値が 5.1 ポイント増加（37.3%→42.4%）していることから、わずかではあるが意識の変化が見うけられる。

問3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。(SA)



【本調査】 問3 あなたは、夫婦の役割分担についてどのように考えていますか。(SA) (役割分担) ①生活費を得る ②炊事・洗濯・掃除をする ③家計の管理をする ④不動産などの高価な買い物をする ⑤子どものしつけや教育をする ⑥老親の世話をする ⑦家屋の修繕や家のまわりのかたづけ等をする ⑧近所付き合いや地域活動・PTA活動等へ参加する <選択肢> ☐ 1 主に夫 ☐ 2 夫婦共同 ☐ 3 主に妻 ☐ 4 その他	【H6 高崎市】 問4 あなたは、夫婦の役割分担についてどのようにしていますか。(SA) (役割分担) 1 生活費を得るのは 2 炊事・洗濯・掃除をするのは 3 家計の管理をするのは 4 不動産などの高価な買い物をするのは 5 子どものしつけや教育をするのは 6 老親の世話をするの 7 家屋の修繕や家のまわりのかたづけ等をするのは 8 近所付き合いや地域活動(PTA活動等)へ参加するのは <選択肢> ☐ 1 主に夫 ☐ 2 夫婦共同 ☐ 3 主に妻 ☐ 4 その他
--	--

※：比較を行った選択肢番号を ☐ で囲む（各「役割分担」について全選択肢で比較）。

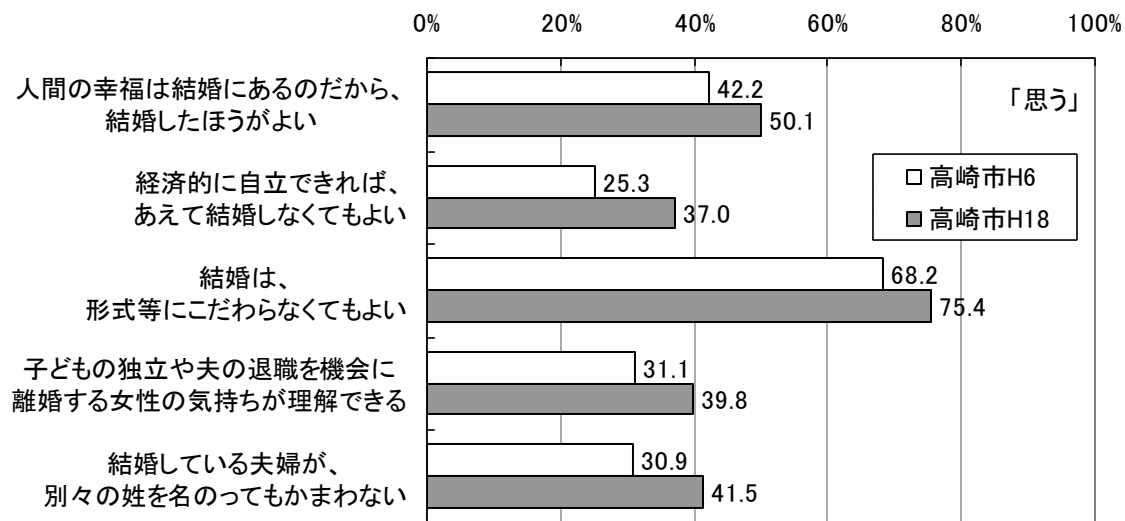
※：各調査とも不明回答（無回答等）図示していないため、図中値の合計は100%を示さない。

全ての項目において、「夫婦共同」の値が増加し、「主に妻」の値が減少している。

一方、「主に夫」については、「生活費を得る」「不動産など高価な買い物」に2項目で減少傾向が見られるが、他の項目においてはほとんど値の変化が見られない。特に「炊事・洗濯・掃除」「子どものしつけや教育をする」「老後の世話をする」の3項目においては、前回調査と同様に今回も「主に夫」を選択する回答者はほとんど見られない。

以上のことを考え合わせると、これまで「主に妻」の役割であったものが、「夫婦共同」の役割へと大きく変化してきているといえる。しかし、これまで「主に妻」の役割であったものが「主に夫」の役割へと変化している項目は見られない。

問 4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)



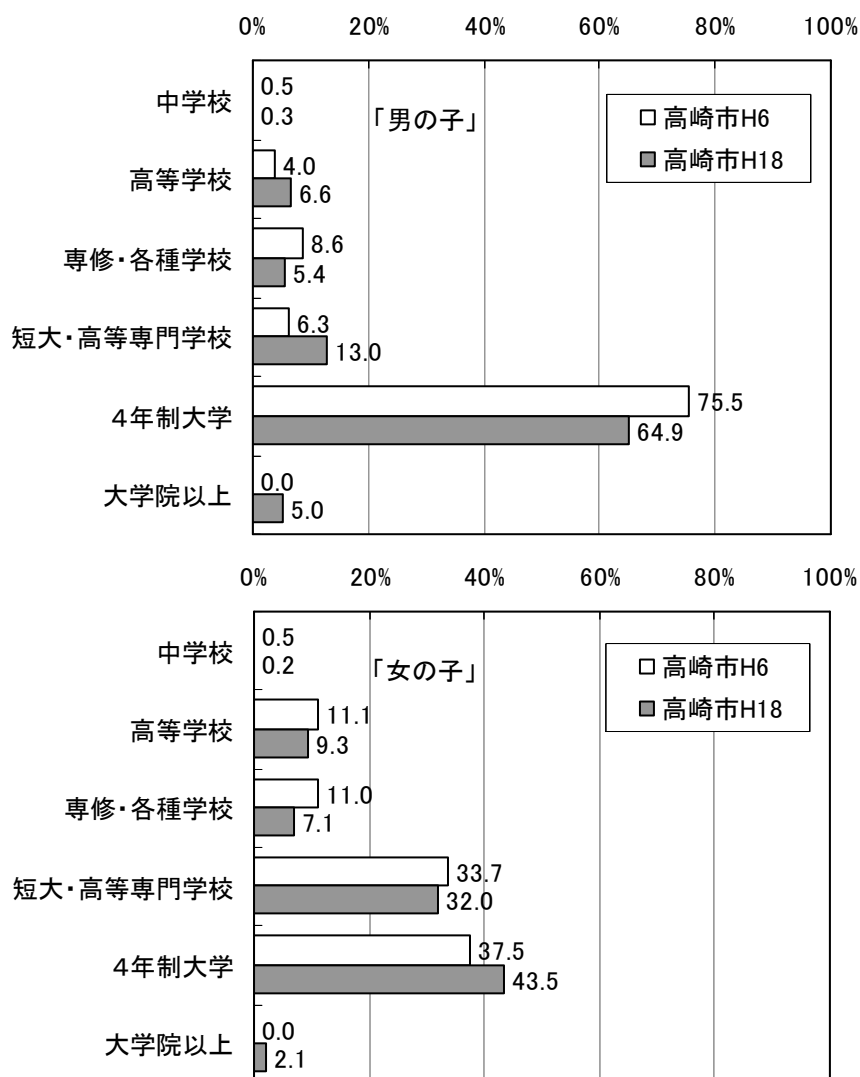
【本調査】	【H6 高崎市】
問 4 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)	問 6 あなたは、結婚についてどう考えますか。(SA)
(考え方)	(考え方)
①人間の幸福は結婚にあるのだから、結婚したほうがよい。	①人間の幸福は結婚にあるのだから、結婚したほうがよい。
②経済的に自立できれば、あえて結婚しなくてもよい。	②経済的に自立できれば、あえて結婚しなくてもよい。
③結婚は、形式等にこだわらなくてもよい。	③結婚は、形式等にこだわらなくてもよい。
④子どもの独立や夫の退職を機会に離婚する女性の気持ち可以理解できる。	④子どもの独立や夫の退職を機会に、離婚する女性の気持ち可以理解できる。
⑤結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない。	⑤結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない。
<選択肢>	<選択肢>
1. 思う	1. そう思う
2. 思わない	2. そう思わない
	3. わからない

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む（各「考え方」について「思う」「（そう）思う」のみ比較）。

※：前回調査（H6 高崎市）において、選択肢は3択。

前回調査においては、選択肢として「わからない」を設けており、各項目ともこれを選択した値が比較的高かったため（「結婚したほうがよい」15.9%、「あえて結婚しなくてもよい」12.3%、「形式にこだわらない」6.6%、「離婚の気持ち理解」32.3%、「夫婦別姓」12.6%）一概に比較はできないが、各項目について「（そう）思う」の値を見ると、全ての項目において値が増加している。

問5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA)



【本調査】 問5 お子さんにどこまでの教育を受けさせたいと思いますか。(SA) (子どもの性別) ①男の子 ②女の子 <選択肢> 1 中学校 2 高等学校 3 専修・各種学校 4 短大・高等専門学校 5 4年制大学 6 大学院以上	【H6 高崎市】 問7 あなたは、子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。(SA) (子どもの性別) 女の子であったら 男の子であったら <選択肢> 1 中学校まで 2 高等学校まで 3 職業・技術等の専修・各種学校まで 4 短大・高等専門学校まで 5 4年制大学まで
---	--

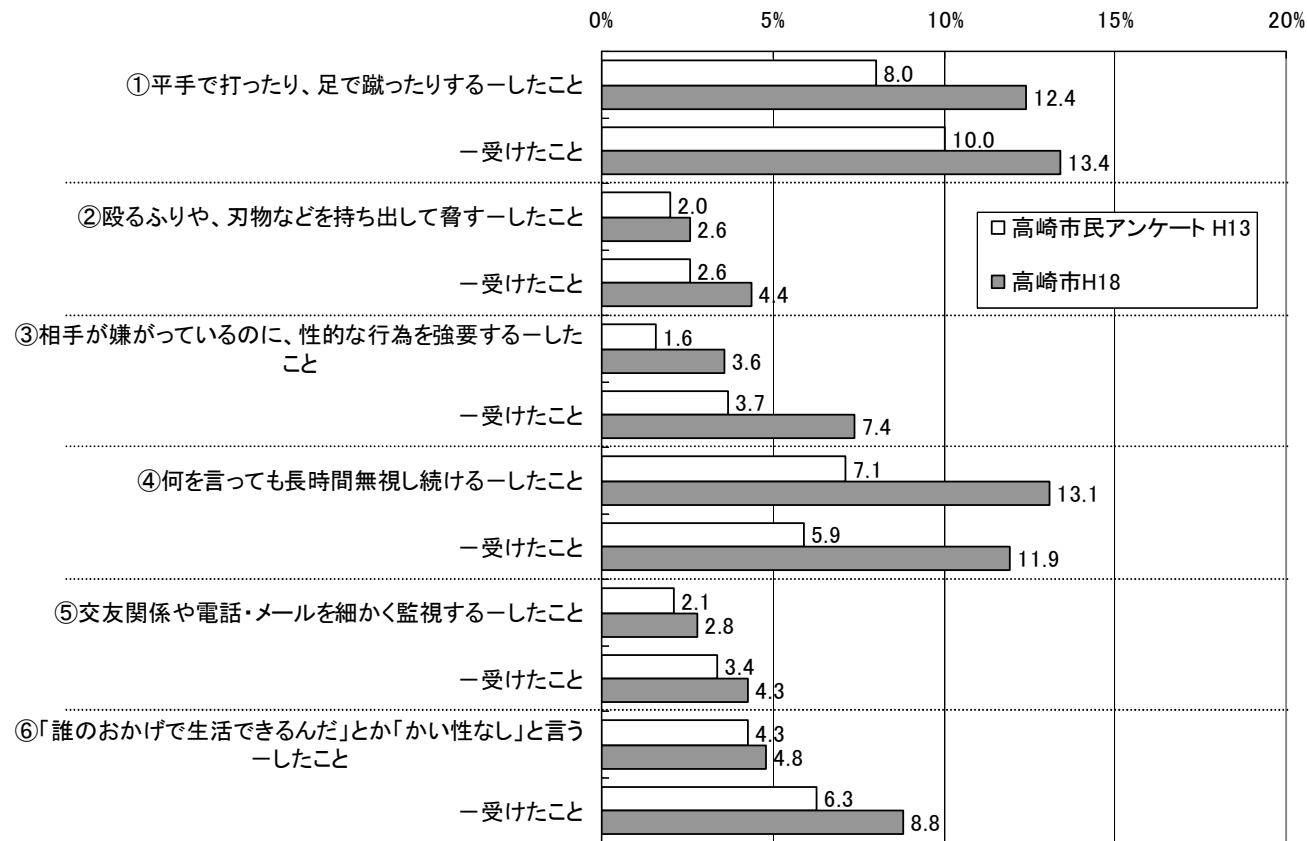
※：比較を行った選択肢番号を□で囲む（各「子どもの性別」について全選択肢で比較。ただし、「大学院以上」は今回新たに設けた項目であるため、参考のために図示する）。

※：各調査とも不明回答（無回答等）を図示していないため、図中値の合計は100%を示さない。

最も高い値を示す「4年制大学」において、「男の子」に対する値が10.6ポイント減少した（75.5%→64.9%）一方で、「女の子」に対する値は6.0ポイント増加（37.5%→43.5%）している。

子どもの性別に関わりなく、同様の教育を受けさせたいと考える傾向が強くなっていることがうかがえるものの、「女の子」よりも「男の子」により高度な教育を受けさせたいという傾向は依然として見られる。

問 7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」がありますか。（SA）



【本調査】 問 7 これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）との間で、次のようなことを「したこと」「受けたこと」がありますか。（SA） （行動例）「したこと」・「受けたこと」 ①平手で打ったり、足で蹴ったりする ②殴るふりや、刃物などを持ち出して脅す ③相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する ④何を言っても長時間無視し続ける ⑤交友関係や電話・メールを細かく監視する ⑥「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言う <選択肢> 1 ☐ ある 2 ☐ ない	【H13 市民】（市民アンケート） 問 11 これまでに、夫婦・恋人・親子などの親しい間柄において、次のようなことを「したこと」「受けたこと」「見聞きしたこと」がありますか。（SA） （行動例）「したこと」・「受けたこと」・「見聞きしたこと」 ①平手で打ったり、足で蹴ったりする ②殴るふりをしたり、刃物などを突きつけて脅す ③相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する ④何を言っても長時間無視し続ける ⑤交友関係や電話を細かく監視する ⑥「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言う <選択肢> 1 ☐ ある 2 ☐ ない
---	--

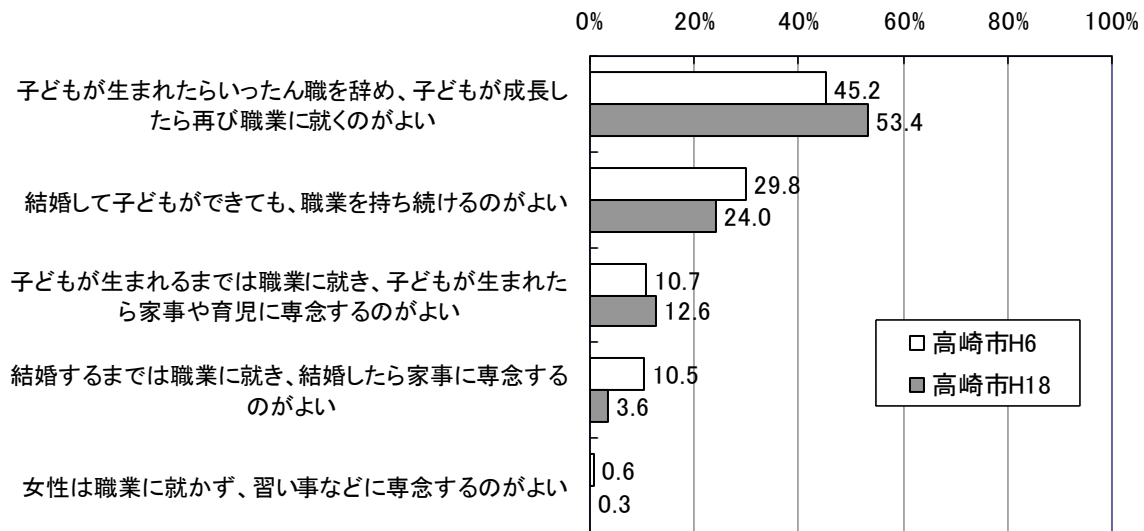
※：比較を行った選択肢番号を で囲む（各「行動例」について「したこと」・「受けたこと」の、「ある」のみ比較。）。

※：市民アンケート（H13 市民）においては、「見聞きしたこと」についても設問。

※：市民アンケート（H13 市民）においては、「夫婦・恋人間」だけでなく、「親子間」についても設問。

「ある」の値を見ると、全ての項目において「した」「受けた」とともに値が増加している。特に「何を言っても長時間無視」については、「した」「受けた」とともにその値が倍増し、1 割以上の比較的高い値を示す。

問 9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)



【本調査】	【H6 高崎市】
問 9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)	問 9 あなたは、女性が職業をもつことについて、どう考えますか。(SA)
<選択肢> 1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい 2. 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい 3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい 4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい 5. 女性は職業に就かず、習い事などに専念するのがよい 6. その他	<選択肢> 1. 子どもができたなら辞めるが、手がかからなくなったら就いた方がよい。 2. 結婚して子どもができるまでは、職業に就いた方がよい。 3. 結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい。 4. 結婚するまでは職業に就くが、結婚後は家事に専念した方がよい。 5. 職業に就かず、習いごと等に専念した方がよい。

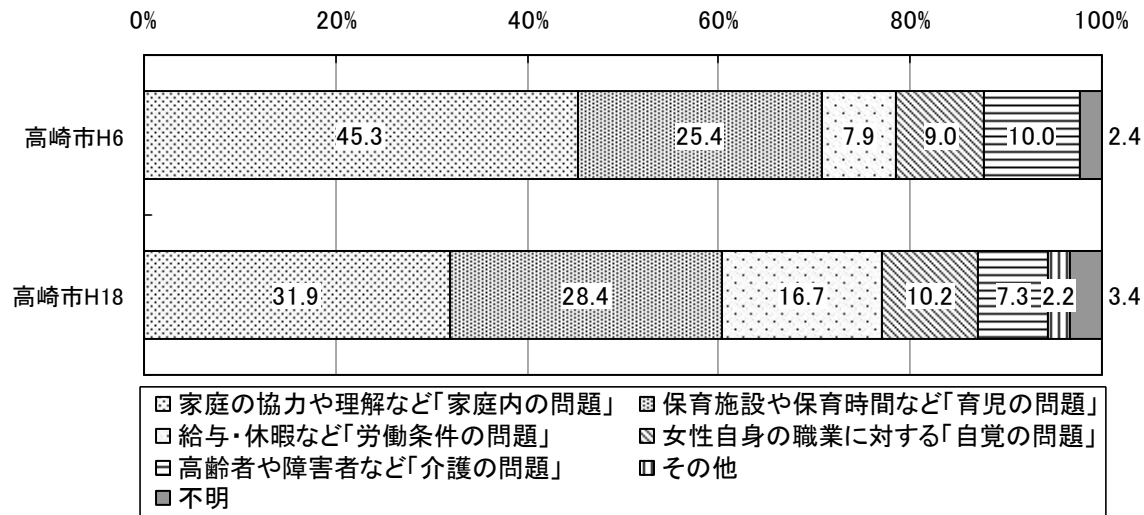
※：比較を行った選択肢番号を□で囲む（「その他」以外で比較）。

※：本調査は前回調査（H6 高崎市）より「その他」がある分選択肢が多いため、これ以外の 5 選択肢で比較。

※：上記による「その他」および各調査とも不明回答（無回答等）図示していないため、図中値の合計は 100%を示さない。

前回と今回の調査について、全体傾向による大きな差異は見られないが、「子どもが生まれたらいったん辞め、成長後に再就職」は 8.2 ポイント増加（45.2%→53.4%）しているのに対して、「子どもができて職業を持ち続ける」は 5.8 ポイント減少（29.8%→24.0%）、「結婚するまでは職に就き、結婚したら家事に専念」も 6.9 ポイント減少（10.5%→3.6%）している。

問 10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)

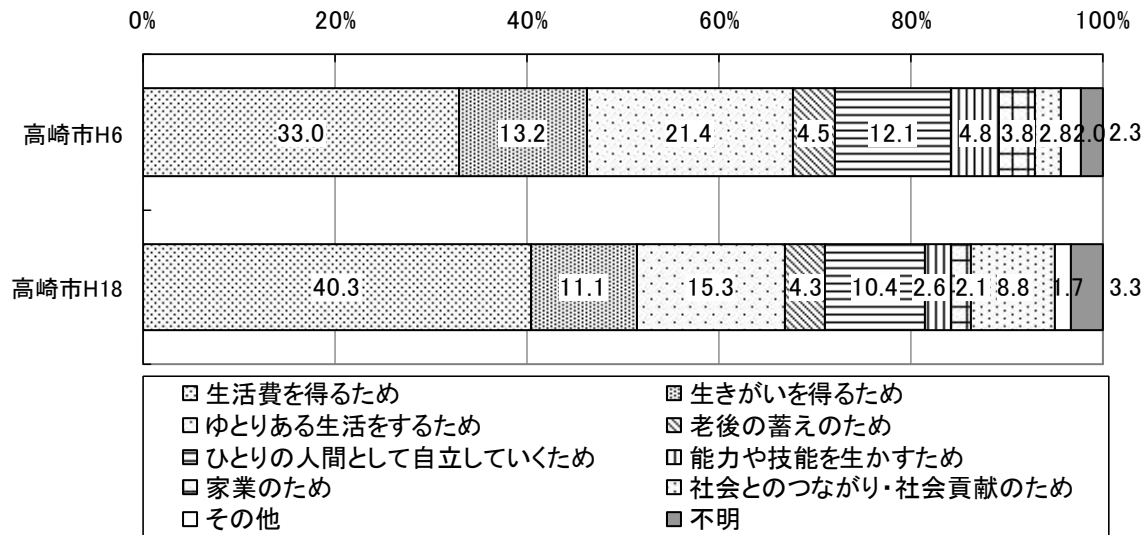


【本調査】 問 10 女性が職業を持つことについて、阻む要因としてどのような問題があると思いますか。(SA)	【H6 高崎市】 問 10 あなたは、女性が職業についていると、どんな障害があると思いますか。(SA)
＜選択肢＞ 1. 家庭の協力や理解など「家庭内の問題」 2. 保育施設や保育時間など「育児の問題」 3. 給与・休暇など「労働条件の問題」 4. 女性自身の職業に対する「自覚の問題」 5. 高齢者や障害者など「介護の問題」 6. その他	＜選択肢＞ 1. 家庭の協力や理解など、家庭内の問題 2. 保育施設や保育時間などの、育児の問題 3. 給与・休暇などの、労働条件の問題 4. 女性自身の職業に対する、自覚の問題 5. 老人や障害者などの、介護の問題

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。
※：本調査は前回調査（H6 高崎市）より「その他」がある分選択肢が多い。「その他」の図示は参考。

選択肢数が異なるので一概に比較はできないが、全体傾向で最も高い値を示す「家庭内の問題」は13.4ポイント減少(45.3%→31.9%)しているのに対して、「労働条件の問題」は8.8ポイント(7.9%→16.7%)増加している。

問 11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。（SA）

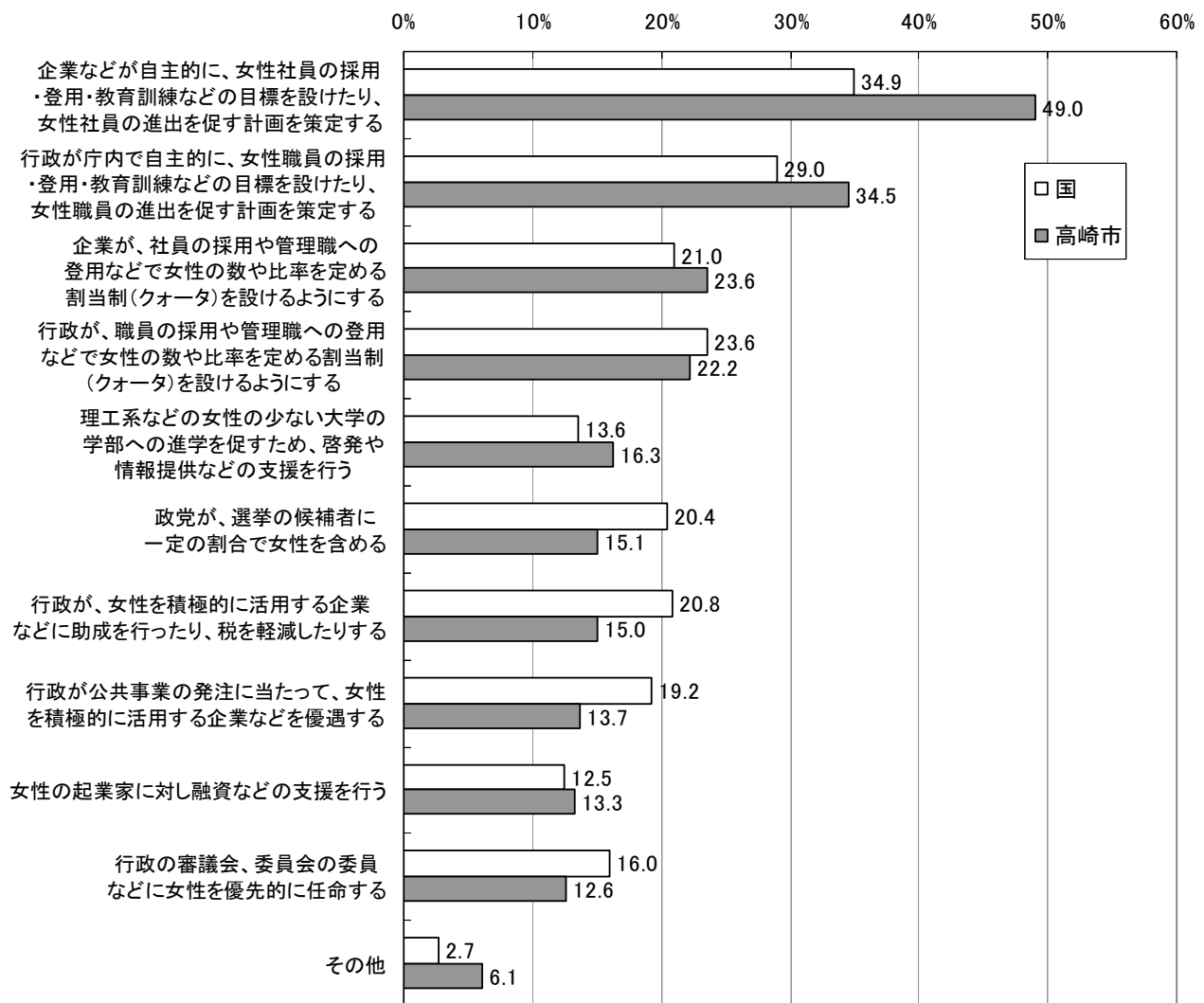


【本調査】	【H6 高崎市】
問 11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。（SA）	問 11 あなたが働いている（あるいは働きたい）主な理由は何ですか。（SA）
<選択肢> 1. 生活費を得るため 2. 生きがいを得るため 3. ゆとりある生活をするため 4. 老後の蓄えのため 5. ひとりの人間として自立していくため 6. 能力や技能を生かすため 7. 家業のため 8. 社会とのつながりを持つため・社会に貢献するため 9. その他	<選択肢> 1. 生活費を得るため。 2. 生きがいを得るため。 3. ゆとりある生活をするため。 4. 老後の蓄えのため。 5. ひとりの人間として自立していくため。 6. 能力や技能を生かすため。 7. 家業のため。 8. 社会に貢献するため。 9. その他

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。

全体で最も高い値を示す「生活費を得るため」は 7.3 ポイント増加（33.0%→40.3%）している。
 また、全体では高い値を示さないが、「社会とのつながり・社会貢献のため」が 6.0 ポイント増加（2.8%→8.8%）している。
 一方、「ゆとりある生活をするため」は 6.1 ポイント減少（21.4%→15.3%）している。

問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。(MA)



【本調査】	【H16 国】
問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。(MA)	Q4 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために、どのような措置をとるのがよいと思いますか。(MA)
<選択肢> 1. 政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含める 2. 行政の審議会、委員会の委員などに女性を優先的に任命する 3. 行政が公共事業の発注に当たって、女性を積極的に活用する企業などを優遇する 4. 行政が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする 5. 行政が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする 6. 行政が庁内で自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する 7. 企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする 8. 企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する 9. 理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う 10. 女性の起業家に対し融資などの支援を行う 11. その他	<選択肢> (ア) 政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする (イ) 国や地方自治体の審議会、委員会の委員などに女性を優先的に任命する (ウ) 国や地方自治体が、公共事業の発注に当たって女性を積極的に活用する企業などを優遇する (エ) 国や地方自治体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする (オ) 国や地方自治体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする (カ) 国や地方自治体が自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する (キ) 企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする (ク) 企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などの目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する (ケ) 理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う (コ) 女性の起業家に対し融資などの支援を行う (サ) その他 (シ) わからない

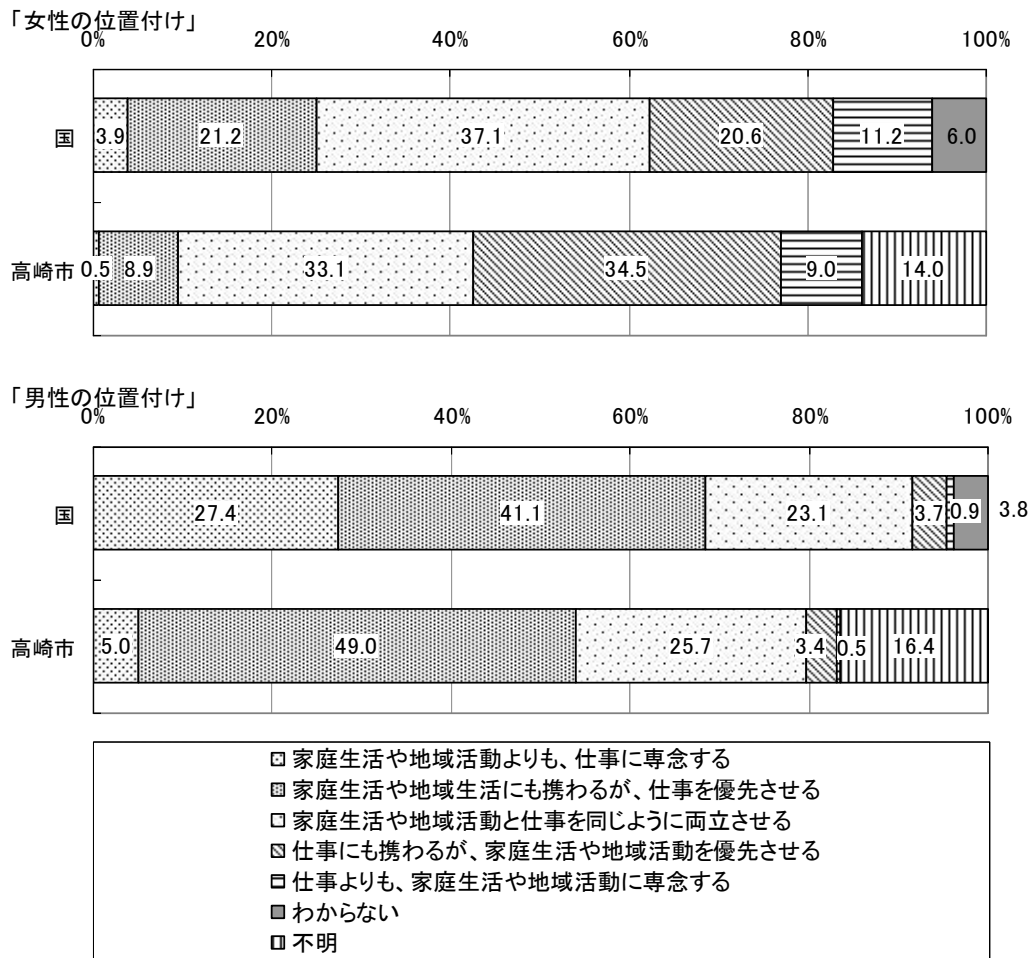
※：比較を行った選択肢番号を□で囲む（「わからない」以外で比較）。

※：本調査は国の調査（H16 国）より「わからない」（14.9%）がない分選択肢が少ないため、これ以外の 11 選択肢で比較。

国の調査、今回の調査はともに「企業が自主的に進出を促す計画を策定」が最も高い値を示すが、その値は「高崎市」が 14.1 ポイント高い（国 34.9%、今回 49.0%）。また、これに次いで高い値を示す「行政が庁内で自主的に進出を促す計画を策定」や「企業が割当制を設ける」においても「高崎市」の値が若干高い。

一方、全体では高い値を示さないが、「政党が候補者に一定の割合で女性を含める」「行政が企業に助成や減税」「行政が公共事業の発注に当たって女性を積極的に活用する企業を優遇」などは「国」の値が比較的高い。

問 17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付けることが望ましいと思いますか。(SA)



【本調査】 問 17 仕事と家庭生活や地域活動との関係について「女性」「男性」それぞれどのように位置付けることが望ましいと思いますか。(SA)	【H16 国】 Q9 仕事との関係において、家庭生活または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置付けるのが望ましいと思いますか。(SA)
(性別) ①女性 ②男性	(性別) (1)女性 (2)男性
<選択肢> 1. 家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する 2. 家庭生活や地域生活にも携わるが、仕事を優先させる 3. 家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる 4. 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる 5. 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	<選択肢> (ア) 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する (イ) 家庭生活又は地域生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる (ウ) 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる (エ) 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる (オ) 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する (・) わからない

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。

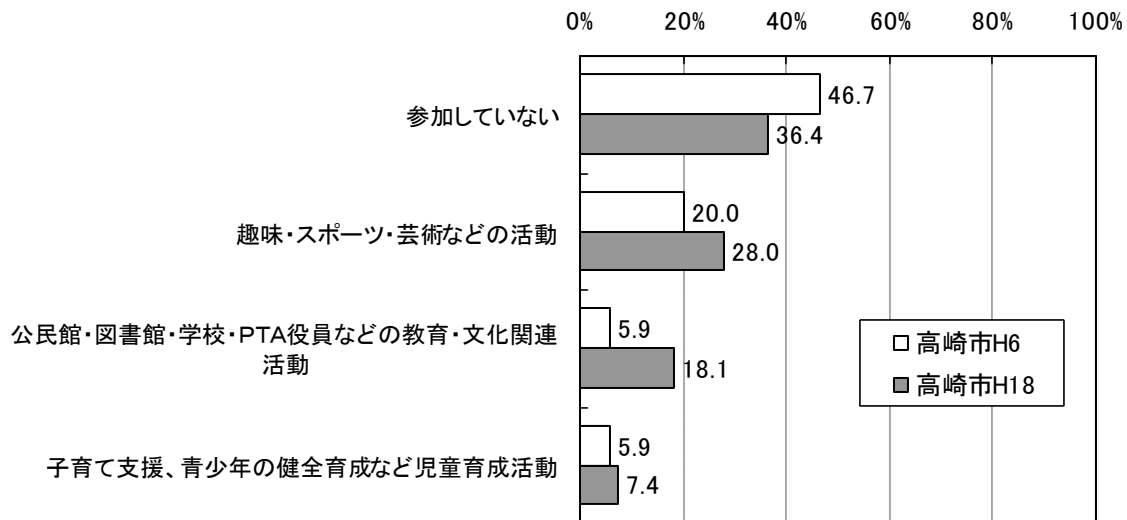
※：本調査は国の調査（H16 国）より「わからない」がない分選択肢が少ない。「わからない」の図示は参考。

※：国の調査（H16 国）は「不明」を除いて算出しているため、「不明」は本調査のみで表示。

今回の調査では、「不明」の値が高いので一概には比較できないが、「高崎市」においては、「男性の位置付け」として、仕事を「専念」（国 27.4%、高崎市 5.0%）ではなく「優先」（国 41.1%、高崎市 49.0%）する傾向が強い。

一方、「女性の位置付け」として、仕事よりも家庭生活や地域活動を「優先」（国 20.6%、高崎市 34.5%）する傾向が強い。

問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)



【本調査】	【H6 高崎市】
問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)	問 13 あなたは、仕事以外にどんな社会活動に参加していますか。(SA)
<選択肢> 1. 高齢者の話し相手・介護など高齢者福祉活動 2. 障害者との交流や支援、手話・点訳などの活動 3. 公民館・図書館・学校・PTA役員などの教育・文化関連活動 4. 地域行事や祭りの企画・運営など、地域おこしに関わる活動 5. 趣味・スポーツ・芸術などの活動 6. 公園管理・清掃や緑化・地域美化などの活動 7. 自然保護・環境保護・環境監視などの環境に関する活動 8. 災害時の救援などに関する活動 9. 交通安全・防災・防犯などに関する日常的な地域活動 10. 男女共同参画・人権擁護・平和に関する社会活動 11. 海外支援・国際交流・在日外国人への支援など国際交流に関する活動 12. 子育て支援、青少年の健全育成など児童育成活動 13. 観光案内、観光ガイド作成などの観光振興活動 14. その他 15. 参加していない	<選択肢> 1. スポーツ・サークル活動 2. 社会奉仕・福祉活動 3. 婦人会・自治会・老人クラブ活動 4. 子ども会等の地域活動 5. PTA 役員・委員で活動 6. 政治活動員・委員で活動 7. 宗教活動 8. 消費者・住民運動 9. なにもしていない 10. その他

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。

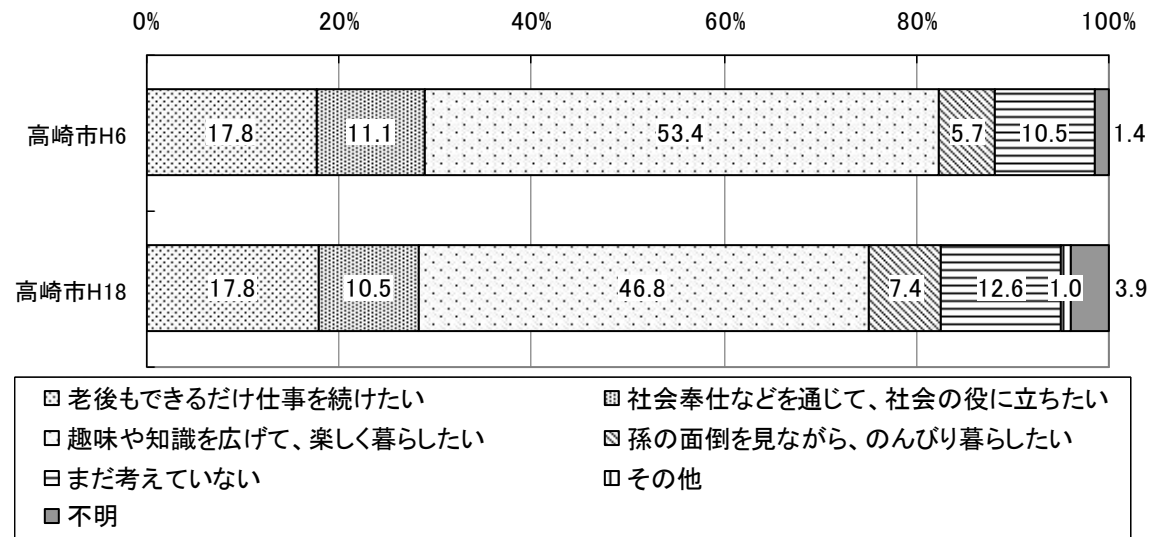
※：前回調査（H6 高崎市）のうち、「スポーツ・サークル活動」「PTA 役員・委員で活動」「子ども会等の地域活動」「なにもしていない」の4選択肢を本調査と比較。

※：前回調査（H6 高崎市）は10選択肢からの択一式（SA）であるが、本調査は15選択肢から、該当する活動をすべて選択（MA）。

前回調査が単選択であるのに対して、今回の調査は複数選択であるため、一概には比較できないが、「参加していない」が10.3ポイント減少（46.7%→36.4%）している。

また、「参加していない」を除く両調査で共通と判断できる選択肢については、いずれも値が増加している。

問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA)



【本調査】 問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA) <選択肢> 1. 老後もできるだけ仕事を続けたい 2. 社会奉仕などを通じて、社会の役に立ちたい 3. 趣味や知識を広げて、楽しく暮らしたい 4. 孫の面倒を見ながら、のんびり暮らしたい 5. まだ考えていない 6. その他	【H6 高崎市】 問 18 あなたは、長寿社会を迎えるにあたって、老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA) <選択肢> 1. 老後もできるだけ仕事を続けたい。 2. 社会奉仕などを通じて、社会の役に立ちたい。 3. 趣味や知識を広げて、楽しく暮らしたい。 4. 孫の面倒を見ながら、のんびり暮らしたい。 5. まだ考えていない。
---	--

※：比較を行った選択肢番号を□で囲む。

※：本調査は前回調査（H6 高崎市）より「その他」がある分選択肢が多い。「その他」の図示は参考。

前回と今回の調査について、全体傾向による大きな差異は見られないが、最も高い値を示す「趣味や知識を広げて楽しく暮らしたい」は 6.6 ポイントの減少（53.4%→46.8%）が見られる。

6. 「その他」の記述内容・自由記入

問6 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何だと思いますか。(3 択)

女性	18－29 歳	・ 男女の特性をある程度認め、お互いを尊重しあう
		・ 成人誌の販売、性玩具の販売、風俗店の営業も男女差別につながると思う
		・ 女性・女系天皇を認めること
		・ 悪平等はなくす 男性向き女性向の仕事のうちいくつかの領域は侵さない方がよいこともある 産婦人科や乳腺外来での男性医師スタッフの「他人事」意識からくるパワーハラスメントは意外に放任されているケースがあります
		・ 企業の理解
男性	18－29 歳	・ 完全に平等にしなくても良い
		・ 女性のほうが優遇されている場面は多々あると思う
		・ 職場での責任を平等にする
		・ 出産があるので平等は無理
		・ 男女平等の風潮に馴染むこと
女性	30－39 歳	・ わからない
		・ 特にない
		・ 男女を平等にする必要はありません
		・ 法律で決めたからではなく企業が率先して変革すればよい
		・ 女性自身も社会に対する責任を自覚すること
男性	30－39 歳	・ 子どもの頃から女性にさまざまな職をあてがう
		・ そもそも平等になるとは思っていない
		・ 平等になる必要はない 平等とは？
		・ とりあえず経済力だと思う
女性	40－49 歳	・ 平等とは何かをまず考えてから
		・ お互いを認め合うこと
		・ 道徳の教育を小学校のときから大切にする
		・ 良いと思われることは実行してみて検討する
男性	40－49 歳	・ 女性自身の一部ではなく全体のスキルが向上すること
		・ すべて平等には無理がある
		・ すでに平等だが、実際問題女性に力仕事はできない すべての人がデスクに座ってパソコンで仕事をしていると思っているヤツがこんなことをいつている
		・ 本来平等であるべき夫婦であれば、互いの理解、尊敬の上で生活の分担をすることが望ましい
男性	50－59 歳	・ 全てに責任を持って行動すること
		・ 女性自身が男女平等について認識し自覚を持った行動をすること
		・ 縁故採用が社会に存在する限り男女平等も難しい
		・ 家庭の中で相互に認め合う
		・ 男女が全てにおいて対等であることが平等だとは思わない
女性	60－64 歳	・ 子供の頃から男女共に優しくいたわる教育をし、人間の質をあげる
		・ 基本的に男女は選択肢のような内容で平等にはならない それぞれにしかできないことがある
		・ 男尊女卑の社会を変えること
男性	60－64 歳	・ 現在男性優位の不平等社会とはそれほど思わない
		・ 女性が社会に甘えないこと
		・ すでに平等になっていると思う
女性	65 歳以上	・ 男女が平等になることはありえない
		・ 男女平等を誤解して勝手なことをしている若い女性が増えている 正しい教育を
		・ 女性は結婚して子供を育て家事を守ること その後働く
		・ 男女の本質が異なるので、人権は平等に、仕事は分担が良いと思います
男性	65 歳以上	・ 男は男の女は女の特性を生かすことが男女平等と考える
		・ 男女ともに同程度の労力知力をつける努力必要
		・ 共に助け合って長い付き合いが出来る
		・ 男と女の平等には性が違うように立場を考えるべき
性別・年齢不明		・ 平等という不平等が多くあるようです 本当の平等とは何かを考えての改善

問 9 女性が職業を持つことについてどのように考えますか。(SA)

女性	18－29 歳	・ 各家庭の事情による
		・ やりたい仕事なら家庭と仕事の両方がステキだと思う
		・ 夫婦間の話し合いでよい
		・ 子供が産まれたらいったん休業し子供が成長したら復職する
		・ 仕事と結婚生活の両立は個人の資質にもよるので自由意志が尊重されるべきで型にはめない方がよいと思う
		・ 仕事を続けても辞めてもどちらかを自分で選んで、くいのない社会であればいい
		・ 人それぞれ 自分のしたいようにすればいい
		・ 夫や家族の協力がああり、必要であれば職に就く、または仕事を続ける
		・ 個人の自由
		・ 自分の能力や体力を考えて個々人で好きにしたらよい
男性	18－29 歳	・ 個人の考えに任せる
		・ 特になし
		・ 環境に応じて
		・ 本人のやりたいようにするのが一番
女性	30－39 歳	・ 話し合いで決めればよい
		・ 人それぞれでいいと思う
		・ 夫婦で話し合い納得すればそれぞれ違ってよいと思う
		・ 人それぞれ事情が異なるのでどの選択が一番良いというのではないと思います
		・ 枠にとらわれずその家庭や個人に合ったやり方ですれば良い
		・ 子供を持たずに仕事をするのが良い
		・ その人自身が一番幸せと感じる立場でいるのが良い
		・ 育児休業をしっかり取ってから復帰できると良いと思う
		・ 個人によって違うと思うので何が良いとは言い切れないと思う
		・ その家庭の経済状況により異なると思う
男性	30－39 歳	・ 家庭それぞれだから個々までははっきりとは言いきれない
		・ ケースバイケース
		・ 自分の思いのままでよい
		・ 人それぞれその家庭で一番良いと思えばそれでいいと思う
		・ 男性の理解と収入次第
		・ 個人それぞれの考え
		・ 個人の考えでよい
		・ その人の環境や考えがあるのでそれに則した受け皿がしっかりとできればよいのでは いろんなケースがありますが
		・ 本人の希望は聞くも家事や育児を優先して欲しい
		・ その時の状況に応じて
女性	40－49 歳	・ 個人の自由にすればよい
		・ 仕事に責任を持てば職業に就くことに賛成
		・ ケースバイケース
		・ ここの考えによるものとするのがよい
		・ 女性がどうしても働きたいなら続ければ良いと思うが、結婚後の家庭環境などにもよるので柔軟な気持ちが必要と思う
		・ その人の考え方や生活で違うので人それぞれだと思う
		・ 各人が良いと思う方法を取れるのが望ましいと思う
		・ 人それぞれで違うと思う
		・ 自分で決めることが出来るのであればどれでもかまわない
		・ 責任ある職業又は経済的理由で職業を中断するのは難しいと思う ただ子供はやはり親が育てるのが理想 夫と交代で子供が成長するまでの間だけでも仕事の面で優遇されると良いのだが
男性	40－49 歳	・ 結婚しても働ける状況であれば続ければよい
		・ その時の状況にもよるのでなんともいえない
		・ 子供には家庭が必要なので女性が職業を続けられるよう母父どちらにも育児休暇や勤務時間の短縮が必要
		・ 子育てがすばらしい職業か人類にとってどんなに大切なことかということに気づいたほうが良い 子育ての必要がない女性はもちろん持ち続けるのが良い
		・ 個人の考え方
		・ 子どもができればある程度休職できて復職する
		・ 各家庭の事情による
		・ 個別的な条件によって違うので夫婦で話し合うことが必要

女性	50－59 歳	・ 女性には仕事が好きなタイプと家事が好きなタイプがあると思うのでその女性によってだと思う
		・ その人の考えで決めることだと思います
		・ それぞれの考えでよい
		・ 個々の能力や状況によって職業を持つべきであると思う
		・ 女性の意志に任せる
		・ 女性個人の考え方であり強要する必要はない 個人差がありすぎる
		・ 人それぞれの考え方でよい
		・ 本人の意志
		・ 個人の問題
		・ 個人個人の考え方で良いと思います
		・ 夫婦の話し合いで決めるべき
		・ 職業に就き、産前産後の期間を長くする 学校教員並にする 家事育児を両立させるためには夫などの協力が必要
		・ パートナーの意見などを聞き、きちんと話し合うこと
		・ 個人の考えにより仕事を続けなければ継続すればよい そのサポートを行政が応援していくべきと考える 考え方は画一的ではない
		・ 男性が家事育児に取り組むべき
		・ 個々の自由だと思います 仕事をしなくても出来ない事や経済的な事で仕事をしなくてはならないこともあるので選ぶことは出来ません
		・ 職業によって本人の意志で決定すれば良いと思う
		男性
・ 本人の気持ち		
・ 男性の生活能力の問題		
・ その家庭事情によって決めればよい		
女性	60－64 歳	・ 個人的な問題なのでどれとは決められない 自分の満足のために子供をないがしろにするのはよくないと思う
		・ 決めるものでなく当事者同士が話し合って決めればよいもの
男性	60－64 歳	・ 個人の問題各自の自由だと思う
		・ 結婚する女性が最も望むより良い生き方が生かされ尊重されることがまず第一
女性	65 歳以上	・ 選択肢 2(子供が生まれるまでは就労、生まれたら家事・育児に専念)に近いが、再就職は周囲の理解と本人の意思で決める
		・ 2(子供が生まれるまでは就労、生まれたら家事・育児に専念)が出来ればと思いますが、職業上の不利益を受けないようにする必要あり
		・ 個人的意識の問題であり均等に働きたい意欲を阻害しないよう対策を講じる方が良い(法的にも制度的にも)
		・ 個人的判断の尊重
男性	65 歳以上	・ それぞれの家庭の都合があると思うので答えられない
		・ 専業主婦子育てがよいのですが今の生活習慣では何事
		・ 経済的な面で働かざる場合が多くなるのではないかと 格差社会現象で
性別・年齢不明		・ それぞれの家庭の事情や社会環境によって違うので家庭内で相談
		・ 職業に就き、産前産後の期間を長くする 学校教員並にする
		・ 選択肢のすべてを選択することが出来る社会がよい

問 10 女性が職業を持つことについてどのような障害があると思いますか。(SA)

女性	18－29 歳	・ 核家族化、夫の長時間労働
		・ 思わない
		・ 全部
		・ IT 化などで仕事の多様性がなくなり選択する幅が狭くなった
		・ 全部年齢に応じてすべて含まれる
		・ 全てが該当すると思う
		・ 社会的慣習
		・ 男性が過半数を占める行政の問題
男性	18－29 歳	・ 男女間の理解不足
女性	30－39 歳	・ 自分自身の気持ちの問題だと思う
		・ 全部あてはまると思います
		・ 小学生の授業が早く終わったり行事で休みになったりと学校の問題
		・ 雇用の不安定さ
		・ わからない
		・ 女性を雑用係としか考えない旧態依然とした組織
		・ 労働先の問題

男性	30－39 歳	・ もともと男と女は別の性質
		・ 問題はない 雇う会社の自由
女性	40－49 歳	・ 家事育児介護を女性がするという前提があるという事
		・ すべて
		・ 社会的理念の問題
		・ わからない
		・ ひとつに決められない
		・ 企業の女性に対する扱い方や姿勢
		・ 1 つに絞れない
男性	40－49 歳	・ 男性女性ともに自覚の問題
		・ 単に職業に就くことに阻むものはないと思います
		・ 採用時の年齢制限
		・ 家庭内の問題、労働条件、介護問題の全て
女性	50－59 歳	・ 年齢によって全て当てはまると思う
男性	50－59 歳	・ 多数あり
		・ 全て
		・ 無能な男性を擁護する風潮
		・ 選択肢 4(女性自身の自覚の問題)以外は全て年齢に応じて当てはまるように思う
男性	60－64 歳	・ 独身、子持ち(離婚して)等その立場によって要因は変わると思う
男性	65 歳以上	・ 男女の体力差
		・ 教育費の多さ

問 11 あなたが働く（あるいは働きたい）理由は何ですか。（SA）

女性	18－29 歳	・ やりたいことがあるため
		・ 人生をより楽しむため
		・ 暇つぶし
男性	18－29 歳	・ わからない
		・ なんとなく働いています
		・ 幸せに生活するため
		・ 趣味を続けるため
		・ 楽しい人生のため
女性	30－39 歳	・ 全てなので選べない
		・ 子供の教育費を得るため
男性	30－39 歳	・ 「生活費」と「能力技能を生かすため」の両方
		・ 働くしかないから
		・ 「家業のため」以外すべて
		・ 仕事があるから
		・ 自分のため
女性	40－49 歳	・ 質は選べません
		・ ストレス解消・蓄え
		・ 自己実現の一つとして
		・ 家計を助けることもあるが、社会のつながりも大事
		・ 何か1つと決められない
男性	40－49 歳	・ 全て
		・ 多少なりとも社会のため
女性	50－59 歳	・ 働くことが好き
		・ 体の動くうちは働きたい
		・ 自営のため働いている
男性	60－64 歳	・ 自分のためでもあり、社会貢献するためでもある
		・ 今の世では金を得るため
		・ 複合的理由である
女性	65 歳以上	・ 働く意志なし
男性	65 歳以上	・ ゆとり、生活費、社会貢献の全て
		・ 全部
		・ 健康管理
		・ まず個人の生活安定その上で社会とのつながり、貢献生きがい

問 14 休業制度を利用しない・できない理由は何ですか。(3 択)

女性	18－29 歳	・ パートなので
		・ 職場にそのような制度はない アルバイトだから
女性	30－39 歳	・ パートなので取ることが出来ない
		・ 自分の立場ではそのような規定は無いから
		・ 取得を申請したが、却下された
男性	30－39 歳	・ かかわりが無いから
		・ 自営業のため
女性	40－49 歳	・ パートなので利用したら解雇されると思う
		・ 退職するしかない
		・ 月に 10 日ほどの仕事で時間調整が出来るから
		・ 育児介護に専念したいから
		・ 制度がない
		・ 良くして頂いているので制度があるからといって迷惑をかけたくない
		・ 時給のパートなのでそのような制度はない
		・ パートの有休内で考える
		・ 自営業であるため
		・ 職場は実家なのでその時の都合状況で変わると思うから
		・ 人数に余裕がないから
		・ 利用できないので職場を辞めます
男性	40－49 歳	・ ホームヘルパーをお願いする
女性	50－59 歳	・ パートにはそのような制度はない
		・ 制度を利用しなくても休めるから
		・ パートなので何もない
男性	50－59 歳	・ 職場にそのような制度がない
女性	65 歳以上	・ 何の制度もありません
男性	65 歳以上	・ 長期休暇は顧客を失うため
		・ そのような制度がない
性別・年齢不明		・ 休業制度はなし

問 16 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出していくために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。(MA)

女性	18－29 歳	・ わかりません
		・ わからない
		・ 特別なことは必要ない きっかけは必要だと思うので、情報提供くらいは良いと思うが、女性をあえて優先する姿勢は平等性を欠いている
		・ 女性だから進出できないという分野はほとんどないと思う 逆に女性を優遇することによる逆差別の問題もあると思う 平等を求めるのであれば機会も平等であるべき 育児施設などを増やすことはどんな職業についても重要だと思う
		・ 必要以上に男女を分けて考えないような教育の徹底
男性	18－29 歳	・ 寿退社等の甘い考え方を女性も見直すべき
		・ 選択肢のようなことを考えることは差別である気がする
		・ この中には無い
		・ 特別何か考えることがおかしいかと
		・ 女性がキャリアになると世の中のバランスが良いとは思わない(控えめでかわいい気持ちが減少してきている)
		・ なんでも平等に評価すれば実力主義
		・ 男性が出産、介護休業等を取ることを社会全体として当たり前のものになるようにすること
		・ どれも効果的ではない
		・ 行政や企業が行うのではなく、個人の意思を尊重することだと思う
		・ 女性が魅力を感じる宣伝を企業、行政側から行う
女性	30－39 歳	・ 何よりも男性の意識の問題だと思う
		・ 特別なことはいらないと思う
		・ 必要ないと思う
		・ その女性自身が頑張る
		・ 性別にとらわれすぎていると思う 男性は男性の女性は女性の得意分野があるのでそちらで分野をのばしていけるように支援を行う
		・ よくわからない
		・ 自分の努力で得るものなので女性だけ何かをする必要はない

男性	30－39 歳	・ 男女関係なく能力のある仕事の配分を平均化し評価する
		・ 進出したいと考える女性が行動を起こせばよい
		・ 女性のといっている時点で日本は遅れているのではと感じています
		・ わからない あまり関心なし
		・ 女性が子育てしながらでも待遇面で差別されない環境を整えればどんな分野でも女性は仕事を続けていけると思う
		・ 選択肢のようなことは女性優遇で男女平等ではない 近年力のある女性は自ら新分野へ進出していると思う その際女性だからと差別偏見をなくす意識改革
		・ 男女の能力差や育児等で状況的に無理な場合も多いため特に設ける必要はない
		・ 何をしても期待できないし私自身希望してない
		・ 仕事出来る女性を男性と同様に管理職にするなど男女差別をしない
		・ 中高年男性の「女のくせに」という思想がなくなれば解決は早い
		・ 優遇して無理に進出させる必要はない 機会を平等に与えるだけでよい
		・ ない
		・ 採用に女性の枠を設けるのがおかしい それよりも女性の自立意識を持たせる支援をすべき
		・ わからない
		・ 採用の機会自体をつくるために仕事に活動できる状況にしてあげるための支援をする
		・ 女性には女性に合った仕事、男性には男性に合った仕事があるため割当制を設ける必要はない 過度な取組は必要ない
		・ あまり必要ないのでは
		・ 不要
		・ 現状で問題ないと思います
		・ 行政が余り口を出さないほうがいい
		・ 男女関係なく必要な人材を雇えばよい 選択肢の提案は非常にバカらしい
		・ わからない
		・ 家庭の平等化 育児、教育
		・ 特に必要ない
		・ その分野が女性にも向いているものなら支援すればいい
		・ 偏見をなくす
		・ 本人の努力のみ
		・ 必要なし
女性	40－49 歳	・ 分らない
		・ 選択肢 1～10 にはなし
		・ 女性に対して何かをする事がすでに差別ではないでしょうか
		・ 男女にこだわりすぎるのではなく能力により各分野への進出と活躍は判断されるべきである
		・ 極端な優遇は逆に弱い者扱いされている気がします
		・ 女性が差別されているとは思っていない むしろ今は男性の方が小さくなっている気がする 変に意識しすぎているのではないのでしょうか
		・ 女性が個人個人で能力を高めていくべき
		・ 上司などが女性の実績を認めてさらに上の人に進言できる素直さを持つこと
		・ 女性が・・・という観点を捨て全てにおいて平等にとらえられれば能力のある人は必然的に登用されたりすると思う
		・ 男女問わず必要に任せる
		・ 育児休暇を男性にもとらなくてはいけないようにする
		・ 行政に期待しない
		・ 女性の体力強化を図る取組
		・ 特別にする必要はない 能力のある人がいればやればよい 逆差別にならないようにして欲しい
		・ キャリア教育の充実
		・ すべての分野に女性が進出しなくても良いと思う
		・ 質問の回答事項があまりにもおかしすぎる
		・ すでに平等なのだから女性に甘えがある場合が多いと思う
		・ 女性の自覚
		・ 個人の能力や、やる気の問題
		・ 女性自身の問題だと思うので取り組みは必要と思わない
		・ 本来、きちんと目的意識を持った女性は、既にその分野に進出していると思う
		・ 保育支援、老人介護の支援の拡大
女性	50－59 歳	・ 無理に進出する必要はないと思います
		・ 今は能力のある女性の登用を促進させるため割当制も必要なのかもしれないが本来は比率によるものではなく事業主等の差別のない考え方で行うものである

女性	60－64 歳	・ 女性自身が進出したい分野ならいくら割当制や優先的に採用しても無理があると思う 女性に合った分野に進出すれば楽しく仕事が出来ると思います
		・ 女性だから進出できないと思うのはおかしいと思う 力があればそんな所はないと思う
		・ 割当制は何においても行うべきではない 男女の枠組みが出来てしまい能力のない人も席を設けることになりかねない
		・ この質問がすでに女性を進出できない第一歩にしているのでは 進出できない分野をうたわなくても良い時代になるよう家庭でも社会でも本来男女関係なく本人のやる気を一番重視して欲しい
		・ わからない
		・ 比率より能力が重要
		・ 女性が進出していくために保護しなくても実力があればどこでも進出していける
		・ 自分の努力
		・ わかりません
		・ わかりません
		・ わからない
		・ 縁故採用が社会に存在する限り男女平等も難しい
		・ 男性の意識改革(男女を問わない能力主義の徹底)
		・ 男女平等のため能力主義にすべき
		・ 女性自身の意識意欲の問題
		・ 行政や企業が特別なことをする必要はない
		・ 女性自身の意志の強さ
		・ 進出できる人世の中であればよいけれど家の中のことのほうが大切ではないか 私は進出は余り好きではないです 反対です
		・ 力のある女性は進んで採用すべき 口先だけの男女平等等は困る 女性の働きやすい環境を
		・ 世の中は男性と女性で成り立っていることを確認すること 特に男性
		・ なし
		・ わからない
男性	60－64 歳	・ そのような必要はない
		・ 有能な女性であれば積極的に管理職に登用する
		・ 女性自身の力で勝ち取ること、啓蒙する、女性の起業支援以外の選択肢は不平等
女性	65 歳以上	・ 行政等のこのような政策は逆差別の温床となっている
		・ 労働基準法等の法律改正
		・ 家庭の柱となる男性を援助するために男性優位が良い
女性	65 歳以上	・ 女性自身が自己啓発を行い自身の能力を高める環境の提供
		・ 進出する必要はない
		・ よくわかりません
男性	65 歳以上	・ 技術などをもっていながら年齢によってとってもらえないところが多い
		・ 上記については不明です 女性の進出は好まない
		・ あまりにも社会がいいかげん
男性	65 歳以上	・ 女性女性ということはないと思う
		・ 能力を適正に評価し、能力に応じて公正に登用する
		・ 女性は産休またはトイレその他男性以上に金がかかる 国全体ではかなりマイナス
女性	65 歳以上	・ 女性自身がもっと団結して努力することが重要である
		・ 特に必要なし
		・ 男女共同参画が浸透すれば選択肢のようなことを意識しないですむ
男性	65 歳以上	・ 平均に女性のほうが我慢が良いから頼られる
		・ 企業などが性別による差別をなくすこと 女性が自主的に進出意欲を持つこと
		・ 企業と行政相互の理解と連携が必要 その上で必要に応じて企業に対する助成等でも効果は上がるかも
女性	65 歳以上	・ 本人の気持ち
		・ 女性優先を強調するのは男女不平等では
		・ 女性には女性の、男性には男性がそれぞれできることとできないことがあると思う 男女共同参画もよいがそれだけではないと思う
性別・年齢不明	性別・年齢不明	・ 男性が余り進出していない分野に男性が進出する 上記の事は全体の数と比率を考えていない
		・ 全てにおいて平等にすべき(体力生理的分は考慮すべき)
		・ 進出する必要なし
性別・年齢不明	性別・年齢不明	・ 男女関係なく能力による登用を行い女性の比率などを決めることも必要だがそれも男女差別の一つだと思う

問 18 あなたは、次のような地域づくり活動に参加していますか。(MA)

女性	18－29 歳	・ 環境保護団体や災害義援金などへの寄付
女性	30－39 歳	・ 引っ越してきたばかり
女性	40－49 歳	・ 今のところ何もないから
男性	40－49 歳	・ 子供が小学生の時PTA役員をしていた
		・ 自主パトロール
		・ 高額納税
女性	50－59 歳	・ 食生活についての活動
		・ 現在重症な病気を抱えているため参加していないが健康を取り戻したら上記のいずれかに参加したいという思いは持っている
		・ 過去には参加しました
		・ 高崎経大が創立されて以来文化都市を目指しているにもかかわらず道路整備が昔のままの状態自転車通勤する学生歩道も自転車道もないし道幅自体が狭すぎる。公立大学を地域にある高崎市としてはもっと文化都市として力を入れて取り組んで欲しい。事故が起きてからでは遅い
男性	50－59 歳	・ スクールボランティア
		・ 鼻高町をきれいにする会ボランティア
		・ 町内清掃等
		・ まちづくり活動
女性	60－64 歳	・ STOP AIDS
		・ 美化協力員
		・ 地区の活動母子会やまびこ会婦人会厚生保護会等
		・ チャリティコンサート等の参加運営
		・ 月 1 回の住宅の清掃
男性	60－64 歳	・ 町内会活動
		・ 仕事で関わっている部分がある
		・ 病気療養中のため
女性	65 歳以上	・ 高齢者がいるため
		・ 平成 17 年まで地域のボランティア活動老人ホーム入浴介護
		・ 自分がハンデを持っていて万事消極的になってしまう
		・ ボランティアとして「悩み事相談室」の一員
		・ ボランティア
		・ ぐらしの会の活動に参加する
		・ 学童の防犯パトロール
		・ 食生活改善推進委員として活動している
男性	65 歳以上	・ ニート支援
		・ 政治をよくする活動
		・ 町内の役員 15 年
		・ 堀のごみを清掃している
		・ 組合活動・環境
		・ 過去は参加したが今はしていない
性別・年齢不明		・ 活動の情報がないため参加できない
		・ 自分の家の仕事のため 高齢者のため体力減退

問 19 長寿社会を迎えるにあたって、あなたは老後をどのように暮らしたいと思いますか。(SA)

女性	18－29 歳	・ 海外でのんびり暮らしたい
		・ 外国でゆつくり暮らしたい
		・ そんなに生きていたくない
		・ 老いる前に死にたい
女性	30－39 歳	・ 仕事はしたいが生活のためだけにしたくない
男性	30－39 歳	・ ハワイでのんびり
女性	40－49 歳	・ 家族の迷惑にならないように健康に暮らしたい
女性	50－59 歳	・ のんびり暮らしたいが現実的にはとても出来ない
		・ 少し仕事をしながら趣味や旅行をして楽しみたい
男性	60－64 歳	・ 気楽に社会貢献したい
		・ 子供がいなくて不安です
		・ 病気療養中

女性	65 歳以上	・ 現在夫の介護で手一杯です
		・ カラオケ 町民館を借りて 10 人くらいで楽しんでおります
		・ 動けるうちはいいが動けなくなったら施設だろう
		・ すでに介護から逃れられない生活で他に考えられない
		・ なし
男性	65 歳以上	・ 全て金の問題
		・ 他人の世話にならぬよう健康管理に努める
		・ 体の具合が悪いので楽しく暮らせない
性別・年齢不明		・ 夫と別れてのんびりしたい

問 20 女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。（3 択）

女性	18－29 歳	・ 産科、婦人科医師乳腺外来医師などの倫理意識とマナーの向上		
		・ 補助金(医療費)		
		・ 科学的な正しい教育		
男性	18－29 歳	・ 産婦人科を持つ病院を増やす		
女性	30－39 歳	・ みどりの検診は 30 代からでもいいと思います		
		・ 一次予防ではなく疾病にかかった後のフォローの助成		
		・ 教育(学校家庭)での「性」への見直し及び知識の提供		
		・ メンタルヘルスケア		
		・ 女性特有の疾病にかかる医療費や医療制度の見直し		
		・ 小児科以外で子供を連れて行ける病院の充実		
		・ 精神的なケア		
男性	30－39 歳	・ 分らない		
		・ 不要		
		・ わからない		
女性	40－49 歳	・ エクササイズ		
		・ 家庭での基本的な生活の見直しと自覚		
		・ 禁酒禁煙等の依存症のカウンセリングを低負担で行う		
		・ 妊婦が入院などした場合の家事の援助機関の設置		
		・ アルコール依存症等への対策		
男性	40－49 歳	・ 更年期の相談		
		・ 子供を産みたくなる気持ちにさせる		
		・ 不妊治療の医療補助金		
女性	50－59 歳	・ 太りすぎややせすぎの対策		
		・ 市の、女性に対する運動の教室を定価格で催す (定価格・・・原文どおり)		
		・ 特に更年期における心理面のサポートの充実		
		・ 家族の理解と協力特に配偶者夫		
		・ 運動の指導、自宅の近くで運動が出来る施設の充実		
女性	60－64 歳	・ 自分を愛し心と体は自分で守るのが基本		
		・ 本人が熱中できるものがあれば夢中になれるからいやな仕事も忘れてしまうし体も動くから健康でいられると思う		
女性	65 歳以上	・ 心理相談		
男性	65 歳以上	・ 趣味、スポーツ、旅行		
		・ こころ(精神)が先ず健康でなければどんなサービスも対策も意味がないと思う		
		・ 生物たる人間の基本は安定したセックスである		
		・ 輪島の朝市や各地域の朝市等に働く女性は年をとっても健康である 地産地消の推進が一番重要で貿易の完全自由化のためにも重要		
		・ お互いがいたわりあうこと		
		・ 運動の指導者、運動施設を充実させ病気の予防対策		
		・ 公園(運動場)		
		・ グループ活動への参加		
		・ 高齢者に対する医療機材の補助等		
		・ 運動の参画		
		性別・年齢不明		・ ダイエット用品・健康食品の管理強化
				・ 女性に無理をさせない

問 21 「男女共同参画社会の実現」に向けて、高崎市は、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（3 択）

女性	18－29 歳	・ DVなどの防止のために公開講座など
		・ 学校や公共事業からの男性への働きかけ、参加、社会全体が働きすぎ！
男性	18－29 歳	・ お金の無駄遣いは辞めて欲しい
		・ 景気の回復も取り組んではいかがでしょうか 家庭内暴力は少し減るかも知れません
		・ スポーツ設備、企画の充実
女性	30－39 歳	・ 女性についての問題が多いことがネック(市としての弱点)といっているようなものだからそれらを一つずつ解決すればよい
		・ 企業の意識改革
男性	30－39 歳	・ 女性の起業を促進させる政策をとる
		・ 他の事に金をかけた方がよい 子育て支援等
		・ わからない
		・ 学校教育(家庭を含む)ゆとり教育削除 学力競争の復活
		・ 共同参画全般についての恒常的な委員会の設置 委員会による討議 提言チェックのサイクルを確立する
		・ 地域パトロール
男性	40－49 歳	・ 企業との連携
		・ 必要ない
		・ 使えない職員を減らすべき(正職員)
女性	50－59 歳	・ 男性、女性の違いを踏まえての男女の平等を考える そうでないと不平等になる
		・ 女性を含む中高年層の就職支援
男性	60－64 歳	・ 男性の暴力により女性の浮気が多く目立つ
女性	65 歳以上	・ 市民との連携ですよ

自由記入

女性	18－29 歳	- これから就職する私としてはやはり男女平等の会社に就職したいと考えているので、なるべく早く男女平等社会になってほしいと思う。高崎は大好きな街なので、より良い街になるようがんばって下さい。 - 問6の質問に近いですが、夫の労働時間が一日 9 時間から 12 時間と長いと、家庭のことに手助けをしてくれません。会社の方針で有休はあるのに「取らないのがあたり前」となっていてこれから出産するのですが、子育てについても不安を感じます。夫はパチンコ店ですが、その他の企業もそうなのでしょうか？これからの社会のためにも、労働基準法など見直してほしいです。お願いします。 - 職場が病院なので男女の格差はさほど感じませんが、男性医師からセクシャルハラスメント的な言動が時々あることは確かですそれが問題になっています - 男女互いに尊重し合い又、それぞれの特性を生かして生活できる社会を求めます。 - 倉渕村や榛名などが高崎市に合併したが、どういう理由で合併になったなどを明確に説明すべき(チラシ配布など)。合併前からずっと高崎市民だが意味わかんないなあと市に不信感を少し覚えました。 - 我が家は私の母が49歳で亡くなり父が寂しい老後を迎えようとしています。父は定年退職して毎日時間をもて余しています。何か市からやりがいのある奉仕活動などを紹介して頂ければと思います。妻を亡くした男性で同じ思いをしている方はとても多いと思います。また母が長年父や弟を優遇して生活してきたので二人とも女性を軽視する態度を家庭内外でとっています。その為社会的にうまくいかないことも多々あるようです。セミナーへの参加などを促して頂きたいです。 - 高崎市民のために色々と考えてくれている事がうれしかったです。アンケートをもとによりよい高崎市になることを期待しています。 - 合併すれば小3まで医療費が無料と言っていたのに手元に届いたのは6歳まで無料の証明書でびっくりしました。あと4月生まれの子はいいけど早生まれの子には差別を感じる。 - 産休、育休をしっかりとれるようになれば、一人だけでなく2～3人の子供を産む人も増えると思います。パートでも実力のある人はたくさんいます。正社員と同じくらいの条件にして欲しいです。 - だんなの仕事が毎日早朝から深夜までで家庭と子育ての事が共同で出来ない状態なので市というより国に労働の現状を把握して欲しい。今のままでは働くのは難しい状況です。 - サラリーマン男性が忙しすぎて結局家事分担を頼むにはどうしても無理がある、という現状を改善してください。企業の実際の労働状況などを調査し、改善指導をして下さい。1日12時間週6日勤務が当たり前の中小企業を助けて下さい。女性に家事分担が押し付けられているのはこのためです。 - すみませんが障害者当人のため協力困難でした。 - 汚くしてしまいました。すみません。書き直します。高崎市には公共の大きい図書館が少ないです。(このアンケートからはずれますがごめんなさい)アンケート結果を協力した者にはお知らせ願いたいです。 - 男性女性のそれぞれの特質がある。したがって男女平等にもその適正を第一に考えることも大切だと思います。常に「～らしさ」を忘れずに。その上に物事が展開することが望ましいかと思います。 - 問4の質問が最近の傾向で「なんでもあり」というのが強いようですが、世の中そんな男女関係無く相手への思いやり規律ある生活ができなくなったからだだと思います。人間としてのマナーを子供の頃から教育すべきです。 - アンケートをとるだけでなくその結果を踏まえ確実に実行して欲しい。よろしくお願いします。 - 市民税が高い - 私は理科系大学卒なのですが、就職面接の際、ほとんどの企業で「結婚したら仕事はどうするのか」と聞かれました。私は結婚出産しても働きたい意志はあるのですが、企業側はそのことに関して結構否定的なところが多いんですね。就職するのが24歳でそこから数年くらいしか使えないという悪いイメージを受けたような気がします。現在は希望通り研究職で働いているのですが、就職活動をしていてまだまだ日本の企業は理系研究職志望の女性に冷たいという感じを受けました。 - 女性用医療の現場(産科婦人科乳腺外来など)が少ないのにはとても横暴な医師がいます。他に行く所がなかったり医師が少なかったりで我慢するほかない場合も多いです。もちろん大変良心的な医師もいらっしゃいます。精神的に大きなダメージを受け医者不信になったことがありました。医師の気分を害すると治療を受けられなくなりそんな恐怖心もあるので匿名で医療現場へ苦情など投書できるようなシステムがあったら良いなと思います。女性用医科の数が少なく他の病院へ行っても同じ医師だったり(かけもち)選択の余地が少なかったりします。医師不足なのはわかりますが、その現状が一部の医師の倫理観やマナーの低下を野放しにしている面があります。もちろん誠実に頑張っている医師を追い詰めたくはなくあくまで悪い医師にだけですが、何か有効な手段はないものかと思います。 - 地域ごとに統計を取りたいのかもしれませんが無記名と言いつつながら地域、年齢、既婚などを記入すれば個人を特定することになると思います。アンケートに協力したい気持ちはありますが、その点については同等する際に抵抗がありました。 - 女性の社会進出に行政が支援をするのはとてもよいことだと思うが、だからといって社会の中で女性の採用比率を定めるというのは男女平等といえるか疑問。 - 住民税を減らして欲しい。 - 水道代の値下げ。空室だらけの市役所を建てたのは税金の無駄遣い。街中に駐車場が欲しい(無料の。有料はいらない) - 職業によって働く時間等が違い労働基準法は守られていない。長時間労働のため身体(女性)が疲れるが規則のため休めず美容師看護師等の女性職場の改善願いたい。賃金も安く見習い期間2～3年間は職場も変えられずあきらめて働いている。仕事を覚えるために。
----	---------	--

男性	18－29 歳	・ 男女平等とは具体的にどのようなことなのか。私にはよくわかりません。男性と女性は根本的に違います。男女がまったく同じことができると思いません。男性のたくましさ、女性の繊細さそれぞれの佳さを互いが理解した上での平等でなければいけないと思います。
		・ 問 22 の事業はまったく知りません。私くらいの年齢の人はみな知っているのでしょうか。それとも私だけ知らないのでしょうか。もう少し全員がわかるような広報のあり方を考えたいかがでしょうか。
		・ 出産の場面以外では、現在は男女に関係なく能力を重視する社会になってきていると思う。これからは男女の「質」の違いに目を向け、お互いの良いところを伸ばしあい、協力してより良い社会をつくるべきだと思う。男性や女性にしかできないことというのはなくなりつつあると思う。女性も結婚しないという選択もできるし、子どもを産まないという選択もできる。努力をすれば男性も女性と同じ立場にいられると思う。女性を優遇するという考え方は少々違和感がある。
		・ 今回のアンケートに参加して、高崎市がいろいろな事業をしていることを知りました。もっとアピールした方がいいと思います。これからも頑張ってください。
		・ 1 歳未満の子供がいるのですが、ベビーカーで散歩していると歩道のガタガタや傾斜、ベビーカーでスムーズに上り下りできない段差が多くあることに気がつきました。買物などで荷物が多いときにはなおさら苦勞します。お年寄りや体の不自由な方も歩きづらいたらうと思いますし、改善していただけると幸いです。
		・ 市民の意見を聞くことはいいことだと思います。頑張ってください。
		・ 今でも女性が性的、社会的弱者になってしまっている。全て平等にはまだ難しいが、少しずつでも平等に近づけたらよいのではないかなと思う。市がその辺を新たに教育改革すれば、また発展するのではないのでしょうか。
		・ 子供が生まれたばかり(3 ヶ月くらい)は妻 1 人で子育て家事するのが大変だから夫の仕事先で育児休暇が必要だと思う。妻 1 人で子供の健診などで病院に連れて行くのはたいへん。
		・ 現在 20 代の女性としての正直なところを書かせていただきました。今後、女性の社会進出が世間で認められるようになることを期待しています。
		・ 家庭に居るのは女性としている社会から男性がもっと家庭にかかわり、そして関わりやすいように職場環境を整える(労働時間の見直し等)。夫婦一緒に受ける子育て支援の講演等。
		・ 先ずは行政として、女性が一生働ける環境づくりをしてほしいと思う。
		・ 体のつくりが違うのはどうしようもないことなので、深夜の仕事を女性にさせることについては反対です。個人差はあると思いますが生理がとまったり、そのせいで子供が産めなくなると社会的にも損失があるのではないのでしょうか。男性と全く同じ働き方を女性にも押しつけちゃいいってもんじゃないですよ。カタツムリじゃないんだから。
		・ ニート対策はどうしているか
		・ 今現在世の中男女不平等だと思います。行政は男女平等を推進してくれていますが、まだまだ現場ではそれを感じません。今後もよりよい対策を実行して欲しいです。期待しています。
		・ 今回アンケートをするまで知りませんでした。もっとPRをするべきでは？
		・ 県国が均等法の事業所へ周知徹底。
		・ 今回のアンケートとは全く関係ありませんが、高崎市内で F1 を呼べるようにしていただきたい。簡単に言うとモナコ公国みたいに市内の道路や住宅地を抜けられるようにしてもらいたいです。そんな市になってもらいたいです。
		・ 最近子供の自殺が増えていて似たような境遇を抜けてきたことがある私も心が痛みます。命に大切さを教える授業や子供の SOS を受け入れることもサポートといった設立充実をお願いします。
		・ 特に男だから女だからといった考えはない。本人次第だと思う
女性	30－39 歳	・ 問 22、すべてピーアール実施の周知(難しい)
		・ より良い高崎市になるよう皆で力を合わせて頑張っていきたいです。
		・ 正直なところ男女の差はある程度必要と思う。もし男女の差をなくすなら食事時お見合い等の男女の料金差を改善してもらいたい。男女平等というより女性が優遇されている面も多いと思われる。
		・ 男女平等という言葉は勘違いしている。元々体が違うから力、体力等差がある。平等というのは精神面での平等であることは大変重要だと思う。男女互いに気持ち考え方は平等に評価されるべきだと思う。
		・ 男女平等とは言えけれど何事にも女性が進出することではないと思う。やはり男性なり女性なり役割はあると思う。女性が強すぎると男性はダメになってしまう。
		・ 知的障害者です。本人が分かっている所まで印を付けておきました。
		・ まずは社会全体の意識改革が必要とされると思う。今の時代では企業も必要とする人材を選出しているので、それほど男女格差というのはないのではないかなと思う。無理に女性枠等を設けることは必要ないとも思う。
		・ 男女平等についてのみでなく、個人が自分のやりたいことをできる社会をつくってほしい。
		・ 平等というのはあくまでも理想だと思うし、世の中には男と女しかないのだから、上下のバランスがあつて当然だと思う。逆に全てが平等となると女性はさらに出産から遠くなると思う。
		・ 晩婚化が進んでいるので男女の交流の場や相談センターなどがあるといいと思います。
		・ 基本的には男性が働き、女性は家庭を守るというのが一番だと思います。しかし我が家では夫がリストラにあり、仕事もなかなか見つからないので、私(妻)がパートで働くという状態です。男女平等というけれどやはり男性と女性が働くのとでは差はかなりあると思います。こんな事なら結婚退職しないでずっと働いていけばなと思っています。子育てをする上で女性が育児に専念するのは仕方ないと思います。今何とか子供も中学生になったので、パートもフルに働けますが、それまでは大変でした。でもこれでも満足ではありません。家事も両方こなしているの、これから先健康にも自信がなくなってきたらと思うととても心配です。

- ここにでてくる職場というのは「男女がいる会社や行政」が対象ですか。女ばかりの職場もあるので答えにくいものもありました。
- 上記のような事業を知っているのは一部だと思う内容も余りありません。もっと分りやすく市民に伝わっていくことを期待しています。女性がもっと働くことが充実できるように昼間とかの働く口を確保して欲しい
- あまりお役に立たずすみません。よい計画ができますよう祈っております。頑張ってください。
- 育児も仕事も両立できるあるいは育児中心から再就職がしやすい環境が整うと、女性の活躍する場も増えるのではないかと思います。
- 放課後児童クラブ(学童クラブ)の拡大をしてください。現在1～4年生のみの入所しか認められていません。子供が被害を受ける事件が多発する今の社会。5、6年生だから、大きいからと入所できないのでは母親も安心して働けません。ぜひ卒業まで入所できるようにしてください。
- 仕事を行っている上で子育ての放課後クラブ等不満が大変あります。学童でも人数の制限や料金においても考えていただけるとありがたいです。
- 私は以前医療職に就いていたので仕事そのもので男女差をそれほど感じたことはありませんでした。様々な場面においてやはり体力差などどうしても「性差」について男女共に理解してそれぞれ互いの不足分を助け合うのが大切なことと考えます。職業選択がじゆうにできたとしてもやはり業種によって女性は男性の力を借りなければならないこともあるはずで「平等」を全く同じ条件と考えるのは無理があると思います。チャンスは平等に、実務は互いに快く助け合うことが出来る男女共に幸せになるのではと思います。
- 以前の勤務していたところで育休をとって(6ヶ月)復帰後3ヶ月たち子供が入院したり具合が悪くなった時「だから子供のいる人はダメなんだ」と雇用主に言われました。結局退職することになりました。行政サイドの制度作りだけでなく、雇用主などの意識を変えていく事も大切だと思います。せっかく頑張っても追い出されるように退職をする女性は多いと思います。
- 子育て支援事業を強化して欲しい。女性は出産・子育てでどうしても社会復帰が困難です。男性は通常残業などでどうしても女性に負担がかかります。
- 男女を平等にする必要はありません
- 学童クラブでは今現在3年生までしか受け入れてもらえません。学年で区切りをつけてしまうのではなく希望すれば6年生でも受け入れていただけたらいいと思います。核家族又一人っ子の多い現代夏休み冬休みなど長期休みのことを考えフルタイム働くことができずにいる母親も多いと思います。
- 保育園などに看護師などの常勤体制を整えてもらいたい。
- 厳しい意見かもしれないが、母子家庭について、死別はわかるがどんな理由にせよ離婚して母子家庭だけ医療費(18歳までとか)が無料はおかしい。離婚率が多くなってきている今、もっと税金考えて欲しい。団塊の世代の対応もおかしい。介護要支援1、2の人の対応。30代の私達の年金のこと、下水道も早く通して欲しい。やっていただきたいことは山ほどあります。もっと住みよい気持ちの良い高崎市を心掛けて欲しいです。少子化は本当に深刻。3人目は市で、国で育てるくらいの援助がなければ本当に増えません。
- 女性が生き生きと暮らしていける社会に変えていく必要があると思います。
- はっきり言って行政には期待はしていない。市民の目線に立っての政策なんてないと思う。結局高いところから見下した政策ばかりだと思う。行政の人達は一番国に守られているとしか思えない。
- 男女共同参画の実現ということになるとどうしても理解できないのが高校の男女別学の問題です。私は県外出身ですが、これは禁忌なのでしょうか。
- 昨年出産を機に退職しました。産後友達になった人も再就職探中ですが、なかなか苦戦しています。私個人としては市役所のパート状況を知りたいです。介護保険の訪問調査員は市正規の方ばかりでしょうか？近々ケアマネジャー復帰をする予定です。
- 老後安心して暮らせる社会にして
- 自分が比較的恵まれた環境にいるのか質問に答えるうちにこの類の見識の低さを痛感しました。やはり啓蒙活動が第一に必要なことのように思います。
- 男女の性差を認識しお互いを尊重し合いながら男女共同参画事業が進むといいと思います。
- 私達夫婦は教員なので仕事では同じ事をしているのだから家庭でも同じことをやって当たり前という考えが私にはあり夫も協力してくれている。男女が同じ給与待遇で働けた時家庭内の立場も同じになりそれが男女平等な社会の実現につながっていくのではないかと思います。
- 男女平等→大きな事でなく男性にゆとりが出来家庭で過ごし夫婦揃って育児等できるようになれば家庭の女性もゆとりが出来て外へ(社会へ)目が向いていく。男女とも忙しすぎるのが全てに悪影響を与えていると思う。夫が毎日子供の顔を見る時間さえなく疲れきって妻が育児家庭全てをしていれば妻も疲れ子供に当たったりしても不思議ではないと思います。
- 今回アンケートがきて初めて高崎にも男女共同参画課があるのを知りました。新しい高崎市になったのですから群馬県で一番住み良い市になっていくことを切に願います。
- 出産育児など女性には働かたくとも無理な時期が必ずあります。そこを行政の援助で改善できたらもっと女性が社会で楽に働けるようになると思います。
- 住み良い社会にして欲しい。障害を持つ人もそうでない人も平等に扱って欲しい。
- 男女共同に対して何かを新たにする前に根本的な考え方(男性が育児休暇を取りにくい状況や育児のため時間が制限されるため働く場所がない)などの改善をしていかないと限り形だけ整えても何の意味もないと思う。

- ・ 自営の他に違う職のパートで働いてみましたが、幼い子(2歳、5歳)をかかえてはとても大変。サポートしてくれる親兄弟もいないので病気になるかとやはり女性が仕事を休む。病気でも頼れる場所が欲しいです。
- ・ このような機会がないと行政について考えたりしないもので大変お恥ずかしいのですが、「男女共同参画」についてもこのアンケート内容で少し理解できました。名前からだとして一般に受け入れにくい感じもしますので市民にアピールできるようなタイトルでスタートしたらよいのではないかと思います。
- ・ このアンケートの集計を踏まえてどんな話し合いが持たれ(メンバーは)何が企画されどんな成果が出るのかととても楽しみです。高崎市の腕の見せ所です。
- ・ 家の主人は労働基準法をはるかに越えるサービス残業を会社から強いられています。給料が安いので私が働きに出たいのですが、朝8時(早い時は5時)から12時まで働いてくる主人に家庭でのサポートを頼むのも主人の体が心配です。そうだけでなく主人は家の事をよくやってくれるしとても労わってくれます。男女差別という事でなく弱者に対する企業の態度を何とかして欲しいものです。
- ・ 問22あまり知りませんでした。載っていたら申し訳ないのですが、タカタイのようなものに載っていると知っていたかもしれない。
- ・ 男女平等まで沢山の難題課題があると思います。少しでも差別が少なくなればもっと住みやすくなると思います。お互いにいい方向で。ただすべて平等というのは無理だと思います。男と女の適正があると思うので。
- ・ 子供が出来ても働きたいですが仕事の時間が不規則で立ち仕事のためおなかに子供がいて働くのも厳しいです。ギリギリの人事で働いているため簡単に休むことは許されません。出産しても働きたい女性は沢山いると思います。また働かないと生活していけない世の中でもあります。もっと企業や国が出産後も女性が働ける環境を作って欲しいです。そうしないと少子化も進むばかりだと思います。女性は結婚して子供を産んだら辞めるからそれまで働いてもらえばいいからという見方をする企業はおかしいです。社会がそうさせているのかも。
- ・ 催促のハガキはアンケートを求めるに意味のないことなのでやめて欲しい。お礼も下書いてあるのだからハガキ代は別のことに使って欲しい。このアンケートが男性女性についての質問数が同じ割合になるような社会になることを願っています。活動頑張ってください。
- ・ 高崎市では「福祉医療費受給資格」は就学前までの子供が受けることができるだけですが、そのあと小学1年～6年まで受けられるようになることが子供を持つ親には必要と考えます。
- ・ 男女平等というものの女性に不利なことばかりだと思います。どのように支援の充実をしていただけるかが今後の本当の男女平等に近づけるのでは。
- ・ 私自身は未婚ですが、周囲の友人知り合いを見て結婚出産を機に女性の社会的活動(就業)が難しい状況にあるように思います。出産後もある程度のサポートが得られれば仕事をしたいという友人も複数います。そのような中で子育て支援社会復帰へのサポートサービスの更なる充実を望みます。
- ・ ごく一部の女性を優遇することで表面的に数の上で増えても意味がないように思う。数字で目に見える形で成果がほしいのかもしれないが、実を取る取組を期待します。
- ・ 30代になると結婚したくても仕事が忙しかったり家の用事などで出会いも少ないので、安全な合コンパーティを開いて欲しい。
- ・ 既婚女性が安心して働くためには、家族の協力はもちろん、就業時間や休暇の取りやすさ、加えて子供の急病時に理解、手助けしてくれる環境の有無が必要だと思います。
- ・ Vamos って前はきてたけど最近見かけない。全ての小学校のすぐそばに学童があれば安心してパートに出られると思うし、学校に行っている間のあらゆる行事に参加するための休暇を認めないと女性の再就職は難しいと思います。
- ・ 女性も出産育児後に同じ会社に社員として復職できるように取組をして欲しい。子供を育てていく中で不安なことが山積みなのでもっと子育てが楽しい社会になるよう取り組んで欲しいですね。送迎とかで仕事をしている場合ではない。少子化のことも含めて考えて欲しいです。
- ・ 児童館など、子供が夕方まで安心して遊べる場所が欲しいです。保育料がもっと安かったら預けて働けるのにといつも思っています。
- ・ 今、子供を取り巻く問題が多い。子供をしっかり育てる必要を感じる。私も子供が欲しいが、仕事との両立で二の足を踏んでいる。育児休業を最長1年ととても1歳ちょっとの子供を保育園という小さな社会に預けることに不安が大きい。しかし社会人として仕事もしたい。今考える希望は3歳までの育児休業と小学校低学年の間の7時間勤務。「三つ子の魂百まで」のとおり物心つくまでの教育が重要だと考える。子供を自分で育てることができる社会環境を強く希望する。
- ・ 市が行っていることを知らないことが多い。もっと分かりやすく知らせて欲しいと考える。
- ・ 育児、高齢者の介護など、女性の負担になりがちなので、学童保育、デイサービスなどをもっと利用しやすくして欲しいです。
- ・ このようなアンケートで何か良い方向へ進むのでしょうか？男女共同・・・なんて今の日本では無理なことのように感じますが。男の方が「上」という考え方はずっと昔からのので今さらどうにもならないようになって思います。
- ・ 問16はそのほとんどの項目それ自体が性差別のような気がする。女性が行政や企業の重要な位置で活躍するのが当たり前の子供の時から教育が必要。
- ・ 共同参画も大切だが、子ども達の”いじめ”問題の方が今もっとも必要とする事では無いのですか？今このアンケートに何の意味があるの？もっと大切なことを考えなさい！！役所は未来の子供の命を大切にしろ！
- ・ 子供のうちから男女平等だということを教えることが大切だと思う。大人になってから、女性が、とかいうと余計臆れさせているように感じるので、子供のうちからそういう社会であれば男女平等と感じるのではないかな。

男性 30－39 歳

- ・ 男性の育児休暇など公務員ばかりが優遇されがちですが、どの会社でも義務化すればよいと思います。少子化が問題だと騒いでいる割には、高崎市独自の支援策があまりにも少ないと思います。何か誇れるものを増やしてください。(3人目を生んだらお祝い金を出すとか)
- ・ 男女共同参画法に基づくアンケートはわかるが、各質問がどのようにして出たのかつながりがよくわからない。どのような理由からして各質問があるのか、そこまでしっかりあればアンケートや共同参画も理解がしやすいのでは？この質問だけでは「男女共同参画」の中身や質が見えてこない。なにをどう変えてくれるの？変えられるの？男女共同参画というコトバをはじめてふれる者としては、もう少し意味や説明を書いてくれれば「こういうこともあるんだ」「こういうのが男女共同参画か」と、アンケートからもとても理解しやすく、興味がとても(関心がとても)強くなるのですが、いかがでしょう？
- ・ 女性自身が社会進出に消極的なところがある(特に主婦)ので、女性に強制的に地域の役員を割り振る必要があるのではないか(区長やまちづくりに参加している女性があまりいない)。
- ・ 核家族だと女性の共同参画社会進出は難しい。なるべく親子二世帯・三世帯が同居すれば子供の面倒を見てくれる人がいるので女性が働きやすい。
- ・ ぐるりんバスの利用時間が朝夕の利用したい時間がない。これでは通常のバスに乗るしかないので、経済的に負担が多い。合併した1番の望みだったのに。
- ・ 自営業者への保障・育児手当などもあると良いです。
- ・ 以前男らしく女らしくはいけなさと市の広報にありましたが、反対です。らしくは必要なことです。
- ・ 女性が社会に出れば出るほど少子化問題につながると思う所がある。
- ・ 高崎市に対する要望としては前橋市と比べて医療救急の面で弱いと思っています。
- ・ 家庭内における女性の役割(出産授乳等)を良く考えて頂き平坦に男女平等を言ってほしくない。母性など男性にはどうしても対応できない部分もある。また看護婦を看護師と呼び名を統一したり学校を共学化することが平等化とはき違えている人がこういった取り組みをしている人の中に多い気がする。
- ・ 収入に比較し国税地方税が懐に響く。各所で役所の公費の無駄遣いが報道されているが高崎市としても公務員の削減経費の削減とガラス張りの公費公開を実施願いたい。
- ・ 男女平等において女性への対策へ目がいきがちですが、一呼吸おいて真の男女平等を目指して欲しいと思います。
- ・ 賃金による格差をなくす。労働時間の短縮。年金問題。
- ・ 行政への協力心はある。しかし無作為によるアンケートならばなぜ封筒の宛名ラベルにIDを書き留めているのか？
- ・ 男女の平等という意識を持った上で男の役割と女の役割は本質的に異なるので自然に逆らわずに生活していくことが人間的であると感じる。
- ・ 政治行政は選挙権のある高齢者には手厚いサービスを提供。選挙権のない児童育児サービスには財源がないと逃げている。スローガンばかりでなくもっと可能性のある子供に予算を使って欲しい。
- ・ なにをしてもいいけれど住民税を安くして欲しい
- ・ 平等というより女性主体のアンケートだったと思います。女性が差別を受けているのは身近にないので女性優位を作ろうとしているのですか？
- ・ 昔から男は仕事、女は家庭で社会が成り立っていました。女性が仕事をするのはいいがその結果少子化になっていると思います。男女は平等ではなくそれぞれの役割を果たすことが大切です。
- ・ 父親が仕事のしすぎで家庭に戻れない現状を、国を挙げて改善してもらいたい。例えば役所書類の手続きとか提出書類を簡単にするなど、そういう小さなところから手間のかかる業務を減らしていきたい。
- ・ 地域独特の教育例えば中央高校のような一昔前のような偏差値教育の復活。そのことで教師も親も教育に多くの関心を持つものと思います。教育に力を入れてください。
- ・ 男女共同参画も良いが結婚しない若者が多く出生率も低下しているのでそちらの方に力を入れてもらいたい
- ・ 子供を持つ家庭が安心して子育てできる高崎市にしてもらえればうれしく思います。
- ・ 街を綺麗にしてください。緑化事業公園管理などに力を入れてください。
- ・ 質問が抽象的で答えるのに難しいところがありました。
- ・ 自己満足のアンケートはやめてほしい。平等にしなければならぬという考えがおかしい。人は不平等なもの。もう一度平等について考えるほうがよい。不平等だからこそ互いに助け合いよい社会が成り立つ。平等な人間はいない。
- ・ 男女共同参画社会？男性の職場での育児等の参加を必須にしてほしい。
- ・ 男女平等そのものに無理がある。体力面をあげれば一目でわかるはず。「できる限り」は必要だと思います。
- ・ このような事業があることを初めて知りました。市がどのような事業を行っているか市民一人一人に知ってもらおうというのは大変難しいことですね。この答えてアンケートに協力できたかどうか。よろしくお願いします。
- ・ 趣旨が違うかもしれませんが、私の会社では、人件費削減のため1人当りの仕事量が膨大で、毎晩深夜帰宅というのが現状です。寝るために帰り、早朝出て行くので子供とも会えず、とても人間らしい生活とはいえません。育児休暇どころの話ではなく、タイムカードもなく、残業代は毎月一定の微々たる額しか出ません。社員は解雇を恐れ、ただ我慢して働いています。人に聞いても市内にそのような企業が多数あると思います。行政の方で、各企業へ労働条件の見直し、指導を徹底していただくことはできないでしょうか。
- ・ PTA活動に参加しております。セミナー活動が多すぎる気がします。基本的に学校活動なら理解できますが、子供を置いて出かけることが多々あります。検討してください。
- ・ 男性が男性、女性が女性である限り、男女平等はないと思います。ですが、なくそうとする努力は必要だと思います。
- ・ 私自身も市の事業がわかりにくくお世話になりにくいですし、事業が必要な方々にほど情報が届きにくいのではないかと、思います。厳しい条件が重なる中での展開は大変だと思いますが応援・期待していますのでよろしくお願いいたします。

女性 40～49 歳	・ 合併して、「合併する前の方が良かった」といわれないようサービスを向上させてほしい。 ・ 中小企業ではまず、男女平等など無理。重い荷物が届けば倉庫にしまうのは男性の仕事だし、お客様が来てお茶を出すのは女性の仕事。掃除当番も男女違う。 ・ 問 22 の事業内容は、今後入手するにはホームページ以外にも関心を持てる方法がよくわからない。表紙の文面は協力者宛に 1 通として配布した方がよい。 ・ 男女共同参画社会に関する市民アンケート調査との事ですが、質問後半はあまり意味ないような・・・よくわかりません ・ 就職口を増やして生活費のたしになるように働きたいが年齢制限があり仕事に限られてしまう ・ 女性が安心して幸せに暮らせるために男女共同参画のとりくみ等大切なことだと思いますが、女性側の男性と対等にと 言う反面男性に甘えている若い女性も多いと思う。都合の良い時だけ男女平等を口にするから男女共同参画社会の実 現が進まないのだと思う。女性が肩肘をはるだけでなく、根本から自立して欲しい。 ・ 結婚前は男女対等なのにどうして結婚後は男は女の上にあがりたくなるのか。妻は夫の所有物のように扱われるのか。だ から熟年離婚が増え、結婚しない女性が増えています。女性が離婚後も安定した生活が送れるようにと思います。 ・ 働く女性の一人として男女共同参画社会に関する関心はあります。高崎市がこれからますます女性が働きやすい市であ るよう願っています。 ・ 労働に対する不平等を撲滅するため市で条例違反の経営者への罰則を設けて欲しい ・ 若い夫婦で子育て、家庭、地域での活動を協力して行っている方を見かけますが環境(家庭の協力)職場の労働条件が 不可欠かと・・・ ・ 基本的に子育て期間中の女性が仕事を持つことについては反対です。何故なら子供にとって母親がそばにすることが 何より大切だと考えるからです。将来社会に自立した一人の人間を送り出す為に何が大切かをよく考えて欲しいと思いま す。いじめや自殺犯罪が増え続ける一因を男女共同参画の考え方が担っているように思えるのは私だけでしょうか?平等 であることと男女が同じ事をするということは別だと思います。 ・ 子供の医療費現在就学時前までですが小学校 6 年生までにして欲しい。 ・ まだまだ家庭のことは(特に育児・家事)女性に任されている部分が多いと思います。時代の流れで男性も育児家事など 協力できるようになって欲しいと考えます。 ・ 問 22 の 10 項目について耳にしたことはありますが、内容まで把握しておらず○を付けることが出来ないのは勉強不足で アンケートの対象者市民として恥ずかしく思います。基本的に男女の体の作りが違うので一概に男女共同参画といっても 難しい問題です。環境の変化で中世的な人間が増えつつあるので近未来では問題もなくなるかもしれませんが・・・人とし て生まれ衣食住を与えられ平等な教育の場を与えられればあとは本人の努力次第ですので、努力できる環境を整えら れる社会を男女共同参画していただければと思います。 ・ 主人の稼いだお金で好きなことをして何が悪いと言われ家に帰らず子供のことは母親任せ家を出たくても経済力がなく 出られず鬱になり病院に通っています。自殺も考えたこともありましたが、でも主人は何も知りません。妻という立場を利用す るだけ利用して感謝いたわりはありません。 ・ 1 つでも少しでも多く良い方向に向かって改善されます事を願いたいと思い宜しくお願いします。 ・ 男性と女性では根本的に違いがあります。それぞれの長所短所を補う形で対となり家族や社会で活躍できることが望まし いと思います。 ・ アンケートとはいえ初めのページの①～⑧抵抗がある所は記入していません ・ 無理に平等にする必要はないと思います。子供が成人になるまで「おかえり」と言ってあげられる状態のない今の社会が いじめ自殺など様々な問題を起こしているのではないのでしょうか。女性が無理して働かなくても子供に教育費がかかから ない社会にしてみたい。 ・ 男女共同参画という言葉が堅苦しくなみにくくお役所言葉だなあという印象。PR したいのであれば親しみやすいキャッ チコピーや合言葉を考えたほうが良いのではないのでしょうか? ・ 設問の仕方に疑問を持ちます。女性は家庭を選ばせる問が多い。女性でも男性でも出来ることをすれば良いと思う。男性 が主夫になることもあって当然だと思える社会にすればと思います。 ・ 男女性別に関することだけでなく若年、老年層の交流企画などにも力を入れてください。 ・ 女性が男性同様の経済力や立場を持てるのは素晴らしい事です。方向性としては望ましいことですが、子供の孤独、家 庭内に母親がいない時間が長くなります。時間の長さだけが愛情ではありませんが、私は子どもが小さいうちはいつも子 供の気持ちを受け止められる余裕のある母親が望ましいと思います。 ・ 妊娠出産などがある女性と男性とを全く同じに扱うことが男女平等とは思わない。女性を保護しながら社会に出られる体 制作りが必要だと思う。 ・ 高崎で生まれ結婚し出産し高崎の土になるのが幸せかなと感じることがある。たくさんの市町村の中でキラリと光る高崎に なって欲しい。いぶし銀に小さなダイヤがキラリのような。 ・ これを機会に市が行っている事業等へも関心を持ちたいと思います。女性が社会で生き生きと活躍できることを願ってお ります。 ・ 男性の意識の改善が必要かと思います。 ・ 今後は介護制度を充実して欲しい。老々介護が増えている。介護 5 の人がショートステイに行き、寝たきりでなくリハビリも必要 に応じて出来る様施設及び人的配置の援助をして欲しい。入院時の夜の看護師がべつ数に応じた基準が少なすぎる。 看護・介護分野での男子の登用を増やして欲しい。
------------	---

- ・ 明治大正昭和そして平成となり、私達女性がとても暮らしやすい日本になりました。が連日耳にする子供たちの事件を見るとやはりお母さんの存在をもう一度見直すべきではないかと思います。忙しい親に忙しい子供。私は古いのかもかもしれませんが、そんなに力まず女性に出来るもの女性にしか出来ないもの、母にしか与えられないものがあるような気がしてなりません。なのでこれからは力を入れた取組ではなく力を抜くことも必要なのではないかと思います。
- ・ 今回初めて高崎市男女共同参画計画という言葉や活動があることを知りました。男女が平等に生きていけるよう期待し希望します。
- ・ 合併した町にもわかりやすく高崎市役所の取り組みをPRして欲しい。今のところ合併しても何のメリットもありません。
- ・ 最近よく耳にする離婚は紙面上で一緒に生活してたりちょくちょく会っていて母子家庭を装う夫婦が多くなっていると聞きます。一生懸命努力している人もいる中でどこまでが優遇されているのか疑問に思うことが多くなりました。全部の人たちではありませんが、それを平気で言う母子家庭の人もよく理解できません。私達のように力のない一人がどこへ言えばいいのかも解りません。今回の事に関係はないかもしれませんが少々気になっています。
- ・ 女性が仕事を持ち社会に進出していくことがクローズアップされがちですが、出産育児が仕事をとるかの選択を迫られる限り仕事を男性と同格に行うのはやはり不利かと思われます。専業主婦で子育て地域活動など社会に参画していることをもっと認めてもらえたらいいと思います。
- ・ このような問題は夫婦間においても話がしにくいことだと思います。ですからこのアンケートを夫婦について2通送って下さい。その方が、一方が思っていることを間接的に伝えられるので行政で策をうつよりも早く認識して改善できるのではないのでしょうか。ちなみに私はこのアンケートでいわんとすることをなんとか夫に伝えることが出来ましたが。特に男性はこの問題についてはあまり考えたくないのではないのでしょうか。認識も甘いと思われます。
- ・ 若い人達の間ではすでに平等かと思えます。30代以上の中には男社会の安定のため女性を認めない男性が多いように思えます。女性の意見も大切ですが、一定の方たちに偏りのないように。
- ・ 男女は決して平等にはなれないと思います。それぞれの役割をお互いに理解しあっていける事が良いのではないのでしょうか。行政がということはないのではないのでしょうか。
- ・ アンケートをとるだけでなく実際に行動を起こして市民が住みやすくなる高崎市になればいいと思います。
- ・ 男女平等とは理想であって現実には難しいです。結婚し子供が産まれれば女性は家庭にというのが普通であって家事育児は全て女性にのしかかってきます。働き続けるためには夫の協力が絶対に必要ですが、現実の今の社会では余りそれは望めません。女性の本音としては男性には日曜という休日があるのに女性には仕事は休みでも家事に休みはありません。一生年中無休です。不公平です。日々不満がつづいています。
- ・ 女性として子育てを終えた私は子育てをしながら仕事をするのは大変でパートをしながら子育てをしてきましたが、子供は人には預けることはしないほうが良いと思いつつ結婚しても職業を持ち続けるに〇をつける自分に矛盾を感じています。
- ・ 男女平等というよりも人として皆平等だということを伝えたいと思います。男でも女でもそれぞれの才能を発揮できる社会で(家庭でも地域でも)あったらいいと思います。
- ・ 間違いが多くて見づらいいと思いますが、申し訳ありませんでした。これからも協力させていただきたいと思います。
- ・ いじめや虐待のない社会生活が送れるような取り組みをお願いいたします。安心して子育てができる日本になるよう高崎市が見本となることを望みます。
- ・ 人は自ら自分の性を選んで生まれたわけではない。選んでいないのに現実では性によっていろいろな格差を受けるのはおかしい。男女共同参画、男女平等かつてはウーマンリブ運動と言いつつ内容が違っても内容は同じ。同権を唱えることそのものが格差を意識していることと捉える。あえて性の別を意識しなくてもよい社会おごりのない社会を望む。性ではなく人として生きたい。
- ・ 男女の性差にかかわらず家庭ではそれぞれの得手不得手で共同し合えばよいし男女平等ということで女性を求めている場所に逆に男性が進出してしまうのもおかしいことだと感じています。
- ・ お父さんのおっぱいに吸いつくのではなくお母さんのおっぱいに吸いつく赤ちゃん。父には父の母には母の役割。人間も動物であることを決して忘れずに、女性の自立を考えなければ日本がだめになってゆきます。暖かい家庭を作ることをもう一度大切に考えていきませんか。女性の社会進出、まず母子家庭の女性に協力してはいかがでしょうか。
- ・ ところどころ設問に「女性の」という書き始めが気になりました。健康増進は女性に限ったことでしょうか。
- ・ 娘が寝たきりなので、高崎市が障害者介護に力を入れてますので助かります。
- ・ 効率的な行政の運営をお願いしたいと思います。
- ・ 男性女性それぞれ与えられているものが違うのですから、全て平等ということを強制することはあまり賛成ではありません。それぞれの特性を生かした上での平等であって欲しいと思います。父子家庭で父親が病気の家庭とか、援助とかはあるのでしょうか。母子家庭と同じ補助とか受けられれば納得しますが。
- ・ いくら優秀な人材でも出産があると休暇を取り、居づらくなります。少子化を食い止めるためにも安心して仕事に復帰できる環境が必要だと思います。夫にも協同・協力をするという認識がなさ過ぎるのが現状です。女性が子どもを産んでも安心して子育てできる高崎市であって欲しいと思います。
- ・ 小さい子供がいて、病気等で仕事を休まなければならない。国立病院で見てくれるとのことだが、手続きが事前に必要。当日の朝必要とすることが多いのに。手続きが面倒で意味がない。
- ・ 女性であることに甘えない。1人の人間としての責任感や義務といった心を育てることも大切です。これからの子ども達に。
- ・ 問22を見てびっくりしました。10事業を全く知らないからです。もう少し勉強して、情報を集めなければ意見といっても役に立つ有意義なものや要望になりませんよね。

男性	40－49 歳	・ 男女平等になることはよいことだと思うが共働きが当たり前で、そうでないと生活していけないような現実では、結婚や少子化などの問題も解決しないのではと思います。
		・ 専業主婦(夫)の法的援助。自分の子供は自分で育てる運動促進。地域に主婦(夫)と子供が常時いることで町を安全にし、コミュニティが促進される。
		・ 男女平等ですが、女は女らしく各人の能力を生かした社会、家庭、教育をもっと考える必要があるのではないですかね。
		・ 子育て支援の充実を図って欲しい。小学校卒業までは家に帰ったら「お帰り」などの返事が帰ってくる家庭が理想。「お帰り」は父親でもかまわないと思うが、共働きのしなくても子供が大学を卒業できるだけの十分な支援等を図って欲しい。
		・ 上記質問の中にはその他で書いては難しい問題であったりすべての項目が重要であったりして、当てはまらない答えが合っても○を付けてしまいます。上記質問の中に相談支援の充実という言葉がたくさん出てきますが、私は以前市役所に二度相談をしたことがあります。一つはおばさんのことで生活保護課にて相談しようとしたとき「面倒をみる子供もないのになにを相談するのか」と管理職の方が部下に言って相談になりませんでした。もう一つは架空請求ハガキが届いた時生活センターの方に「あなたのことを私は知らないから架空かどうかわからない」と言われました。その後私は市役所担当課に相談するという気になっていません。市役所の枠組、組織、取組というようなものを考えると同時にそこではたらくことでいかに問題を解決できるかを市役所職員個人がそれぞれまじめに考えていくことも大事ではないでしょうか。
		・ 男女は平等であり共同参画は当然であるが、男女にかかわらず個々の能力に差があるのは当たり前で能力差を何でも差別だとしてしまっている。
		・ このアンケートを読んでいて女性は今現在差別がひどいけどあなたは思う？というアンケートのようでした。
		・ 昔は近所のおじさんおばさんに悪いことをしたら怒られていいことをしたらほめられて兄弟とけんかをして痛みをわかったり弟が誰かにやられたら助けたりした。今はコンピュータの世界で痛みがわからない。だから平気で殺人を犯してしまう。国が教えないとだめ。昔の思いを皆忘れている。心が無い人が多くなっている。自分さえ良ければとか金金金の人が増えている。人のせいにしてはいけないことをきちんと教えないと国がだめになってしまう。
		・ 問 9、16、17、20 等質問の内容が本主旨とはまったく関係がない事項が含まれているように感じる。本来のアンケートの内容として回答をする側として聞いてくる事項に疑問を感じたのは私だけであろうか。
		・ 公務員の方は今の時代は幸福でしょうが議員さんのモラルもしっかり監視してください。調査費等を市民に公表してください。
		・ 義務教育における家庭科、道徳教育思いやりの心を育てることが急務と思います。
		・ 女性問題に限らず広く社会問題に関しては行政側の法的整備支援に加えて CSR(企業の社会的責任)が昨今叫ばれていますように企業側の意識改革も必要なのではないかと思います。
		・ 男女の差がなくなるほど問題が多すぎる。
		・ 中学になっても男女同じ教室で着替えをさせる時男女の区別と差別を取り違えたりまた端午の節句や雛祭りも差別と判じる過激なジェンダフリー思想は絶対に受け入れられない
		・ 人間皆平等男と女の役割が違う。
		・ 本当に困っている人の力になれる市になって下さい。
		・ 男女共に安心して働けるようまた共に子育てが出来る様にするために職場家庭地域医療(小児の夜間等)保育と様々な環境を改善充実させることが必要だと考えます。
		・ 地域性が男女共同参画へのポイントと思います。全国一律の制度等も必要ですが、地域ごとの特色も加味し木と森の両方を見ていく視野が重要と考えます。
		・ 女性と男性ではもともと平等になりえない。それぞれの違いを意識したところから本当の男も女も住みやすい社会ができると思う。
		・ 平等の意味をはき違えないこと。それぞれに意味が違うので男だから女だからということではない。仕事かではなく、人間的に平等な教育何をもって平等とするかこの当たり前の考えを前向きに啓発していくことが大切。
		・ お役所仕事に期待していません
		・ 今回のアンケートも大切なことだと思いますが、それ以前にもっと住みよいまちづくりをして欲しいです。生活道路にての交通マナー、スピード等、また、暴力団事務所があるため治安が悪くなり心配です。
		・ 市からのアンケートにはなるべく協力するようにしていますが、その結果やその後どのような形で反映されているのか全く分かりません。何となく無意味なのではないかとの感があります。
		・ 設問の中でいくつか内容の意味が分からないものがありました。目下の人に問いかけているようにも思います。また、市(役人)は一般社会の(女性の)就業状況をもっと理解して欲しい。
		・ アンケート内容の意図がよく読み取れない。
		・ 男女平等を考えるとともに、家庭環境の充実を図ってください。
		・ 東口の体育館は稼働率が低い。直ぐに売るべし。美術館が多すぎる。税金の無駄。一度も行ったことが無い。合併後の市職員の削減(やらなくては意味がない)。
女性	50－59 歳	・ 男女が全てにおいて平等になる必要は無いと思う。お金はいくらあっても足りないと思う。女性は働くよりもっと家庭を大切にすべきです。また、共働きの女性に出産を進めるためいろいろと対策がされていますが、家庭で子育てに専念している親達の対策を考えてあげてほしい。お金よりも子供を大切に思っているのですから。子育てが落ち着けばまた働けます。市民の意見を言える場所を作ってほしいです。
		・ 男女共同参画は女性だけに頼る子育てだと思うのです。介護の問題も女性に頼っています。これらの点を、重点を置いて改善して欲しいです。男性の意識改革が必要だと思います。
		・ 高崎市が大きな市となり、ますます発展していくことを希望します。

- ・ 問 22 は高崎市になったばかりで内容がよくわかりません。
- ・ 広報が非常に読みにくい。表紙が暗く読みたいと思う気持ちになれません
- ・ アンケート意見だけでなく、実現してほしいと思います。
- ・ 今、世間の人はあそこが悪いここが悪いどうしようもない、どうなるんだろうと言う人が多すぎる。これだけ大変な時代になったのだから、もう 1 つ 1 つ悪いと思ったところから皆で話し合っってよい世の中にしていって欲しいです。
- ・ 60 歳過ぎても働く場所を沢山作って欲しい。元気な人はいっぱいいます。何もしないで老人センター通いはいやです。
- ・ 各種事業が計画は出来ていても果たして実現実践がどこまで具体化しているのか実感できるものが余り見えてきません。旗振りだけで終わっているものはありませんか？
- ・ 高崎市もただ広くなっただけではダメです。市役所内の人員削減議員の定数減も今後絶対しなくてはならないのではないのでしょうか。各種税金知らず知らず増えていき市民の努力だけではダメです。市職員一人一人が考えるべきではないのでしょうか。市役所内はのんびりしたムードにいつも考えさせられます。
- ・ 最近では女性も一人暮らしの人が多くなりました。経済的にも大変ななっています。特に定年後にはとても生活していけるような年金が手に入りません。その辺の格差もなくならなければ男女格差はなくなります。
- ・ 仕事をずっと続けていますが、会社での男女の差を感じます。給与に関しても仕事の内容にしても違いすぎます。もっとやりがいのある仕事をしたいです。
- ・ 合併して町村の職員が市の職員になった。旧高崎市の女性職員の管理職の登用が少ない。合併で不合理を生じているのではない。平等に昇進を望む。しかし能力がないものについては昇進は無理と考える。
- ・ 問 22 に関してはまだ合併後すぐなのでわかりません。これから勉強していきたいと思います。
- ・ 問 22 に関して具体例があれば知っているのかも・・・ですが全て身近に感じていません。
- ・ 地域密着型でいろいろなことをされることを望みます。
- ・ 遅れて吸収合併になったので不安な面もあります。沢山の情報発信をお願いします。
- ・ 賃金格差の改善を強くお願いします。
- ・ 現在は地域社会とのつながりが少ないが、今後は行政の講座等に参加したいと考えています。
- ・ 問 21 はすべてに〇をつけたいほどの問題提起でした。家庭や社会の協力なしに真の自由や平等は得られないと思います。
- ・ 何事においても一部の人がばかりが得をすることのないように行政を運営して行って欲しい。
- ・ 大きなバザーなどがなくなりほっとしました。税金等が高くなりこれからも上がる一方ですね。イルミネーションは毎年楽しみにしています。
- ・ 家庭の中で妻の仕事として家事育児義父母の介護を主に頑張ってきましたが、家族が行政が助けてくれたと思っています。行政が人それぞれに希望を与えてくれる子育てに、高齢者に子供達に支援をしていただきたいと思います。
- ・ 高齢社会になり介護施設になかなか入居できないと聞いております。まずは安心(値段介護等)して入れるような施設を作って欲しいです。
- ・ 職場に女性が多いと上にたつ人は女性のチーフではなめられます。上にたつ人は男性が良いと思います。
- ・ 市が問 22 の事業を行っていることを知らなかった。
- ・ 団塊世代は男性は仕事女性は家庭が標準でした。その世代に育てられた子供達は男女問わず家事能力が低いように思います。母親がやってやりすぎたと反省しています。
- ・ この頃の新聞報道を見るにつけ家庭のあり方があまりにもいいかげんになってきたのではない、子供が悪くなっているがその子供を悪くしたのは親、親と社会のかかわりをもう一度見直す時期がきたと思います。
- ・ あまり参考にならないで申し訳ありません。私自身毎日家にいる自由な身ゆえ男女共同参画社会には関心がありません。現在の社会女性があまり強くなる様は考えものだと思う。仕事熱心ゆえ子供を作らない人が増えるようで心配です。少子化又結婚減に不安を感じている一人です。女性が仕事をする現在の社会は経営が余裕ないと思う
- ・ 問 22 ですがこちらがアンテナが低いのか聞きなれない項目ばかりです。
- ・ 女性の社会進出といっても各自の家庭事情や積極的に参加することが好きな人もいれば苦手な人もいます。問題が抽象的すぎてうまく射た答えになっているかわかりません。
- ・ 要望、20 年には道路が完成し二つの橋もきれいになりつつあるのですが、前橋に向かって一番右に掛けられている橋(つり橋)みたいな近代的な橋が出来たらとてもうれしく思います。予算があると思いますが。(どちらかの橋でもいいのです)
- ・ 問 17 の質問は答えづらく大変だった。専念する優先するとは違う「協力する」という内容の結びがなく残念でした。
- ・ 市役所の一人一人がもう少し笑顔で市民を迎え入れやさしく接して欲しいものです。
- ・ 男女共同参画などということすら知りませんでした。
- ・ 少子化の原因の一つには女性が社会に出て働きやすくなったため結婚が遠ざかっているのではないのでしょうか。悪いことではないのですが、このままどんどん少子化になっていくのは不安です。
- ・ わからないことが多い
- ・ 毎日忙しい生活の中で自分が地域の活動や高崎市のこのような取組を知らなかったことを恥ずかしいと思いました。これからはもっと積極的に参加できるよう努力していきたいです。
- ・ パートナーから暴力を受けているという女性の場合を除いて社会全体的に女性は恵まれていると思う。何でも女性を優先的にという考え方は賛成できません。男性のほうが気の毒なことも多々あります。男女お互いにいたわりながら生きていきたいものです。
- ・ 回答を 1 つまでまたは 3 つまでという制約の根拠がよく分からない質問があります。どんな意味がありますか。問 7(DV 等について)は言葉の暴力の項目も欲しいところです。

男性	50－59 歳	・ 真の男女平等の社会、平和な社会が早く実現するように希望します。そのために一人ひとりの努力も必要だと思っています。
		・ 問 22 で高崎市が行っている事業を 1 つも知らなかったのにびっくりしました。ただ目を通していただけただけの広報ももう少し時間をかけて内容を見なくてはと思いました。反省。
		・ 自立して生きることが大切だと思っていますがそのためには経済的な自立が第一だと思います。男女ともにですが就労して社会的責任を果たすこと、そのための労働条件の充実を進めてほしい。格差社会がこれ以上進むようでは安定した社会にならないし、男女共同参画も進まないのではないかと思う。
		・ 最近、経営者の不本意な言葉に大変ショックを受けました。
		・ 難しいことは分りませんが人間男と女しかいないのだから互いにそのことを認識しながら共同的にとなるのではと考えていますが？
		・ 現在総合失調症の為 30 年通院しているが 4 月より有料になり限度 1 万の申請が必要。渋川市のように無料にできないか
		・ 市役所の職員の方々にもたくさんの方がおりますが、適材適所というか、あまりにも不親切な人がいたりするので不快です。
		・ 所得少なく生活に追われ「参画社会」考えられない
		・ 市民参加の推進。
		・ 市が行っている男女共同参画事業のことについてぜんぜん知りませんでした。このアンケート調査ではじめて知りました。ハモス以外の方法でも周知した方が良いでしょう。
		・ 何も知らなくてごめんなさい。これからもっと高崎市の事業に興味を持って接していきたいと思っています。
		・ 育児が終えて女性が再就職できる社会の実現と安心して子供を預けることの出来る保育所や学童保育の充実。それに携わる人材の育成を望みます。
		・ 箱物中心から各地域に平等に施設を作る。これからの高齢者社会を考えると大きな箱物を作るよりは各地域に色々な施設を作った方が利用しやすい。
		・ 互いに権利を主張しあうのではなくいたわりあう社会を作ることを考えて欲しい。
		・ 共働きをしなければ生活していけない現状では子供達は置き去りにされ本当のゆとりある生活などできるはずがなく、まして男女平等といわれても働く場所が限られてしまう。
		・ 女性だから優先するのではなく能力を優先すべき。市役所職員の共働きは優遇されるべきである。能力ではなく参画によるものは反対である。
		・ 女性が家庭、子育てよりも社会進出をする方が子供のためにはならないのではないかと。学校におけるイジメもなくならないのではないかと思う。
		・ 子供の頃から男女それぞれ自立性を持たせる教育が必要。また子供を育てるということの大切さを男女共に認識する必要がある。
		・ 残念ながら上記事業について一般名称としては目にすることがありますが、知っているかといわれると事業内容は何も答えられません。多くの人が同様では？トップダウンの周知ではなくたとえば家電製品マニュアルのように「〇〇で困ったときは△△へ相談を」のような具体的なガイダンスに触れやすくするのもよいのではないかと。
		・ 弱者や被害者の支援より加害者に対する取組を強化すべきではないか。悪いことである。人として行ってはならないことであることを強く意識させる地域社会の風土作りが必要。
		・ 行政の問題だけでなく、女性自身の世の中に対する心構えが必要だと思う。
		・ いじめや自殺がなくなる日本にして欲しいです。
		・ アンケート調査結果をいただきたい。ハガキでの「お礼ならびに回答のお願い」は不要と思います。経費の節減をお願いいたします(5,000 人×50 円=250,000 円プラス印刷費)。
女性	60－64 歳	・ 税金が高すぎる。老後年金で生活できない。保険料が高く医者にかかれない。
		・ 正社員と同様の仕事をしているのにパートの待遇が悪い。是非検討願いたい。
		・ 男女が平等でありお互い助け合って社会活動することは大変大事であります。男女を問わず自分よりの弱い立場にある人に対しては手を差し伸べるということを子供のときから教える必要があると思います。
		・ 女性が男性と同じように社会参加するのは当然だが現在の社会の問題を見ると、子供を家庭で守ることが最優先ではないか。少なくとも小学校卒業までは母親が家庭にいてもらいたい。
		・ 男女共同参画課という課があることを知りませんでした。ここに8名の女性がいます。誰も知りませんの返事。男女平等等広報紙ももっと皆が目を通すこと、目を通してなるように作ってください。
		・ 母子家庭が多くなり支援の費用など多額に税金が使用されているが、少子化とはいえあえて母子家庭を選ぶ若者が身近にいるが支援することにより増加するのでは・・・その分これから高齢者が増えるのだから介護の方に税金を使っていただきたいです。そうすることにより男女平等にもなるのでは
		・ テレビニュースで気になること私達よりも教養も地位もある人弱い子供事件が多すぎる。62 歳で思うことこれ正しい正しくないと定めた教育でなくたまには太陽を見て手を合わせる事のほうが大切ではないですか。気位が高すぎる。気位の低い教育を望む。
		・ 男女共同参画に関するアンケートに答えていて知らないことが多いのに我ながら恥ずかしくなりました。年代によって色々な意見があると思いますが、女性ももっと世の中を勉強した方が良いでしょう。
		・ 私ども孫と同じ敷地内に同居しております。私共夫婦が孫を預かってみております。両親共働き保育所へ入所させたいのですが、保育料金が高いとの事。一考して欲しいです。

男性 60—64 歳

- ・ いろいろな事業を高崎市が行っているのですが、知っている人は知って活用していますが、全然知らない無関心な人が多いのではないのでしょうか。誰でも気楽に参加できる企画が欲しいですね。顔触れがいつも同じ様な方がいらっしやいます。
- ・ 年金が減られ続け残念です。今迄は年上の人のため何十年もかけてきて頂く時には相談なしに減られこんな世の中はありあもなく高齢者は可愛そうだと思います。月に4万くらいで大変ですよ。60歳から頂き一人だけのお金それでも減られています。
- ・ いじめのない学校老人の住みやすい高崎市に。合併してよかったと思える市政をお願いします。男女共同良い社会になりました。
- ・ 日本ではまだまだ男女共同は難しいですね。今の30代の男女は共同参画になりつつあります。なにしろ男性はしっかりして下さい。仕事もなるべく長時間を避けて家庭の中に入って行って欲しいです。
- ・ 弱者に光を当てる行政をお願いします。
- ・ 人権は平等ですが、性差はあります(男の役割女の役割)それ等を踏まえうえでの参画は大切です。今聖職といわれる人達のレベルの低さと子育て世代の礼節の無さを思うとき、人の心の貧困を感じます。実現に向けて正しい方向に進むことを願います。
- ・ 保育育児介護等の施設の充実を願う。
- ・ その時々で男女の平等さが違ってくと思うが、一人一人の人権を大切にすることが一番でその場で助けられる人が手を貸すための充実を図ること
- ・ どんな良い「男女共同参画」方法があつたとしてもそれに参加しない人(自分を含めてですが)絵に描いた餅にしないよい方法を考えていただけたらと思います。
- ・ 以前勤務していた会社は男女の差が非常にあった。特に男性上司は能力がないのに出世するから優秀な女性社員の足を引っ張った。又今問題の子供のいじめは早急に国を挙げて改善しないと大変なことになると思う。特に教育者(先生から政治家まで)は保身のために隠さないで欲しい。
- ・ 毎日仕事と生活に追われていて問22の1～10は勉強不足で解りませんでした。これからは色々なことに勉強していきたいと思います。
- ・ 職場から離れて大分経ってしまい少々のんびりした生活習慣が身についてしまいこんなアンケート用紙を送付いただきましたが、お役にたつのか心配です。関係者の方々御苦勞様です。失礼いたします。
- ・ 高崎市の行っている事業をあまりにも知らないのに驚いています。広報はよく読んでいます。方だと思っていました。が・・・わかり易く知らせてください。
- ・ 少子化の折子供一人に対して現在よりもっと長く援助してあげれば安心して子供を産めると思います。
- ・ この一ヶ月、夫の病気、息子のケガ等で替わっての仕事があり、今日も寝る時間を削ってのアンケート書きです。午前0時をまわっています。お勤めの方のようなのんびりとした時間はありません。
- ・ 若い女性はもっと良妻賢母教育をするべきだ。
- ・ 男子は男子の特性があり、女子もまったく同じであるからそれをないがしろにするものは好まない。特性を考慮した共同参画社会を望む。
- ・ 問22を見てわかるように、あまり関心がないのが実情です。しかし、今では女性進出が目立つようになり、ほっておいでも自然に進出してくるようになってきました。ただし全ての分野に平等に進出と意気込むよりは女性自身の力をより発揮できる分野をさらに充実させるのが望ましい、そんな気もしています。
- ・ 私がこういったアンケートに答えたことがなかったので少し戸惑いを覚えました。が、本当の意味の男女平等、女性の健康増進、明るい市政を望みます。
- ・ 男女平等とは女性を優遇することではない。女性自身の力と自覚を促す。男の暴力のみ取り上げるが最近では女の暴力も増えている。
- ・ 男女共同参画社会は大変良いことですが、男女本来が持つ違いというものもあると思っています。過渡期だからでしょうが、場合によっては女性が優遇されている面も多々あると感じています。それぞれの違いを生かした社会を作ることが大切だと思っています。
- ・ 息子が小4か小5の頃ひどく叱った事がありました。叱った数日後「お母さんあの時感情で僕を叱ったね」と言われた時ドキッとしました。かんがえてみるとそのものズバリでした。その時の事情を話したとき「わかったよ」と言ってくれました。私は素直に息子に謝りました。その息子も二児の父親となり頑張っています。親も悪い時は謝れば子供はわかってくれます。今でもその時の事笑い話のように話すこともあります。
- ・ 問22に関して言葉の意味は理解できますが、具体的活動内容が解りません。
- ・ 学校内(イジメ)に取り組んでもらいたい。女性が安心して働けるように。
- ・ 児童手当をもっと増やして欲しい。(その家庭の収入にあわせた金額)オムツは月1～2回買うが、1ヶ1,500円はする。
- ・ 問22はゼロデス。他の質問も選ぶのは悩むほど大事なことと思う。平等も大事だが、「男らしさ」「女らしさ」も必要と思う。
- ・ 合併による都市部と農村部の人間的交流を深め本当に人間として生まれてきてよかったと思う社会作りのため市は尽力して欲しい。
- ・ 私自身も知りませんでしたが、周りの人数名に聞きましたが問22の高崎市が行っているという1～10の事業内容を詳しく知っている人が小鳥もいなかったのに驚きました。

女性 65 歳以上

- ・ 高崎市におけるいじめ問題や女性の参画共同社会事業について市民に具体的内容を公表して中味を知らせることが大切であり教育委員会の子供相談について信頼される対応をすべきであり又子供が親に相談したとき障害を取り除く方策を講じなければ子供は大人を信頼しなくなり、これらは子供の問題ではなく教育にかかわる者の保身や名誉のために隠蔽するような態度が現在の情勢を作ってしまったと思う。
- ・ はじめて知りました。私はパソコンをもっていないので情報などがなかなか伝わってきません。
- ・ 男性女性それぞれの特性を活かしお互いに理解し協力の元男女共同参画を推進していただきたい。
- ・ 男も女も人間として生を受けたことは平等であるが、男は男としての役割(種)女は女としての役割(畑)子を産み育てるこの基本をないがしろにしてはならない。その上に立つての男女共同社会であって欲しいもの。
- ・ あまり共同参画という文字に惑わされることなく男女平等ということを第一に考えおけばよい。でも男は男らしく女は女らしくということを忘れては絶対にいけない。
- ・ 私は未婚ですが、妹夫婦を見ていると二人が何をするにも共同で行い時には夫が家事をしたりと協力しています。世の中もこんな風だと波風も立たず平和になると思います。市の方も努力してそんな高崎市にしてください。
- ・ 市民と行政が一体となって地域における男女共存社会の実現が推進可能。
- ・ 社会全体が自然にその方向に進むには一歩ずつでもこのようなことは必要ですね。
- ・ 男女共同参画社会をあえて強調する必要はない。自然体で男女共同参画となるような環境作りが必要である。
- ・ 男女共同参画社会の実現について、漠然としか思っていなかった。公務員の方は少しずつ進んでいると思うが、一般、特に中小企業では男性でもサービス残業、ノルマに追われ、現実には遠い道のりだと思う。先ず経営者の意識改革から手を付けなければ、理解しても現実には難しいと思う。
- ・ 各種審議会の委員の選出について団体長の当て職が多い。長い期間就任しているとマンネリ化してしまう。その午前中に〇〇審議会、午後は〇〇審議会と、場所と審議会名は変わってもメンバーは同じ。市民の批判が多いのを知ってほしい。
- ・ 男女共同参画事業はしていますがどの様な人達が参加しているか知りません。10 事業も初めて知りました。市民に解りやすい内容をお知らせ下さい。
- ・ 市役所の偉い人が男ばかりなのが不思議です。今の時代片寄った良くない事柄ですし、どんなPRをしても口と実際とが異なっていると思うのですが、変化と進歩の為の改革を望みます。
- ・ 私は 65 歳以上の女性。過してきた時代考え方が異なり新しい男女共同参画が始まり非常に良いことだと思います。今後時代を越えて色々と勉強したいと思います。
- ・ 男女共同参画は家庭の中からの重要だと思います。
- ・ 私はもうすぐ 80 歳になります。今の私にはなかなか書き終えるのが大変です。今私は家の仕事を手伝ってパソコンをやったり暇なときは縫物をしたりで楽しんでいます。あと小さな山に登ったり今も観音山を一周したりしています。
- ・ 問 22 の事業は皆似たような名称で聞いたような気がしますが、はっきり解りません。こんなに別々になくともある程度まとめた方が良いのではと思います。行政のスリムのために。尚本筋とは違いますが、行政の対応が地域によって格差があり当地区は公園、ぐるりん、下水道等取り残された感じです。男女共同参画も大事ですが、地域格差も解消をお願いします。
- ・ 意外と知っていないことが多くて迷った
- ・ 夫婦になって男性の給料を高くして女性は家で家庭を守る昔の生活に…女性が強くなるのは良い面悪い面がある家の仕事女性の仕事は全額では表せないものです。子供も男性も母親の愛に飢えています。
- ・ 69 歳の女です。これから先が心配です。主人が今年から障害者になり次男も生まれつき障害者なので私一人で頑張っていますが苦しい毎日です。
- ・ 高齢なので今まで私が育ってきた頃とは考えられないことなのでこれからの社会に向かってとてもよいことだと思います。男女共同参画計画まだ余り知られていないことなので新高崎市としても周知徹底に力を入れて欲しい。
- ・ 群馬県は全国でも自動車が多いため電車バスなどの交通にすることが少なすぎる。もっと本数や路線を細かく回りバス停などを増やして欲しい
- ・ 年金生活になって 10 年過ぎましたが、年々介護保険等の増額で少しずつではありますが、生活費が脅かされているように思います。
- ・ 国立病院の充実と拡大。前橋に比べ数が少ないような気がします。人口も増えたことと思いますので？
- ・ 高齢のため若い人が近所の人々との交流が全然ない。問 22 高崎市が行っている事業今知りましたが、足を運ぶ道具がなく、ぐるりん等停留所から離れているので参加等無視してしまう。
- ・ 市民が安心して生活が出来るようにお願いします。
- ・ 私たちの地域内には子供達や高齢者たちが一緒に集まる場所または敷地がない。運動や趣味等共に語れる場所が必要。公民館までは遠い。アンケートも高齢者には日々の変化が早くこれからの人達に期待したい。
- ・ 男女の差はどこにあるかを見据えた小さい時からの教育をして欲しい。
- ・ 80 歳近い一人暮らしの高齢者です。アンケートは難しい点もありがすも遠く足を痛めています。次回より 75 歳以上の人にアンケート送付しないようにお願いします。毎回同じ人に送らないで下さい。
- ・ 88 歳の老人の男です。農業が多い地区で食べていけない有様出稼ぎで子供教育大変です。嫁に来てても金はない子供つれ出で行ってしまう。嫁さんいる家は本当に少ないですよ。農村で一丸となり農業で共同生産して豊かな若い人が喜ぶような事業を組合でして欲しい。今はファームランド富で 10-15、20 とられて古い野菜は捨てられ、万引きは多いし教育は町人と同じ費用が大変。大学へ出すなら寝ないでアルバイトしなければだめ。
- ・ 合併になったばかりなのでまだ問 22 については知っているものがない。高崎市のはずれ過疎地までも行政が行き渡るように施策して欲しいです。

・ アンケートを取りっ放しにしないで結果報告が知りたいです。集計が出来ましたら新聞に載せてください。
・ 我々の世代は先がある、働けば自分の幸福の時代でした。これからの世代は一生懸命働いても先の見えない心配不安の時代です。大家族都市になりました。良いことばかりではないと思います。重箱の隅まで目を向け平等かつすみやかに行政を行うことを祝合併と同時に一個人として発展することを願っています。
・ 古い考えと思われませんが、子供を育てるにあたり小学校低学年までは親がしっかり抱いて見つめて育てて欲しいと思います。今の子供の抱える問題も親が子供の手をしっかり握り歩いていけば様々な問題も自ら解決するのではと思います。ハイテクの時代ボタンを押せばなんでも出来る子供たちは今本当に幸せなんでしょうか。
・ 高崎市のことがまだ知らない事がいっぱいあるので申し訳ありません。
・ 生活していく上に於いてすべてに充実した新市にしていきたいと思っています。
・ 私も 70 歳を過ぎてこのアンケートにお答えするのにずれがあるように思いましたが、お許しください。尚問 22 で、高崎市でさまざまな事業をやっているのに驚きました。これからの女性は幸せだなと思いました。
・ 高齢になり地域の活動にあまり参加せずただ周囲のかたがたにご迷惑をかけないように自分なりに健康に注意して生活しております。よろしく願い申し上げます。
・ このようなアンケートはもうちょっと若い方の意見を聞いたほうが良かったのではありませんか？私は年をとりすぎています。お役に立つかどうか？です。失礼します。
・ 問 22 の質問はほとんど知りませんで恥ずかしい次第です。
・ 現在の市長は長すぎ。新しい改善が全くなく自分自身で身を引くことも高崎市のためでしょう(自分のために公用車を使ったりしないように)
・ これからもあらゆる機会を捉えて男女共同参画社会の実現に取り組んでください
・ 自然体で全てにおいて対応してください。駅周辺や市街地中央へ皆が行きやすい都市にしてください。
・ 10 月 1 日合併したばかりなので市の行政施策についてはよくわかりません。
・ 市に市民部男女共同参画課があることも知りませんでした。
・ この働きがずっと続きますように願っています。
・ 問 22 について勉強不足で知りませんでした。行政からの PR をよろしく願います。
・ 問 22 はまだ高崎市民になってから日が浅く解りません。少しアンケートが難しかった。高崎市の人間としてこれからに期待したい。
・ 高崎は大企業に女性が就職できる人が少ないので小さい会社等でも子育てしながら就業できるように行政が配慮してもらいたい。
・ 毎年 12 月はアツという間に終わってしまうので、11 月に大掃除や雑事をするのでアンケート調査は 5,6,9,10 月くらいが良い。気ぜわしく落ち着かない。空っ風の季節でもあり。
・ 男女共同参画という言葉始めて耳にしました。勉強不足を痛感しました。
・ 私も高齢者で介護のお世話になっております。
・ 70 代後半でせつかくのアンケートに答えられない点だけで申し訳ありません
・ 男性は結婚できれば妻子を養うのは昔から当然な事と言われて参りましたが現在は共働きが多くなってきました。結局経済的に豊かになるためです。でも男子が安定した職業につければ種々な犯罪は減少すると思います。就業難なのです。
・ 年寄りなので別に考えることも書くことも別にありません。よろしく。生活に苦難しています。アンケートとは違いますが税金が増えて困ります。
・ 私(65 歳の老女)は自分自身の健康も気がかりですが孫達が将来大人になるとき現時点の世相は非常に恐ろしい自体が現れていて社会がどう変化していくのか心配です。
・ 談合横領で市民に迷惑を掛けないように願います。
・ 住み良い世の中にしてください。税金が高すぎる。年寄りに住みよいように。
・ 私どものような底辺の市民の視点に立って実りある施策を進めて欲しいと願っています。
・ 娘のことで、夫が死亡し子供小 1 年 5 年生をかかえ遺族年金で子供手当が出ないのをおかしいと思う。こんな状態で女性が子供二人抱えてパートで生活できない。国も市も困っている人をもう少し力を入れたらいいと思う。
・ 私達主人 82 歳私 75 歳ともに健康で今はおりますが、この先のことが心にかかります。
・ 市が企画実行している事業(問 22)に関し残念ながらひとつしか知っておりません。広報誌等の読み不足からかと反省しておりますが、もっと啓蒙方法等考慮願えれば幸いです。
・ 介護保険が高すぎます。介護を受けている人の方から多く取ったらよいと思います。介護を受けないで死亡した人は半分お金を返した方がよいと思います。
・ 結婚して子供が産まれ保育期間は女性が子育てに従事したほうが家庭生活においても子供のためには良いと思います。
・ 立派な事業ですからもっと周知させた方がよいと思います。
・ 質問が難しく期待する答えが書けませんでした。
・ 高崎市が行っている事業をもっと身近に解かるように周知徹底して欲しい。どのようなことがなされているか、まるで知らないのは無関心のためだけではなく、知る手段がないためだと思われるため。
・ 年を重ねており実社会に出てませんので○(マル)の数が少なくすみません。
・ 今回のアンケートは、個人的に理解できず答えが見出せなかった。年齢によっても同一事例の判断は違っていると思うのだが、的はずれの面が多々あると思っています。

男性 65 歳以上

- ・ 男女差別という言葉に隠れ、産休や生理休業が無視されようとする職場が増えることは、子どもの少ない現在の更に悪化になると思われます。子育て支援や女性の生理的保護のためには大切だと思います。また、差別だけでなく男女それぞれの個性を生かした仕事を選べるようになることが大切だと思います。老後も心配ですが、子供を産み育てられない職場にならないようにすることが大切だと思います。そのための産休や生理休業、子育て休業をとりやすくしてください。女性の体を守ることは男性にとっても大切なことだと思います。
- ・ アンケートの内容が難しい。もっと簡単をお願いします。
- ・ 男と女は同じ仕事をするために神はつくっていない！よく理解すること！公共の場で女性と男性のトイレの数が同じとは言語道断。
- ・ 問 22 について、勉強不足のため、聞いたことがあるような気もしますがはっきりわかりません。申し訳ありません。
- ・ このようなアンケートは男女別に無作為に行うべきだ
- ・ 農業の工業化は女性の働く立場を増やしワークシェアリングもできるだろうと考えるべきだ。家族農業が崩壊している。立て直すことが重要。生産手段としての土地が死んでる。有機野菜を沢山作って朝市等で市民に売るようにすれば女性の働く場は増える。
- ・ 上記高崎市が行っている事業について一つも知りません。回覧等で見たような気がしますが記憶にありません。
- ・ 動物愛護も結構な話ですが、完全に「徳川時代御犬様」になってしまった。人間が殺害され犬・猫・猿等獣が洋服や着物をまとい高崎市街の道路がウンコだらけ。毎日クソ掃除です。何とかしてください。
- ・ 1-15 までどれを実行するか複合的なものだから、それが行政でしょう
- ・ 高崎経大が創立されて以来文化都市を目指しているにもかかわらず道路整備が昔のままの状態自転車通勤する学生歩道も自転車道もないし道幅自体が狭すぎる。公立大学を地域にある高崎市としてはもっと文化都市として力を入れて取り組んで欲しい。事故が起きてからでは遅い。
- ・ 今回のアンケートは市民部に限らず他部にも関連あり共通認識を感じる。市民 5000 人 × @80=40 万円は無駄と思う(他の方法もある)。ふえ吹けど踊らず市民意識はアンケートのレベルにいたっていない。集計結果を広報誌、インターネットで周知されたい。
- ・ 男女共同参画は男性の理解が第一である。女性の方にも正しい理解が必要。女性が男性と同じになるのではない。
- ・ 近年女性の社会進出は著しいものがあると思いますが、一方で少子化が進み日本の将来に不安が残ります。国全体での解決策の検討が急務だと思います。
- ・ 市の広報等で問 22 の項目の PR をした方が良い。
- ・ 年寄りを対象にした健康維持のための体操を各町内で始められるようにして欲しい。
- ・ 地域社会に関係する男と女の係わり方を昔からの歴史から学ぶ必要はないか？現代社会と対比し現代に問題点はないか？すばらしい日本食伝統衣装文化祭り etc に大切な役割を果たした女性を忘れるな！！
- ・ 私の年齢では良くわかりません。一年に心臓の手術を 4 回して今はリハビリで頑張っています。一級障害者です。
- ・ 1. 昔と今をよく自分で考え、2. 時代が悪いとは各種団体をもっと小さくする、3. 公務員はもう少し手続きをする事が出来るよう
- ・ 安心して子育てが出来るように主婦については変則的な就業形態を採用すべき。時間帯 9:00～14:00 程度として愛情を持って子育て・教育が可能な環境作り
- ・ 障害者対策がどうも希薄のように思われる。恵まれない一人では生きられない人達にもっと力を入れてください。
- ・ 1～5 子供の教育は経済が先行し可能ならばのことになる。1～8DV は起きてからの事より起きないようにしてほしい。1～1 職場でも数年前の時でもほとんど平等であったと思う。
- ・ 風雨や寒い日暑い日幼児を安心して遊ばせる施設がほしいと思います。例えば児童会館とかで遊具や運動施設と指導者、読書(読み聞かせ等できる)部屋のある所があったら育児ノイローゼ等解消されると思う。
- ・ アンケート調査した結果の集計を広報に載せてもらいたい
- ・ 結婚をしたいという男女の適齢期にあってもその機会に恵まれない人達のために近県又は県内市町村の社会福祉協などは更に更に親身になってその人達のためにご協力して下さいを祈ります。
- ・ 大きい家に一人です。狭いよりよいですが、掃除が大変です。一度こちらにきたら寄ってください。
- ・ 今いじめの問題でこれからの日本を守っていかなければならない小中の子供達が尊い命を無くすのは絶対あってはならない。高崎市としては日本一に取り組んでもらいたい。
- ・ 私儀この度沢山の人口の中でアンケートに参画させていただき市政のアンケートに協力できず申し訳ありません。
- ・ 上意下達でなく下意上達の未来の人材育成に意を用い出世主義の人材は見捨て正義ある社会の連携に向けて欲しい。
- ・ 学校家庭地域の連携。若い人年配者地域の助け合い。夫婦親子で誰でも参加できる場。
- ・ 私は旧群馬町の住民だったので高崎市の住民としての誇りなど自覚がありません。積極的な啓蒙をお願いしたいと存じます。
- ・ 問 22 についての事業は知らない
- ・ 75 歳以上の高齢者はこのアンケートについて答えづらい。内容が詳しく理解できない。
- ・ なんでも努力してください
- ・ 女性の社会参画への機会が少ない。社会が均等に受け入れられない障害があるので男女共同参画計画を策定するのだと思いますが、この 10 年女性の社会進出は大幅変化しており、逆に男性の方の意識改革が必要になってこないか心配である。
- ・ 高崎市が住み良い社会になるよう切にお願いします。

性別・年齢不明

- ・市は観光事業に力を注ぐべきだ。観音山を開発して立派な観音様もあることだし道路を整備して観光バスがどしどし入るようにしたらどうか。市に金が落ちるようにすべきだ。宝の持ち腐れである。あんな大きな庁舎を建てても金にはならない。
- ・健康な体健康な心を作り安心できる家庭であるようお願いしたい
- ・女性の社会進出が当たり前「特に」という社会でなくなりますことが良い社会だと思います。男女半分半分の世の中ですからと思います。
- ・年金受給者の介護保険金の納入について。年金からの天引きは考えてもらいたい。大変生活に支障するのでお願いしたい。
- ・中心街の人口の減少を考え公営住宅で子育て年代が安心して生活できる環境を作る。広場緑地を確保し多目的に使用する。歴史的価値あるものを大切に。自然の恵みを生かす。住み続けたい高崎であって欲しい。
- ・税金が非常に高すぎる。無駄な使い方が多すぎる。もう少し上手に使うべきで納税する側も限界である。
- ・合併してまもないので市で行っている事業は良くわかりません。広報等で知り徐々になじんでいくつもりです。
- ・問 21,22 は不勉強でよくわかりませんでしたので〇はつけませんでした
- ・介護保険金を支払っても認定の差を感じる。民生委員は一度も来たことがない。男 76 歳女 69 歳雨水溝が狭いため上流から流れる水がのみ込めず家の庭に流れ込む市道なので考えてほしい。
- ・長寿センターの土日の運営をしてほしい。60 歳以上で働いている人に開放してほしい。旧市で7センターの交互でもよいから市民のために必要と思います。官民の差をなくすことと介護保険のためにも・・・
- ・石原町に住み始めて2年余り、周囲との交流が取れずにいます。
- ・この格差社会の中で、生きる前提があやしい時に、男女平等も上の空になります。
- ・土曜日の学校の休日をやめる。
- ・我が家では妻の収入で電気、ガス、水道、衣類等一切を支払い、私の収入は固定資産税(1回が30万円以上)と家の修理等にして、残りは積立を楽しみにしています。今の世の中は夫婦して健康に注意してともに長生きしていくのが良いと思います。女性無しでは洗濯、掃除、食事ができないので生きていくことが難しいです。妻の知恵で家の中を明るくするのが良いと思います。
- ・表面には見えないもつと底辺のくらしに目を向けてほしい。声を上げられない人たちも多いことを知ってほしい。
- ・いろいろな事業をはじめて知りました。
- ・子育てはどうしても母親の負担が大きくなってしまおうと思います。働く母にとって会社が休みづらいのが一番イヤです。休みが多いと退職せざるを得なくなってしまう。母親の立場の理解を会社に対して教育していただきたいです。(たとえば子供の学校行事での会社を休む際有休等は使わず免除してもらう)会社の都合で働きたくても働けない女性は沢山いると思います。女性にとって出産はとても大きな事幸せな事です。しかしその後社会に出て社会のあり方で納得のいかないことが多々あると思います。母親が一人の社会人として働くには周りの理解が大きいと思います。
- ・高齢者の私には無理なアンケートでございます。
- ・男女平等はまだ遠いと思う。
- ・アンケート依頼後のお礼状の無駄遣いを他に利用していただきたい(福祉とか特に老人に)
- ・女性に甘いアンケートであった。
- ・戦後男女平等でしょう。いまさらその意味がわかりません。ここに書いてある質問全部わかりません。
- ・現今の児童(小・中・高)教育・学校生活の問題、群馬県内 2700 件(いじめ)発覚問題にもかかわらず、男女問題を合併議会(高崎市)として第一に提議、主題にするの正しいか？女性を償賛するが故に家庭内の規律の乱れが日本の伝統文化の崩壊によって、子育ての責任の回避により子供の犠牲を出し、粗父母と同居も嫁の考えが高揚され男が律々しくいけんや行動力が低下して、家庭内のコミュニケーションが取れず目標、尊敬、信頼する物がなく、女性の言動が最近大変あらゆる面で、目を覆う点を感じるこれ以上、男女平等・共同等々と大変、よってアンケートに関しては回答しません。(原文どおり)